



千書摘英

悉采群書要領為初學啓蒙者

醫道日用綱目

如欲探本求源當別考諸全書

長生寔藏

增補

醫道日用重寶記序

此醫道の玄妙多しと告ぐると
 測ぐ博學の審問師弟傳受と
 るふのやん何れ其精緻極ると
 と得んやめに醫道重宝記ハ片野の
 庸醫のたのむ醫道に志する俗家の
 人のふ古人此書著と始めハ此
 診とるれ大法の之藥性の樞要頭
 中の病因論寒熱虛實辨して
 方よりらる意記并に加減の
 例を出して要劑數種載て
 の丸散煉藥數品の名方雜方あり
 未ふの日用調菜の食性能毒及の針
 灸の要定ありハ五臟六腑の圖解ふ
 わりて悉



冊の中は許多の至寶秘
 藏 傍邊の素生のさへり深に
 いひ問津より但剛剛人法千は
 撰寫手と百の久昔く謬誤ゆ
 のしり予 借踰か 俗と
 どし止に忍と即これと校正し粗
 増益し書肆ふらふ庶幾この
 書は類々薬用の考の誤多
 し欲と豈民と救ふ一助あり
 せん乎

昔 實永巳及季秋吉且

浪華 芳菊堂本郷正豊序



醫道重寶記 目録

△按摩導引の法 十一丁目

○五藏獨按摩の圖解

遺精自身按摩の法

△包紙の法式 十三丁

藥銘の作法指南 十三丁

○醫家之訓 十五丁 四知の法

○診脈の法并三部九候 十五丁目

脈と診の大綱と述諸脈の状と

註して主病と知死生と決と

二十四脈の要訣 十六丁

○七表の脈 ○八裏の脈

○九道の脈 ○七死の脈

○死証の視様 十八丁

○性要記 藥法 十九丁目

其要摘氣味功能修治に至るまで盡く是と記す

六陳新分量

藥方垂解 百七十五方

病門分り論と立て病因辨脈と奉病の吉凶と知り且寒熱虚實と明らめ察して方を用ふにれりて誤らざるを

△中風 二十七丁

八味順氣散 烏順氣散

防風通聖散 小續命湯

大秦丸湯 加減除濕湯

加減潤燥湯 勻氣散

△傷寒 傷風 胃 四丁

香薷散 參蘇飲

藿香正氣散 人參敗毒散

十神湯 八解散

行氣香薷散 九味羌活湯

外陽發表湯 疎實表湯

外麻葛根湯 不換金正氣散

小柴胡湯 大柴胡湯

小羌身湯 大羌身湯

黃連解毒湯 白虎湯

△中寒 四十七丁

五積散 理中湯

四逆湯 回陽救急湯

△中暑 井霍乱 四十九丁

五苓散 十味香薷飲

青暑疔氣湯 生脈散

△中濕 五十二丁

羌活勝濕湯 獨活寄生湯

△火証 五十二丁

涼膈散 外陽散火湯

清上防風湯

△內傷 五十四丁

補中益氣湯 外陽補氣湯

七味白朮散 參苓白朮散

△食傷 并痞滿 五十五丁

平胃散 香砂平胃散

葛花解醒湯

△泄瀉 五十六丁

胃苓湯 理中湯

胃風湯 中寒の理中湯
く別方あり

△痢病 六丁

行和芍藥湯 調和飲

參芪芍藥湯 真人養臟湯

倉廩散

△瘧疾 五十九丁

九味清脾湯 七味清脾湯

人參養胃湯

△諸氣 并鬱証 六十一丁

分心氣飲 正氣天香湯

六鬱湯 沉香降氣湯

△痰飲 六十二丁

二陳湯 瓜蒌枳實湯

咳嗽 杏蘇散

清肺湯

寶鑑瀉白散

△諸雜 六十四丁

消食清熱 化痰清火湯

△嘔吐付反胃 吞酸 呢逆

順氣和中湯 清熱豁痰湯

△丁香柿蒂湯 諸虛 百病 六十二

四君子湯 六君子湯

四物湯 八物湯

十全大補湯 滋陰降火湯

加味道遙散 獨參湯

△諸血証 吐血 衄血 唾血 便血

犀角地黃湯 加減四物湯 李杲

△積聚 七十一 加減益氣湯

△水腫 七十二 神中治濕瀉

分消瀉 神中治濕瀉

△黃疸 七十二

清熱除濕湯

△疝氣 七十二 三和散

吳茱萸湯 三和散

△汗証 七十二 參芪湯

當歸六黃湯 參芪湯

△眩暈 并健忘 怔忡 七十四

清量化痰湯 歸脾湯

△消渴 七十五

黃連地黃湯 小便大便閉結 七十五

△潤燥 七十五

△淋病 七十六 八正散

五淋散 八正散

△遺精 付 遺精 七十七丁

清心湯 參芪湯 丹証の參芪湯 といふ異あり

△頭痛 半萸白朮天麻湯

川芎茶調散

加味調中益氣湯

△心痛 付 腹痛

清熱溫胃湯 開鬱導氣湯

△脇痛 付 腰痛 肩背痛

△疎肝湯 通氣防風湯

補陰湯

△痛風 付 痺言 八十二丁

羌活湯 六防風湯

△脚氣 八十二丁 當歸拈痛湯

羌活湯 當歸拈痛湯

△眼目 八十三丁 滋腎明目湯

洗肝散 滋腎明目湯

益氣聰明湯

△口病 井 汗引 八十四丁

清胃散 玄參外麻湯

定痛散 清胃保中湯

△咽喉 八十五丁

清涼散 牛旁子湯

通關散

△耳痛 八十七丁 蔓荊子湯

滋腎通耳湯

△痔漏 八十八丁 秦尤防風湯

秦尤活湯

△脫肛 八十八丁

參芪湯 千証建精井此方 共二以異あり

參芪湯

△

外陽除濕湯

△癩癩 八十九丁

養血清心湯

△養老 一方

○外科

△癰疽 并諸毒 九十二丁

荆防敗毒散 十六味流氣飲

千金內托散 托裏散

△下疳 并便毒 楊梅瘡 九十三丁

龍胆瀉肝湯 搜風解毒湯

△疥瘡 九十三丁

外麻和氣飲

△瘰癧 九十四丁

五香連攪湯 益氣養榮湯

△損傷 金瘡 破傷風 五丁

導帶湯 菴活防風湯

白朮湯 大芎黃湯

○婦人科

△經脈 經閉 九十六丁

四物湯 八物湯 方六諸虛 門三あり

△崩漏 九十八丁

膠芥湯

△帶下 九十九丁

外麻滲濕湯

△產前 九十九丁

驗胎散 紫蘇和氣飲

催生飲 芎歸湯

△產後 百二丁

芎歸調榮湯 芎歸調血飲

○小兒科

△面部形 并圖 百四丁

△虎口之脈 并圖

△小兒之脈法 百六丁

△初生通用

甘連湯 加味五香湯

△急驚風 百七丁

加味敗毒散 鎮驚散

△慢驚風 百八丁

醒脾湯 補脾益心湯

△疳疾 百九丁

消疳飲 生熟地黄湯

△癰疾 百十丁

消癰湯

△痘瘡 百十一丁

十和解毒湯 透肌散

神功散 保元湯

起死回生散 內托散

回天甘露飲 消毒飲

△麻疹 百十二丁

犀角解毒湯 十仙湯

○丸散之藥 付雜方

常に用ひて効ありし丸散

雜方より出して急卒の用に備ふ

△丸藥 百十六丁

六味丸 八味丸

木香栝榔丸 紫金錠 万金丹

參朮肥兒丸 養胃丸

返童丹 豐心丹

錦袋子

△散藥 百十九丁

安神散

養神散

延命散

和中散

△氣付爛藥の方

百二十丁

蕪合香圓

延齡丹

丁子圓

△目藥

百二十七丁

家傳明目膏

洗眼散

△膏藥

同丁

万病無憂膏

△藥湯

百三十八丁

五水湯

十全湯

△日用食性百七十五種 百三十九丁

菜蔬瓜蜜魚介鳥獸に至るまで

とくくられし出し各々能毒

と詳ふし諸病の禁忌記

△鍼灸の西論

百四十二丁

○撚針の手法

○鍼法の補瀉

手法の補瀉あり虚實の補瀉

あり

○大推と定る法

○分寸と定る法

同指寸あり同身寸あり

○五臟六腑内經の圖

○五臟六腑の圖解

○仰人之圖

○伏人之圖

○側人之圖

△鍼灸の要穴

百三十九丁

穴と求るは法とくく記
鍼灸病と治とる乃効能と詳

○加減之例 頁五十六

氣血虛實風寒濕熱の諸証と
分つて盡くあれと記し加味す
者乃規矩とす

目錄畢

五臟之色體

肝	心	脾	肺	腎	膽	膀胱	三焦
木	火	土	金	水	青	赤	黃
酸	苦	甘	辛	鹹	目	舌	口
筋	血	肉	皮	骨	怒	喜	思
溫	熱	濕	燥	寒	憂	悲	恐

壽保按摩法

夫按摩ハ人虚損して血氣のあつた
ぶゆゆ病とあつたり人常に手足
身體と動搖とるは食物消し
とく血脈めぐり病生じると
張介賓の云く按摩ハ氣血と順と
要との傷と作さんとは欲と節
と緩して筋と柔けと調和
りの其病治とるれと今按
摩乃流と見りその利害と知ら
るくわつて手れかと極め人困
め關節のゆる人元氣と損とれ
内經の旨按摩の道理と知さるゆあり
後よるの処の蜀已按摩の圖解ハ自
身これを行ふのよ片玉の助とる

肝の臟の積聚風邪を去る

平に坐して
兩の手と相又
相挽く反覆
して胸に向う
三五度とす



膽の腑の風毒邪氣を去る

平に居る兩の
手をして兩の足
持かへらと叩る
次は兩の手を
足腕と持ち挽く
諸かきと三五度とす



心六腑のまづのいんを去る

両の手を
拳と多し
カと出さく
左ひと右の相
突く各六度とす



心胸の間の風邪を去り諸れ疾を除く

脚めて手此
中と踏と各
六度と久
目と閉と三たび津
の歯とカシとす



肺の藏の風邪積聚の風毒を去る
平々坐して兩の手を
疊々の身
縮め脊中を
曲めて向上る
と三々
と一



肺の藏胸臆の間れ風毒を去る
平々坐して拳を反り脊中を
挺し左右
各三五度
とて後を氣
閉目と閉とて液を
吞とて齒を叩て



腎の藏の風邪を治る
平々坐して
兩の手を
めがけ
左右より
脇へ引と
三五度と一



腎膀胱腰の間れ風邪を去る
足の前後を
ゆらし左へ
蹴し右へ
踏とて二三
度とすべし



脚の藏れ積聚風邪

とりの食とてい

大坐して片

足の又片

足と屈め

両の手と後と相又く

脊中と反抱し各三五度とへ



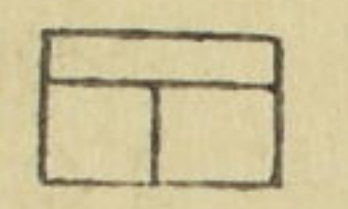
○遺精不禁と治むるに臥時ふ身と
屈めんと挽くくありて臥兩乃膝と
臍の所ふ締めたるのへ左なるの右よ
側ら臥し一両手と用て陰囊との
一乃手みて丹と汗の汗覆めて心と
よく静ふ臥へ一見精白と
と身と保川妙術あり

○包紙法式

薬箱の蓋と仰け其の包紙と

より右の方へ

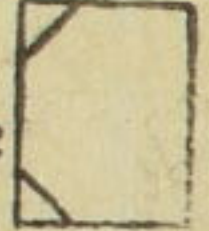
壓尺あてて



常の
道三家是



丸茶散茶の
此の包



半井流



五雲子流

○薬銘作法指南

包紙に薬方の銘と書て其病の
よりそれへの理まかあへる路の作
なり古きり付来る始へ書
と何湯何とて三字五字の畫
し四字嫌とあり左に記と
三九字と銘のかしに付て下り

湯の字飲の字とて中々相確
 と夾と銘と沃と入と中々夾と字と
 のは是は不作りてあまひの也

益
 黄
 心
 血
 胃
 精
 湯

養
 元
 心
 肺
 筋
 湯

寬
 虫
 中
 腹
 胸
 湯

平
 和
 氣
 中
 養
 湯

快
 心
 膈
 喘
 悸
 湯

消
 痰
 聚
 穀
 毒
 湯

安
 神
 虫
 榮
 聚
 湯

清
 暑
 心
 胃
 湯

驅
 邪
 風
 濕
 熱
 湯

補
 脾
 腎
 真
 元
 湯

順
 氣
 血
 通
 生
 湯

通
 滯
 腸
 氣
 滯
 湯

保
 兒
 中
 養
 元
 精
 湯

安
 命
 神
 心

調	溫	和	化	定	神	金	右湯
中	中	中	痰	神	機	玉	飲
氣	腸	解	毒	志	仙	德	丸
血	和	氣	積	心	聖	寶	散
養	腎	血	塊	源	授	石	湯
管	元	堅	中	喘	靈	丸	湯
脾	湯	飲	湯	散	散	丸	湯

醫道日用重寶記

本郷介之允止豊 編集

醫乃生死の寄とん敬まらん
 ありて人身の病苦我と異の
 あり召者わん急ふ去下貴賤
 親疎の擇りて薬料の多少と論せと
 專人治療を以て心せす又若と
 女は療治とるあ假とて載の
 辞と出とす脈と診とて血
 所ふ人ある時にとる下又いふ心
 易し人小頼とること胎と産と
 薬と調合とてくす
 四知の望聞問切是也
 病と治とる先病人の形色と
 望見と次は音聲と聞と扱利証

病因より尋問ハ其後脈
 診切し其病を察し
 縦ハ色赤ハ熱カク白ハ寒血虚肺弱
 カク黄ハ脾胃の虚カク青ハ痛カク
 黒ハ腎の實也聲カクハ氣虚聲
 重濁ハ風邪カク尿黄ハ熱清ハ寒鼻
 塞ハ熱涕ハ寒形瘦ハ虚肥ハ實の類
 又飲食の多少二便の
 通塞婦人ハ月經調ヤ否ヤ必問之也

診脈の法并三部九候

醫者の中指病人の掌後より
 高骨のりりたて是ハ関部とす
 左ハ肝と膽と主より右ハ脾と胃と
 主より食指のりりたて寸部とす
 心と小腸と右肺と大腸と候ハ無

名指のりりたて尺部といへ腎
 と膀胱と右命門と三焦と診と
 寸関尺の三部に各浮中沉の三あり
 之ハ三部九候といふあり
 浮ハ軽く浮めて六府候病表ハ
 めりしハ沉ハ強く按ハ沉めて五藏
 候病裏ハありし中ハ浮カク寸
 沉カク寸中より診と病半表半
 裏カク寸とありなり 掌後高骨



診脈

七表之脈

浮脈

芤脈

滑脈

實脈

弦脈

緊脈

洪脈

重く按へ不足指と舉ると有餘

病表にあり力有る風無力は虚

両邊實一中間あり葱葉の如

言の失血と主とる血熱と

動と珠の貫と絶と

血多と氣少と痰と吐逆と

大と長く堅と力あり

下利と主り熱嘔痛氣塞る

按にこらるる弓の弦の如し

拘急と主とる寒と瘧と

實數と力ありて

諸痛と主とる寒邪と

舉按と力極めて大あり

熱と主とる陽盛あり

八裏之脈

微脈

沉脈

緩脈

濡脈

遲脈

伏脈

細脈

極く細くと有る如く無と

氣血不足と瘧と

軽く按へ弱く重く按へ有餘

病裏に在る冷氣木病濕泄と

浮大と主とる軟く微と遅と

風結と主とる麻痺と

細くと遅くと竹皮と割ると

病洞と血滯ると多と痺と

息と脈來ると三至と極と慢と

虚と力ある痛力ある冷と

軽く按へ極く重く按へあり

痞塞と主とる物聚ると

極めて軟くと浮細くと

元氣虚くと力衰ると

非脈 極め弱く爛綿の如く力に
虚しく筋萎風熱自汗とい

九道之脉

長く多し辛の如く三焦の熱と主る
促し数ありて時小止む氣血瘀食滯
短く少し此も也氣壅り食消と
虚は尾大を軟に力乏氣血虚と中暑と
結は遅く時小止氣血瘀積痛とい
牢は強く鼓皮に按じ氣壅り骨肉疼
動は大豆の如く微動く虚勞血利とい
細は線の如く精神氣血多虚と
代は中止と還らりて復動少壯の死也

七死の脉

彈石の彈丸石を撃ごとく息數次第に
解索の藤の循まると散乱して次第に

雀啄の數急よ連來て鳥の啄ぐ如く
屋漏の雨漏の三滴して絶るる如く
蝦遊の蝦浮て動を瞥して去る復來
魚翔の遊魚の頭定る尾を揺る如く
釜沸の釜の煮沸る珠の浮る如く

死証察視

肝絶の非陥入盲の如く泣汗出く流を
舌卷の縮り爪甲青黒く目精光多く
齒齟の心絶へ肩を息し直視手足
の裏に紋多く熱多し舌短く口張
舌青く髮乾堅く麻の如く脚絶へ浮
腫泄利して無度唇及人中満唇口乾
焦を唇青く體冷遺尿食不見く背に
肺絶の口を張る魚の如く氣出く不反
胸中氣滿喘息皮毛乾焦と髮直毛折

腎絶、齒枯、熟豆の如く耳、目、口、鼻、
 黒色起り、腰重く痛て折らる如く、
 冷汗出く流を大小便通て失音、
 面小精彩多く土色、食を受て一切
 不言、入の縫、循床、摸り空、撮
 戴眼、尸臭く項の筋、舒久病出下
 神氣、守声嘶、大骨枯葉、大肉陷
 下、動作多し、衰、破、脚、目、人、と
 見、さ、ら、あ、死、さ、る、也、凡、病、人、の、色、青、と
 と、翠、羽、の、如、く、赤、と、雞、冠、の、如、く、黃、と
 ろ、と、雄、黃、の、如、く、白、と、豕、の、脂、の、如、く
 黒、と、重、漆、の、如、く、光、澤、あ、る、生、へ、
 若、青、と、藍、の、如、く、赤、と、橘、の、如、く
 黃、と、枳、實、の、如、く、白、と、枯、骨、の、如、
 黒、と、炭、の、如、く、精、彩、多、く、死、と

藥性 付製法

○葳灵仙 若く温腰際令て痛ふ
 積聚、痰癖、風湿、病に、通して
 用、の、芦、頭、と、さ、り、剉、し、用、ゆ、火、と、心
 ○茵陳 苦寒、黃疸、れ、主、藥、あり、湿
 と、去、水、と、利、し、熱、と、下、し、と、根、と
 ころ、葉、を、かり、と、用、ゆ、火、と、心、
 ○鹿茸 甘温、氣、と、ま、し、陰、と、滋、し、
 泄、精、不、血、崩、漏、帶、下、に、主、し、火、の
 上、を、毛、と、焼、く、と、心、
 ○交、明、と、甘、寒、湯、と、や、の、煩、悶、と、去、
 心、と、補、し、肺、と、清、し、虚、熱、と、解、し、内、
 心、と、心、と、り、剉、し、鐵、と、心、
 ○貝母 微寒、嗽、と、止、燥、痰、と、化、し、
 肺、癆、肺、痿、の、鬱、と、の、煩、と、除、く

心と帯と去對し姜汁のひじ
 田に干し火しわろ二つに片さる
 のに大毒あり用せしめ
 ○薄苛 味辛 頭目と清し
 風と疼と化し骨蒸のりらも
 葉のかりと日に干して揉碎し散せ
 するに去て用せ火し
 ○防風 甘温 頭暈と除る骨節の
 りと諸風口噤むに用せ米泔
 小一夜のし玉氣とわし頭を
 黒く皮と去對し乾し火し焙り
 ○半夏 辛温 脾と健くは湿と燥
 し痰厥の頭痛に嗽吐に用せ脾
 胃の湿痰と主し熱湯ふのじ
 しく洗し七八度ありて滑の

ろと火し乾しと對りて
 生姜の汁と四分一入て拌せ干し
 せしめあり
 ○白扁豆 甘微凉 轉筋吐瀉氣と
 中と和らり酒毒と化と水に
 浸し皮とむらに對し炒る
 ○麦芽 甘平 温宿食と消し心
 腹膨脹に血と行し滯と散せと
 炒り麦芽とついで去て對し
 てわろして皮とこり
 ○破故紙 辛温 腰膝酸痛に陽
 真し精と固し枝皮と擇こりて
 塩酒ふ一夜のし對し火し炒る
 ○人参 甘平 温大元氣と補ひ
 津液と生し渴と止氣と養ひ血と

調へ声頭へ去割へ火へ燉る鉄へ忌

○肉桂 辛熱血脉へ通へ腹痛ふ

痰血へ行へ虚寒へ温め補へるに

欠へへ粗皮へ去割へ火へいひ

○乳香 辛苦微温諸の悪瘡へ療

へ脱へ生へしへしへしへしへし

痛へ治へ木の皮石へへ擇去

そのへ割へ火へいひ

○肉豆蔻 辛温中へ温め食へ消

へ吐へ止虫へ殺へ瀉痢の久へく

休へくへ治へ麩の粉へこへて包

熱灰へ埋へ炮へて麩へ去打碎へ

用へ銅鉄共へいひ

○牡丹皮 苦寒血へ涼へ血へ行

へ経へ通へ血分へ熱へるに汗

へ骨蒸へこれへ用へ水沸へ小

一夜浸へて洗へ割へ焙へ鉄

へ忌若心のへへへへへへへへ

○牡蛎 微寒精へ洗へ痰へ化

渴へる汗へ飲め二便へかへす

火へて煨水へ入へく冷へ取出へ

乾へ粉へす

○鼈甲 酸平勞嗽骨蒸痰へ散

腫へ去痞へ除く酒へ浸へ炙へ

六七度へ焼へ脆へるへ打碎へ用

○獨活 甘苦頸項舒かへるに兩

足濕痺へ諸風へ除く土氣へ

のへ腐へこり割へる

○杜仲 辛温筋へ強へ骨へ壯へ

へ足腰のへしへし小便淋瀝へ用

粗皮より割き塩を入り酒に侵し干して糸れ尽るまで炒る

○知母 苦寒 熱渴を除く 骨蒸汗の多し治し 陰火を泻し 痰咳を療む 毛の皮を去り 割き焙る 鉄と息胃火を泻するに 八生すて 用の腎火を退するに 酒まで炒る

○陳皮 辛微温 氣を順し 膈をゆるく 脾を和け 痰を消し 米泔を一夜浸し 臍を裏に白くして 去り 割き日乾し 炒る

○猪苓 味淡 木と利し 淋を通じ 腫を消し 温を除く 黒く皮を去り 米泔を一夜のじ 割き乾し 鉄と火をいひ

○地骨皮 苦寒 肌熱を退け 汗有骨蒸に陰を強し 血を涼し 土氣を洗ひ 心をさり 割きあつ 鉄をいひ

○沉香 辛微温 氣を降し 胃を温め 邪を追腐し 削去すの 候 割き火を息し 丁子 辛熱寒 嘔を除き 心腹の痛に 胃を煖し 花と角とを去り 其 候 割き火をいひ

○龍膽 苦寒 肝經の熱を除き 眼の赤し 痛を治し 下焦温熱の腫を除き 膀胱の火を泻す 土氣を洗ひ 鬚を去り 割き 鉄火とをいひ
○良姜 辛熱 氣を下し 中を温め 轉筋霍亂冷積を破り 酒毒宿食を解し 毛と茸頭を去り 炒る

遠志 苦辛温神安驚止
 心鎮志強健忘治
 洗ひ芦頭去槌少碎心去判
 甘草湯ふ浸 乾く焙る鉄忌
 黄氏 甘温肺氣補ひ表固
 汗收め瘡托肌生と渴止
 厚熱解と蜜の水とせり
 灸と判と乾くと又腎補ひ下焦
 へ通とるに塩水に浸して右の如
 小くらあり
 黄連 苦寒心火と瀉と痞滿と
 除と目と明と 虫と殺と 虻と
 安と痢疾心腹痛に大腸と清と
 瘡瘍と治と芦頭と毛とと酒
 酒の浸と判と焙る

黄芩 苦寒肺火と瀉と痰熱
 嗽と止腸胃の熱と清と胎と安と
 腐と酒と判と酒ふ浸と乾と焙
 黄柏 苦寒腎火の有餘と瀉
 小便と利と火と降と陰と滋下焦
 乃濕熱腫痛に下血と骨蒸と治
 と粗皮と酒にの
 乾く色の付やれ炒る
 甘草 甘温脾と補ひ中と温め
 諸薬と調へ和く生ふて用と火
 熱と瀉と灸と裏寒と去粗皮と
 削去と判と焙る 葛根 甘平肌と
 解と表と發と嘔吐頭痛小胃と開
 と爵と散と渴と止と酒毒と解と
 土氣と丸と判と焙る 黄本 氣

溢寒濕、祛風邪、屏の太陽の頭
痛、治し、總、痛の巔頂ふのゆ
療、洗ひ、頭、去、剉、焙、
○香附子、其、苦、溫、氣、快、
痰、消、表、發、痛、止、
食、消、崩漏、止、の、經、調、
石、厚朴、苦、
溫中、溫、胃、平、け、脹、消、
瀉、除、痰、化、氣、止、食、消、
瀉、痢、治、粗皮、削、洗、剉、
生姜の汁、ま、あ、り、合、
日に干して、黒く、ある、程、炒、る、
辛、溫、暑、に、傷、つ、れ、く、小、便、
亂、水、腫、治、煩、除、氣、下、
熱、解、枝、こ、り、蒸、の、り、用、

火、息、乾、姜、辛、溫、中、
補、の、風、寒、濕、痺、腹、痛、
て、痛、小、風、寒、發、散、
後、大、熱、の、れ、用、ゆ、水、
の、剉、焙、る、
ら、剉、止、肺、飲、め、嗽、
粉、剉、
炮、
剉、焙、
心、腹、の、痛、
消、皮、削、去、水、に、浸、
の、干、て、焙、
○慧、奴、仁、其、平、濕、痺、
乃、拘、挛、治、肺、保、
癰、肺、痿、治、水、に、洗、

①のの擇去て判と焙る鉄と忌
②當歸 辛温心の補の血を生ト
瘀去新血を生ト中温腸
潤土氣洗ハ頭と去判と焙
○大黃 苦寒瘀血と消積聚と
除結熱と腸胃と通宿
食停痰と治その判と酒に
浸一炒る○大腹皮 辛微益切
乃氣下腫悶脹と消胃と
開中調水に浸一洗ハ
内の堅皮外黒皮と去毛を
かり黒豆の煮汁とてよく
洗ハ又酒とて洗ハ判と用
澤瀉 甘鹹微寒水道と通淋
瀝腫脹と治一濕と除熱と泄

と皮と去判と焙る○桃仁 甘寒大
腸と治一瘀血と破と經と通
血瘀と治と湯に浸一皮と尖と
去て坐と焙る兩仁と用るとあれ
③連翹 苦寒癰疽乃腫毒と消
六經の邪火と清く氣裏り血凝
諸瘡の痒と皆と治す瘡
家乃要藥なり枝と實の中れ心マ
と判と火と忌○蓮肉 甘平脾と
健ハ胃と理の心と清一神と養
ハ瀉痢と止の遺精と治と堅はして
二つに湯に煮ると煮るとふ
皮と判と判と手てあがり
④烏藥 辛温心腹痛脹に小便滑
れと頻るに脚氣疝氣之厥乃

頭痛婦人の血氣七情の鬱結を治
 氣の順との要藥也跡の細く
 堅く肝を去判焙る。茴香辛平
 脚氣疝氣腹腰の痛氣を下
 胃のあつめ命門の不足補ふ其
 多く判塩水に浸し乾くと烏梅
 酸温肺氣を飲め嗽を定め渴を止音
 清痰を去蛇を安と熱を退
 け酒毒を消と水れとひまぎく
 洗ひ蒸て核をこり判ひ

①滑石 甘淡寒小便を利し煩渴
 を解し心火を降し黄疸水腫脚氣
 を治し九竅を利し主菜なり
 粉し水飛して于堅め碎し用ひ
 ○藿香 辛微温中をのめ胃を

開き嘔吐を止心腹痛を治し氣を行
 風寒を發散と霍乱に是と主と
 と土破れたるを洗ひ判と乾る
 火を忌○瓜蒌仁 寒肺燥をうる
 痰結を除し咳嗽を安し火を降し
 渴をやめ傷寒の結胸を治し堅れ
 してその皮を去判と炒る鉄を忌

○瓜蒌根 天花粉と同トりの也
 功能天花粉の所ふるる米泔に
 浸し洗ひ皮を去判と炒る鉄を忌
 ②益智 辛温神を安し腎を補ひ
 脾を扶け食を進め遺溺遺精を治
 と皮を去布れ袋に入れて押揉障
 子と去と炒る

③麻黄 辛温表を解し汗を出

風寒頭身熱 脊強 咳嗽
 喘逆 治之根 節之去 剉之木
 煮之 沫之 去日 干之 焙之 蔓
 荆子 苦寒 目の痛 赤く腫 痰出る
 歯の痛 頭痛 頭昏 腦なる
 拘挛 湿痺 治之 諸怒の血 涼之
 頭目 清之 布 袋 入之 揉 白之
 衣 去 剉 酒 浸 乾 之 炒 之
 ⑨ 荆芥 辛温 風 去 汗 之 發 之 頭
 目 清 之 咽喉 利 之 瘡 治 之
 疥 之 消 之 婦人 血風 乃 要 菜 也 枝 之
 去 之 蕪 之 かり 用 之 火 之 息 之 玄
 参 苦寒 腎 補 之 熱 清 之 骨
 蒸 燥 渴 治 之 瘰 癧 癰 疽 治 之
 水 浸 之 白 く 強 之 所 去 剉 之 銅

鉄 之 之 思 作 之 之 坐 之 桂
 枝 辛熱 汗 之 發 之 皮膚 乃 風 次
 治 之 手 臂 入 筋 之 舒 之 也 粗 皮
 之 刮 去 剉 火 之 息
 ⑩ 茯苓 甘淡 胃 補 之 小便 利 之
 湿 之 去 痰 之 消 之 肺 之 保 之 神 之 安
 之 皮 筋 之 去 剉 之 焙 之 之 茯 神 心 之
 補 之 神 之 之 之 智 之 益 怒 之 除 之
 驚 悸 健 忘 之 治 之 製 法 茯 苓 之 同
 ○ 附子 辛熱 藏 府 之 沉 寒 四 肢 厥 逆
 心 腹 之 冷 痛 寒 湿 痿 痺 之 治 之 小 鬼
 慢 驚 胃 寒 沈 動 之 治 之 敗 陽 之 回 之
 虛 陽 之 補 之 紙 之 包 湿 之 之 熟 灰 之
 炮 之 皮 勝 之 去 四 之 切 甘 草 木 之 一 處
 浸 之 剉 之 之 之 之

①紅花 瘀血を除去し痛を止す。多量に用いると留血を破り、經閉を通じ、少く用いると血を止す。産後血暈に是れを主として交ぜ、酒に去酒する。生じ焙る。五味子 酸温肺氣を收め、腎經を滋し、津を生じ、久嗽を止し、陰を強し、精を散し、熱を除き、渴を解し、枝葉を去り、鉄のいじ嗽茶に生じて用補茶に炒て用ひ。呉茱萸 辛温疝氣を調へ、膀胱の寒痛を治し、中を温め、氣を下し、胃を用ひ、食を消し、虫を去り、吞酸を治し、枝を去り、熱湯に浸し、揉洗し、六七度で乾し、乾し微炒る。口を閉る。の毒あり。牛膝 苦平筋骨を壯し、腰膝を利し、寒湿痿痺を治し、精液を益し、陰を強し、諸薬を引て下行せしむ。其の捷なり。土氣を洗ひ、乾し、酒に浸し、焙る。牛房子 辛平瘡毒を消し、風熱癰疹を除き、咽の痛を治し、疱瘡の毒を解し、實の軽く虚を補ひ、去洗ひ、乾し、微炒る。

①天門冬 甘寒燥潤し、肺を保り、喘を止め、嗽を止し、燥火の痿を治し、肺萎肺癰を治し、湯に浸し、野にあり皮を去り、二川を引、心と去り、日小干て、銚に銚し。天南星 辛温風痰を除き、中風麻痺口噤身強を治し、驚搐及び破傷風を治し。

と熱く浸し皮を去割
姜汁を拌乾し焙る○天麻辛温
風虚乃眩暈麻痺を治し小児の
驚痾拘挛を治し酒に一夜浸し
剉り焙る○天花粉性寒渴を止煩
を去熱を退り痰を化し膈を利し
腫毒を消し塵を去るのまゝ用ゆ
鉄石

④阿膠甘温勞損虚羸を治し
漏尿血經水の調を治し燥を
潤し咳を止肺痿肺癰を治し剉
し土器に入れ炒すとして用ゆ
⑤山梔子苦寒肺熱を清く三焦
を遊火を泻し鬱を開き淋を通
熱を小便より泄し吐血衄血を治

熱厥の心痛を治し跡を去
剉し黒く炒る○柴胡苦微寒肝火
を泻し傷寒瘧疾寒熱往來を治
し肝勞を治し熱れ血室に入を治
し土氣を洗ひ肝頭を黒く皮を
去割し鉄火とくに忌○細辛辛
温風寒湿痺少陰の頭痛を治し
下を痰を破り齒の痛に痰の出る
に竅を利し関を通じ水に浸し
洗ひ肝頭を去割ひ火をいし
蒼朮苦甘温脾を健し湿を燥
汗を發し邪を散し痰を消し氣
を下し瘴氣を除き瘟疫を辟し
泔に浸し三日洗ひ剉る
日水で登り洗

○發 甘平煩心して眠る
 ヲ治 虚汗ヲ飲め煩渴ヲ除く
 皮ヲ去剝じ膽實しく、眠る
 めハ生じく用ハ膽虚して眠らる
 者ハ炒用ゆ○草果 辛温瘧
 疾ヲ治 瘴癘辟痰消食
 ヲ化 嘔吐止酒毒解麩麩に
 包ミ炮ミ殺ミ去剝用○山查
 子 甘平肉食消飲食化
 疝氣療痰飲痞滿治小
 兒疳疹發乳積消湯
 小のじ和けて核ヲ去剝用ゆ○
 三稜 苦甘積聚消血結利
 心腹痛止撲損の瘀血消
 製法 菝朮と同じ○桑白皮 甘寒
 肺の火邪ヲ瀉嗽止喘定め
 痰消と日に干して槌めて行和け
 細く引よのべ粗皮ハ皆落る也引よ
 らるゝ繩にありて剝じ鉄ノ器○
 犀角 酸寒心ヲ清煩熱消
 驚鎮め邪辟毒解吐血衄
 血下血治痘瘡の餘毒治
 白ノ所ヨリ剝じ○山茱萸 酸温
 腎補ハ腰膝の酸痛止の精飲
 め髓益腎虚耳鳴治水に
 洗ハ枝核ヲ去乾酒に浸し
 蒸剝ミ焙る○山藥 甘平脾理め
 中補ハ腎益精カク熱退
 瀉止ミ水淇一夜浸し
 洗ハ

鉄ノ器

⑤ 桔梗 喉の腫痛を治し鼻
 の塞りと通し胸を開き痰を消し
 風を散し膿を排れ葉を載て上升と
 芦頭を去るのすし判を焙る。羌活
 其微温風寒湿を除く頭痛身の
 痛に筋骨の掣り痛に頭旋つこ
 掉眩を項伸がれと治すそのす
 判を焙る。枳實 苦寒食を消し痞
 を除く結實を破り脹滿を消し痰
 を化し積を破るに丸を衝倒との
 功ありとす水に浸し核を穢と
 しれり判を麩の粉を霜を降る
 ぐれに拌じて乾く炒る。枳殼 苦
 微温咳をやめ喘を定め氣を快し
 腸をゆるし胸中の氣結を消し水
 氣脹滿を治し食を消し裏急後
 重を治す水に浸し内を干し判
 を麩の粉を拌じて乾く炒る。○
 金銀花 甘温湿を去り諸の腫毒
 惡瘡癰疽を治し熱を散し毒を
 解し莖葉を去判し。杏仁 苦温
 風痰喘嗽を治し大腸を潤し氣
 逆便閉を治し湯に浸し皮尖を
 去判し。炒る兩仁あ毒あり
 用ゆ。○菊花 甘微寒頭面
 乃風熱を清く目明に涙を
 とめ眼の赤を除く胸中の熱を
 さら陰干にして判し火をさし
 ⑥ 芍藥 酸寒肝を制し肺を軟め
 血熱を去り痛をやめ浮腫を治し

能飲めず 虚寒に用るこゝろ
水に浸し 芦頭を去り 乾し

酒に浸し 日に干して 焙り 鉄の心

○生地黄 甘微寒 血を涼し 陰を

補ひ 瘀血を去り 新血を生じ 骨蒸

煩勞を治し 水に浸し 洗

ひ 判り 乾し 酒に浸し 日に干して

焙り 銅鉄を忌む ○熟地黄 甘微

温 腎水に滋精髓を 填血脈を 通

真陰を 補益し 竹刀を 判り 用ひ

紫菀 辛温 風寒を 散り 表を 發

中を 温め 氣を行じ 痰を 消し 莖を

去日に干して 採碎し 土砂を 去り

去火を 忌む ○青皮 苦温 氣滯を 散

結積を 破り 食を下し 痰を 消し

肝を 平け 脾を 安じ 水に 浸し 蒂を

内を 白く 去り 判り 焙り ○車前子

淡寒 水に 利し 眼赤を 除き 湯を

とめ 熱を 解し 催生に 用ひ 水を

洗ひ 土砂を 去り 日に 干して 碎し 用

○沙参 苦微寒 肺熱を 除き 腫を

消し 膿を 排し 肺痿肺癰を 治し

米泔に 浸し 洗ひ 判り 焙り 唐ハ

その 判り 焙り ○縮砂仁 辛温

胃を 下し 食を 進め 氣を 通じ

痛を 治め 食を 化し 酒毒を 醒し

搗碎布の袋に 入り 押揉り 障子に 去

火を 焙り 神麴 甘温 水に 散り 食

を 化し 脾胃を 健し 結を 破り

痰を 逐ひ 中を 調へ 氣を下し 其 俟

碎し炒用ゆ古し良しす

○紫蘇子 辛温氣としは痰去
咳しめ喘し定の寒し除し腸代
潤し五膈し消し塵し去し
用ゆ火し忌○秦艽 微寒風し去
湿し除し血し養し筋し舒し肢節
の風痛し治し骨蒸し治し米泔
に浸し裂て中れ土破し洗ひ去
對し火し忌○紫苑 苦辛痰喘
欬逆し治し虚勞痰多し煩渴膿
血し吐し治し米泔に浸し土破し
洗ひ去對し酒し酒し乾し

わづら

延胡索 辛温心腹の痛し治し
血し破し經し通し血中れ氣し行し

血暈血崩し治しそのまに對し微

わづら

○白朮 甘温脾し健し胃し補
ひ穀し消し食し進め湿し除し浮
し腫し痰痞し消し胎し安し製
法蒼朮し同一

○白芷 辛温風し去し眼淚の出る
に齒し痛し陽明し頭痛し治し
金瘡乳癰痛し腫し膿し排婦人の
血風血暈し治し水火のし洗
ひ對し乾し火し忌○白豆蔻 辛温
霍乱し治し冷積し消し胸し吐
し食し進め嘔吐し胃し治し皮
し去袋し入し押揉し障子し微
炒し○檳榔子 辛温氣し下し滯し

破？衰？游？瘴？癘？禦？後？重

と治るるに神のく皮帯とる

到ひ火と良○白附子 辛温面の

諸病と治し風痰とる血痺風瘡

中風の諸證と治し抱して到る

用ゆ○白姜蚕 辛鹹中風の諸証

と治し諸瘡の瘰癧と去癰疹諸

瘡と治し小兒驚癇と治し米泔

と浸し洗ひ鬚と去到る微なる

○木通 甘平五淋と通し腫脹と

除し竅と利し經と通し熱と泄

と皮と刮る節と去到るのなる

○木瓜 酸温一切の筋病と治し湿

痺脚氣と療し霍乱轉筋足膝力

あさりと治し核と穰とるに到る焙

鉄と忌○木香 辛温脾と健はし

胃と和し肝と行し滯氣と散し

齒と開し食と消し瀉痢ととめ

諸氣と調へ虫と殺し邪と辟去氣

とるに到る火と忌○没藥 溢金瘡

打損諸瘡と治し瘀血ととるに

痛ととるに交るのと去るのす、

到る火と忌

○川芎 辛温血と養し經と調へ頭

痛面風と治し骨と開し中氣

と行し骨頭とるに到る熱湯と浸

しわたてて洗はと二三度して

日に干用ゆ火と忌唐へそのす到

りらる○石膏 大寒胃火と瀉し

消渴と治し肌と解し三焦の熱

皮膚の熱燥^{あつ}治^らし陽明の頭痛^{あつ}治^らす火^あめ^てく^く煖^ん草木^くに^く水^く飛^ひく^かま^し用^ゆゆ^ゆ前胡^{ぜんこ}微寒^{びかん}嗽^{せう}寧^{ねい}痰^{たん}消^{しょう}し肺熱^{はいねつ}清^{せい}風邪^{ふうじゃ}散^{さん}と土氣^{どけい}洗^{せん}ひ^ひ芦頭^{ろとう}去^きさ^さ心^{しん}火^か息^{いき}○升麻^{しょうま}微寒^{びかん}胃^い清^{せい}く^く毒^{どく}解^げし齒^しの痛^{いた}口中^{こうちゆう}の瘡^{そう}療^{りょう}ト陽明^{やうめい}の風邪^{ふうじゃ}散^{さん}ト下陷^{げあつ}の氣^きト升提^{しょうてい}及^{およ}び痺疹^{しびしん}治^らす水^{みづ}汁^{じゅう}ト浸^ひし粗皮^{そひ}と毛^けト去^き剉^{さい}じ^じ火^かト忌^い○川烏頭^{せんうとう}辛熱^{しんねつ}風^{ふう}入^{いれ}骨^{こつ}ト入^{いれ}とろ^ろ除^ぞし積聚^{せきく}破^{やぶ}る腹臍^{はらひ}の寒痛^{さむい}治^らし風痺^{ふうひ}血痺^{けつひ}半身^{はんしん}遂^{つい}に^に甘草^{かんさく}に^に一夜^{いちや}の^の炮^{ぱう}と剉^{さい}り^りら^らゆ

○蟬退^{せんたい}鹹^{かん}寒頭^{かんとう}風眩暈^{ふうげんうん}治^らし皮膚^{ひふ}の風熱^{ふうねつ}除^ぞし痘疹^{とうしん}乃^な痒^か治^らし驚熱^{きやうねつ}除^ぞし米泔^{まいざん}の湯^ゆト浸^ひし土氣^{どけい}洗^{せん}ひ^ひか^かし^し足^{あし}翅^{てい}と^と剉^{さい}り^りら^らゆ

○全蝎^{ぜんけつ}辛平^{しんぺい}風痰^{ふうたん}退^{たい}し口眼喎^{こうげんけつ}斜中風^{しゃちゆうふう}の諸證^{しよてい}小兒^{せうじ}の驚癇^{きやうせん}治^らす水^{みづ}に^に洗^{せん}ひ^ひ足^{あし}と尾^びと^と去^き剉^{さい}り^りら^らゆ

六陳^{ろくちん} 狼毒^{ろうどく} 吳茱萸^{ごしゆい} 半夏^{はんげ}
 陳皮^{ちんぴ} 枳實^{しじじつ} 麻黃^{まわう} 此六色^{しりくしき}を^を用^{もち}ゆ^ゆ

八新^{はっしん} 薄荷^{ぼこう} 款冬花^{くわんとくわ} 桃花^{とうか}
 槐花^{くわいか} 沢蘭^{ざくらん} 赤小豆^{せきせうとう} 菊花^{きくわ}
 紫蘂^{しさい} 此八色^{しはっしき}を^を新^{あらた}し^し用^{もち}ゆ^ゆ

合藥秤量之例

一分と十釐あり。一字と二分五厘也。
一銖と四分あり。一錢と十分あり。
二分と五分也。一兩と十錢あり。
一方の百平目也。一方と寸四分あり。
寸の五分あり。一撮と四分あり。
一撮と二分あり。十分と一分あり。十分と一分あり。
一外あり。古方の一外は今れ二合半あり。
丸薬に細麻の如し。丸の胡麻の大さあり。
大麻子の大さと。胡麻三粒の大さ也。
胡豆の大さと。今の豌豆也。
梧桐子八豆二粒あり。彈丸の大さと。
梧子四十粒あり。蜜二斤あり。
七合あり。煉と沫と去る十二兩半あり。

醫道日用記

○藥方付 病論脉論

中風

上古の外邪の風主として云河
澗の火乃たろく以ての東垣の氣
虚主として丹溪の濕主として然
るはもと元より内に虚するところ
ありに依て此諸證あり也
○脉浮遲ハ吉也急疾ハ惡一
八味順氣散 中風に治するは先
此藥を服して其氣をめぐらし次
に風を治すれば藥を用
陳皮 白朮 茯苓 青皮
烏藥 白芷 人參 甘草
右煎じ服して氣を順し風を代

去の劑之真氣虚ゆる者ハ用難
烏藥順氣散 中風遍身痺を言
語塞ふもの口眼ゆぐと喉の中氣
のくして痰のりものよ治せ

麻黄 烏藥 陳皮 白姜 蚕
川芎 白芷 枳殼 桔梗 各一
乾姜 甘草 各五分 右十味姜蜜

○ 防風通聖散 中風一切の風熱をさ
り盛すく大便結し小便赤

く波す頭面は塔生し譫妄驚
狂三焦の實ゆるりものよ治せ

防風 川芎 當歸 芍藥 大黃
芒硝 連翹 薄荷 麻黃 荊芥
白朮 山梔子 各五分 石膏 桔梗
黃芩 各一 滑石 三 甘草 五分

右十七味生姜入煎と一方より
芒硝より牛膝 人參半復し加ふ
積熱瘡腫氣血實し盛に之を大
瀉大實ののりに用ゆべ胃の氣
虚ゆるりものにあはるるす

○ 小續命湯 中風半身のり口眼
ゆぐと言語をり身痺を筋牽す
骨節煩痛しよ治せ

麻黄 防己 桂枝 芍藥 杏仁
芍藥 川芎 人參 各一分 附子 甘草 各一分

右十味姜蜜入煎と一方より當
版石膏を加ふ中風の初發汗なく
邪氣表實れものよ治せ類中の

よめに用ひる

大秦朮湯 中風手足のありず舌強
言詰りかありざるを治す此
をのりて用て血を養ふが筋
ありて米ふ 秦朮 羌活 獨活
防風 白芷 白朮 石膏 黄芩
芍薬 生地黄 熟地黄 各二分 茯苓
川芎 細辛 甘艸 各五分 右十五味
煎して天陰にて用ゆ 六生薑を入れて
煎す一方に當飯を加ふ 外に六
經の證のありしとあり只血弱
して筋を養ふと能はざる者
治す血を養ふと能はざる者
が有り

○ 加減除濕湯 右半身遂るる手足

あり筋骨のこむを治す 白朮二分
茯苓 當飯 陳皮 半夏 赤芍
蒼朮 黄連 黄芩 烏朮 枳殼
羌活 各二分 白芷 九分 人參 川芎
桔梗 防風 甘草 各八分 右十八味
姜を入れて煎す 〇 濕にして痰を生
す半身遂るる手足あり証をか
とて治す
○ 加減潤燥湯 左半身遂るる手足
あり嚏り欠く 眼口ゆき目暈痰
火さるるに筋骨時合ふ心悸
とて治す 芍薬二分 當飯二分
川芎 白朮 茯苓 半夏 天南星
天麻 陳皮 煨塩 生地黄 熟地黄
酸棗仁 黄芩 牛膝 各八分 羌活

桃仁 防風 肉桂 各六分 黃柏 三分

紅花 甘艸 各四分 右二十一味煎

竹瀝姜汁入服之 血虛者痰

之咳火之挾之此病之者

此病宜之尤右之字に拘りて

療治之誤るこころれ

与氣散 腰腿疼 手足伸屈之

とることあり 半身遂つて眼口

ゆびしと治と風氣中風あり

風藥之用ひて愈るる此方之用

ひて即り効あり也 白朮 烏朮

天麻 各二分 人參 沉香 白芷

青皮 甘草 各五分 紫蘇 木瓜

各三分 右十味姜棗入煎す

氣の道とて壅るるは外邪散

しがいれぬ氣と調へ順との調

補中益氣湯 中風の證内より傷

らるるの外より來る風邪

わづら役とらると甚しく之

真氣と耗し此證ありたり

○方の内傷門より尤右あり

ゆの防風羌活天麻半復南星

木香と加ふ○言語ありて石

菖蒲竹瀝と加ふ○眼口ゆびあり

姜製り黄連羌活防風荊芥竹

瀝姜汁と加ふ

傷寒 附傷風感冒

冬に寒氣に傷らるる即ち病

正傷寒とて寒肌肉の間にか

伏し春に至ると發すると温病

變に至りて變として熱病のあり汗
をさし傷寒として汗のあり傷風
として感冒の風寒に感ずるもの
浅きものあり常にこのこといひ
風を引くるもの皆感冒あり

○脈熱盛にして脈浮大あると
吉あり沈小ある凶し已に汗せ
脈沈小ある吉浮大ある凶あり
○香薷散 四時乃風邪に感し胃

をん頭痛發熱をひひあるを治す
紫蘇 香附子 各三分 陳皮 一分 甘草 五分
右四味生姜葱白を入煎す○此方
六經の證のありれば風邪に感ずる
もの浅きを治す氣を順せらるる
ことこの風邪の輕きを立せらるる解

と氣をく血虚とするに宜し
○參藜飲 四時乃感冒熱を發し頭
痛を咳嗽し色重く痰あるものを
治す勞倦の入りたる人の妊婦の感冒

をあらはす宜し 陳皮 茯苓 各一分
紫蘇 半夏 桔梗 前胡 葛根 各
枳殼 九分 甘艸 五分 人参 木香 各五分
右十二味姜棗を入煎す○感冒の

發熱咳嗽を治する妙劑也これ
どと肺の虚咳勞嗽なり此藥
を頼み入る壽を縮むことあり

○藿香正氣散 四時正しか
氣に感し或は内傷の外感に快
腹を吐利頭痛を惡寒發熱
のあり汗ありを治す 藿香 三錢

陳皮 白木 厚朴 半夏 桔梗
 各二文 太腹皮 紫蘼 白芷 茯苓
 各一文 其艸 五分 右十一味 姜棗入煎之
 ○腹痛吐瀉風寒暑濕正

かゝるる氣に感して治る
 要方あり正傷寒に治る葉非
 人参敗毒散 四時の傷寒痲疫
 寒のほく熱つゝ頭強て身疼
 と治る 羌活 獨活 前胡 柴胡

枳殼 川芎 桔梗 茯苓 人参
 各一文 其艸 五分 右十味 姜棗入煎之
 ○薄奇の火にかり加ふ熱
 ほく身疼のの治する妙方
 あり又天行時疫に治る表虛氣

弱さのの八用の中
 十神湯 痲疫安に行き或ハ風寒
 の感冒熱のり寒と憎く咳嗽頭
 痛身痛と汗ありのの治す

麻黄 葛根 外麻 川芎 赤芍薬
 香附子 紫蘼 陳皮 白芷 各等 甘草
 少 右十味 姜棗入煎之 感冒表

實に汗ありのの治る陽寒太
 陽の証わがらりて治る
 八解散 脾胃虚弱して飲食と

邪に挾たるに治る 人参 白木
 陳皮 半夏 厚朴 藿香 茯苓
 各一文 甘草 二分 右八味 姜棗入煎之
 ○外邪に感して食に挾たる

と治る脾胃の虚弱重く外邪輕

○補中益氣湯以加減ト
 行氣香薷散 内生冷の厚味のいよ
 傷らと外風寒温氣に感惡寒
 發熱く張い治と紫蘇
 陳皮 烏藥 羌活 香附子 各一
 川芎 麻黃 枳殼 各七分甘草 二分
 右九味姜入煎のいれ外風
 寒に感内生冷に傷らる治
 此の要方あり脾肺の虛弱ある
 みの調劑すべし

○九味羌活湯 春中比より秋ま
 での間ありの傷寒傷風と治
 此菜を用冬と又用べし
 羌活 防風 蒼朮 各一辛 白芷
 川芎 黃芩 生地黃 各一細辛 四分
 甘草 右生薑棗入煎のいれ

あの紫蘇と汗の桂枝
 芍薬と加ふ太陽の証の藜蘆と
 加へ羌活と倍と陽明の証の外
 麻葛根と加へ白芷と倍と少陽
 の証の柴胡半復と加へ黃芩と
 倍と太陽の証の厚朴枳實と
 蒼朮と倍と少陰の証の
 桔梗知母黃柏と加ふ此菜四時
 の傷寒瘟癘と治らる穩當也
 陰虛の氣弱の必
 禁すべし
 ○外陽發表湯 冬の月に正傷寒頭
 痛と發熱惡寒の身の項強と
 脈浮緊と汗ありのと治す

此方

四十三

此太陽經の証有り 麻黄 杏仁
 桂枝 芍薬 川芎 白芷 羌活
 防風 外麻 右九味生姜棗入
 煎之汗之 冬月即
 病の傷寒汗ありとの治す春
 夏の月及の陽虚れ者用へず
 疎邪實表湯 冬月正傷風頭
 疼く發熱風悪く項強り
 浮緩にして汗出るものと治す是
 太陽の經の傷風也 桂枝 芍薬
 甘艸 防風 川芎 羌活 白朮
 右七味生姜棗入煎之汗止す
 冬の黄芪を加ふ 春夏の月及の
 脈浮緊にして發熱し汗あり者
 此方用ゆる

外麻葛根湯 傷寒自痛鼻乾て
 眠らず汗ありて惡寒發熱と
 るは陽明經の證あり此方あり
 主る又風寒の感冒口渴りの及
 び瘡疹已に發しは發せ
 疑似れはこれあり宜し 葛根
 三入 外麻 芍薬 甘草 各二入 右
 四味姜入煎之のれ陽明經發
 散の藥あり太陽の證にのれ用
 ゆれば邪引く裏入る賊引く
 家破るの誠あり
 不換金正氣散 四時乃傷寒瘟疫
 及の深山山嵐の氣海邊の瘴氣
 感し寒熱往來霍亂吐瀉或は
 遠方に出水のものを中へると治

蒼朮 厚朴 陳皮 半夏 藿香

各二錢 甘草 五分 右六味姜棗入

煎之。此脾胃の湿邪を去る要方

あり。旅の途に邪氣に感ずる

もの多し。此方主として木加減

あり。併せて氣血の虚弱

の此例あり。

○小柴胡湯 傷寒四五日寒熱往

來胸脇痞滿心煩喜嘔

頭疼耳聾目眩心煩喜嘔

といふ邪氣半在表のり半在裏

あり。此方これより主として雜病の

肝膽に屬するものも亦これと

治す。柴胡 二錢半 黃芩 一錢

各一錢 半夏 八分 甘草 五分 右五

味姜棗入煎之。脾胃の氣虚也

ぶ。このに人参を去る。これより陽

經半表半裏の主方あり。表裏陰

陽に分けて皆此方より以て傷寒を治

す。大なる誤り罪のなる所あり

陽氣虚寒れものに与ふれば立止

るに死す。慎まざるべからんや

大柴胡湯 傷寒表證のまだ除く

ざる裏証又急す。寒熱往来

脇の口苦く大便が通せ

るを治す。柴胡 四錢 黃芩 芍薬 各

二錢半 半夏 二錢 枳實 一錢 大黃 一錢

右六味生姜棗入煎之。大便通

れば薬を止む。此方小柴胡

湯の證より大便燥實を通す

さゆるのよ治し大便順に通る者ありかあり用ひ

小兼氣湯 傷寒腹脹滿時定

て熱生し狂言し喘する治

大黃七厚朴枳實各三右三

味姜入煎じ九下す證

そありしと卒尔に大兼氣湯

用ひ先小兼氣湯用

ひ病人轉失氣らつ或鞭

屎來て後來らさゆるの内燥

る尿のりその時は大兼氣湯

用ひ裏攻へ若又小兼氣

湯用ひ轉失氣せ或ひ

初鞭し尿來て後澹り

裏熱のり甚しかきも也大兼氣

○大兼氣湯 傷寒陽邪裡入痞滿

燥實堅一堅全く備るりの又

少陰經の病舌乾し口渴し日晡

に發熱し脈沉實ありの治

大黃七厚朴枳實各三芒硝半

右四味先枳實厚朴の二味煎

滓去大黃入再び煎滓去

芒硝入二三沸煎じ服じ痞

滿燥實堅の證全く備るりの

用ひからさく用ゆる方あり

○黃連解毒湯 傷寒汗吐

せられ後熱らりどかど諸の積熱

實火の治し黃連一黃芩黃柏

山梔子各二右四味煎じ汗吐下

乃後實火之屬也者治之虛

○白虎湯 傷寒傳胃入惡寒也

治又傷寒汗吐下後心煩

悶渴一水飲之欲一脈

洪大者乃の治石膏二合

甘草二合知母一合二分粳米一握

味煎之入參白虎湯といふ老人

小児及の虚弱ありのありあり

入参加へてしよく其証を考へ

て用之べし脈虚ありのありあり

○補中益氣湯 傷寒内傷を扱

見りの太陽の證は羌活藁本

桂枝を加ふ陽明の證は葛根

加へ外麻を倍す少陽の証は黄芩

半復川芎を加へ柴胡を倍す太陽の

証は枳實厚朴を加ふ少陰の

証は生甘草桔梗を加ふ厥陰

の証は川芎を加ふ変証發班

は葛根を参を加へ外麻を倍す痰飲

扱はたぐは半復を加へ作瀝姜汁

○凡傷寒邪氣已去とて八正氣

かあり虚なるもの也八解散六

君子湯異功散補中益氣湯八物

湯十全大補湯の類は其証を從

用ひ元氣を保ち養ふべし。○早く酒
を飲べし。○愈て後百日鯉鱗
を食べし。

○中寒

夫寒氣の人は中る陽氣の虚する
に因りて寒邪虚に乘じて入る夏
冬のワラあく皮膚より卒ふ
臟腑に入る其証中風と相似し
齒緊く手足動じく異ありと
○脉緊瀼○寸尺ともに緊あるを
上下皆寒と受るあり
○五積散 寒邪に感し冒され頭
痛く身疼し項背拘り急り
惡寒吐腹痛と治し寒湿と治
しこれ要方あり 蒼朮二分 桔梗

麻黄 枳殼 陳皮 各八分 厚朴

乾姜 各六分 當歸 川芎 芍藥 白芷

肉桂 半復 茯苓 各四分 甘草 三分

右十五味 姜葱白を煎じ 寒
氣少陰腎に犯し腹臍の或
は口燥舌動しかこ此方
を主し 〇冬月寒氣甚し
風寒に感冒したるは此
方を用ひ 〇産後の感冒は麻黄
葱白を去てりら
理中湯 寒邪に中り口噤く語
言しあかしく手足強り直
中脘の或は自利を渴せし或
嘔て噎乾と治す 人参 白朮
乾姜 甘草 各等分 右四味 姜棗

入煎じの寒甚き者に附子
加ふ附子理中湯と名づくる寒太
陰に犯し腹滿の時よむ吐利
しと渴せしむと治せり妙方あり
虚せし者あり藿香正氣散に乾
姜を加へ用ゆ併あり熱内
あり咽渴と水と飲りぬ用
ゆべし

四逆湯 即病太陰の傷寒自利
しと渴せしむ及ひ寒三陰に中り
脈沉細しと遲身痛と手足冷
上る者治せ 乾姜 五附子 生二
甘艸 十右二味煎じ利止て
脈出じんば人参を加ふ凡此證
しと此方を用ひんとせり

先理中湯用ゆべし寒甚しと
附子を加ふ如已しと得じんば此方
用ゆべし手足煖りぬと兼
止ひ辛甘大熱の劑輕々し用
べし方あり

回陽救急湯 寒陰經に中身冷
手足冷し腹痛と吐瀉し脈伏し
と無りの治せ 人参 白朮
茯苓 陳皮 半夏 乾姜 肉桂
附子 五味子 各等分 甘艸 十
味姜入煎じの氣海関元の二
穴に於て灸せしと尤も卒に
藥あり時ありと捷法とに太陽
虚せし者治せ胃火穀と消し
實熱のものは用ゆるとあり

○中暑 付 霍亂

暑邪の氣先心より着肺より傷る中暑
の證は中熱中暑凡のらあり
静に得る中暑は陰證
動て是を得る中暑は陽證
又暑湿の氣に中られて腹の
吐け泻つて手足繚亂る霍亂
吐きの吐せぬ瀉せず悶亂る乾
霍亂の治は○脈虛みて
微弱或は浮大にして散或は隠て
見ると身熱する者も傷暑とす
○五苓散 暑氣に傷られ身熱し
煩も渴も心恍惚とて小便赤く
澀り大便瀉りのと治と澤泻半
白茯苓各五錢赤茯苓各五錢肉桂五分

右玉味散藥

服する也多し湯と飲して汗と出
或は姜棗を入煎と○小便利
するの或は内津液とじて小
便利とるの并に用とる
○十味香薷飲 暑氣内より伏し身
倦と神々しく頭重く吐け利
とる治と香薷一陳皮 白扁豆
白朮 茯苓 黄芪 木瓜 厚朴
各五分甘草炙 右煎と○これ陽氣
と散し真陰と導の劑と元氣と
より虚し房と犯とるの過るの
よる用ゆとす
○清暑益氣湯 長夏の湿熱大よ
行われ人こもに感じて手足困

倦心氣短く動作し懶く身熱
氣高ぶり心煩るを治す 人参

白木 陳皮 神麴 澤瀉 各五分

黄芪 蒼朮 針麻 各一匁 麥門冬

當歸 黄栢 甘草 各三分 五味子九

青皮 葛根 各二分 右十五味煎じ

○氣虚の人暑に中られ食を扱

湿を兼るを治す若食を湿を

兼じんとし補中益氣湯に針麻

柴胡を去り五味子麥門冬黄栢を

用ゆべし

○生脉散 暑氣に中り暴に目眩

息絶んとすを治す 麥門冬

人参 五味子 各等分 右三味煎じ

○神志なく氣虚し脚弱る者

黄栢を以て加へ用ひ或は諸

方にあつてこれに加へべし

藿香正氣散 暑氣にあつて一死

時納涼過して外を傷り或は森入

る間風を感じ生の冷る物

を食して其内を傷り頭痛を發

熱惡寒吐瀉し腹痛む者治

○方外傷寒にあり○内生冷は傷

られ外風寒に感して霍乱ある

の藿香正氣散に主とる熱

あつたりの姜を製する黄連を

か○寒甚しはりの乾姜を加へ○

此方陰証の者を治す日中暑を

傷られ内外皆熱むるりのに

○中濕

夫濕は内外の二つあり卑く湿の
地は居或は道中にかつて風雨は
犯され又汗出て衣の湿る
其依り着て湿を受るは皆
外より湿の中られる也又酒漿
あど多く飲或は瓜菜類を食
して湿証ありは胃管内より
湿は傷らるる○脈浮にして緩ハ
湿表あり沈みて緩ハ湿裏
あり濡緩は湿の脈とす
羌活勝濕湯 濕は傷らるる一身悉
く痛く治す 羌活 獨活 各一匁
藁本 防風 川芎 各五分 蔓荆子 三分
甘草 一分 右七味姜を煎じ入煎じ○風

濕は表散せられ方あり湿内ふあ
らむ淡く以て滲とす一此方れ治
せり肝にあり

○獨活寄生湯 腎氣虚一なるの
湿地は脚腰せある拘急の筋骨痛
く或は半身遂り冷痺るもの

治す 獨活 牛膝 杜仲 秦朮
細辛 肉桂 川芎 芍藥 桑寄生
茯苓 人参 當歸 防風 熟地黄
各等分 甘草 少右十五味姜を煎じ

空心は服す○若来寄生あくハ續
断に替へ○風湿腎を傷て腰痛
と治せり要方あり

○不換金正氣散 内外湿の中り惡
寒發熱吐瀉一腹痛と治す○方

ハ傷寒に見たり

○五苓散 湿傷れ身重く小便

利せず口渇りのと治す○身痛ふ

ハ羌活を加ふ方中暑にたり

○火証

外邪經絡に鬱して熱を臟腑に

積るれば實火とて真陰虚に

相火の動くあり虚火とて又飲

食情欲に因て氣盛ると火の

似る者のありも其証を明ふ

して治す誤るとなれば脈浮

にして洪數力ありと虚火に

沈して實大ありと實火にす

涼膈散 大熱にして面赤く舌

は澇して生し煩渴小便赤く大

便秘とると治す 連翹 黄芩

山梔子 各一匁 薄荷 八分 大黄 一匁半

甘草 八分 芒硝 一匁 右七味煎じ或

は散薬にして用の○一方に桔梗

を加ふ○爵熱實火に治す神

方あり但し芒硝を去杖穀を加

へこの穩當ありなり

○外陽散火湯 冷る物多く食

し陽氣伸と一身悉く熱し肌

燎がぶくくありと治す 柴胡 全

外麻 葛根 獨活 羌活 人参

芍薬 各一匁 防風 三匁 生甘草 二匁 炙

甘草 三匁 右十味煮し入煎じ○陽

氣の爵火に散する要方あり但

多く服すとくく多く用の○

直陰^{じきん}耗^{しょう}一^一燥熱^{そうねつ}益^{えき}あり

清上防風湯^{せいじょうぼうふうとう} 上焦^{じやうせう}の火^ひ清^{せい}く

頭面^{かうめん}瘡^{そう}生^{せい}風熱^{ふうねつ}腫痛^{しゅうとう}

治^ち防風^{ぼうふう}一^一薄荷^{はうご}山梔子^{さんし}

黃連^{わうれん}枳殼^{しき}各五分^{かくごぶん} 黃芩^{わうじん}川芎^{せんじゆ}

連翹^{れんせう}白芷^{はくし}桔梗^{きやうきやう}各八分^{かくはちぶん} 甘草^{かんさう}二分

右十二味煎^{みぎじふにまいせん}食後^{しょくご}服^{ふく}す

焦^{せう}の爵熱^{せつねつ}頭面^{かうめん}の諸証^{しよせう}實火^{じつひ}の屬^{じゆく}

そるとの治^ち虚火^{きよひ}の衝^{しやう}上^{じやう}る

如^{ごと}これ^{これ}用^{もち}立^た命^{いのち}失^しふ

黃連解毒湯^{わうれんげどくとう} 三焦^{さんせう}の實火^{じつひ}内外^{ないがい}

寒^{さむ}に見^みへり

六味地黄丸^{りくみじちやうわん} 腎水^{じんすい}衰^{おそ}へ相火^{さうひ}の動^{うご}

治^ち方^{かた}丸散^{わんさん}の部^ぶのり

十全大補湯^{じゅうぜんたいほつとう} 無根^{むこん}の虚火^{きよひ}治^ち

方^{かた}の諸虚^{しよきよ}門^{もん}あり

補中益氣湯^{ほちゆうえきとう} 飲食^{いんじき}勞倦^{らうけん}の虚熱^{きよねつ}

治^ち方^{かた}内傷^{ないしやう}に見^みへり

内傷^{ないしやう}付^つ補益^{ほえき}

飲食^{いんじき}勞倦^{らうけん}因^よ内脾胃^{ないい脾胃}の氣^き

傷^{やう}りて氣^きたり身熱^{みねつ}手足^{てしゆ}

怠惰^{たいだ}の諸証^{しよせう}あり也^{なりなり} 脈浮^{みやくう}大

して方^{かた}あり或^{ある}氣口^{きこう}の脈^{みやく}人迎^{にんげい}

大^{おほ}ある皆^{みな}内傷^{ないしやう}とす

補中益氣湯^{ほちゆうえきとう} 形神^{かたちじん}倦^{けん}つれ飲食^{いんじき}

小傷^{せうしやう}られ身熱^{みねつ}手足^{てしゆ}急^{いそ}く頭痛^{かうとう}

汗出^{あせ}て方^{かた}あり治^ち黄芩^{わうじん}二分^{ふぶん}

人參^{じんじん}陳皮^{ちんぴ}白朮^{はくじく}當歸^{たうき}各三分^{かくさんぶん}

柴胡^{さいこ}外麻^{がいま}各三分^{かくさんぶん} 甘草^{かんさう}二分^{ふぶん} 右八味^{みぎはちみ}

五十四

姜棗入煎と○諸病陽氣下り
陷と外と提との神方又一切の病
後調へ理の妙劑之外感といふこと
氣血虛弱ありのよん加減して
用ゆ

○外陽補氣湯 飲食時ありの肌飽
勞役胃の氣不足手足のむく食後
昏悶手足のうく熱の治
厚朴二分 外麻 羌活 獨活 防風
芍藥 沢瀉 甘草 各五分 生地黃 七分
柴胡 二分 右十味姜棗入煎と
○脾湿の氣下に溜して伸發する
と能くすと困倦煩熱するの諸
証ありと治と多く服とることあ
る風藥の元氣損病益

七味白朮散 脾胃の氣和せず津
液の肌熱或は吐瀉口渴
と治と 人參 白朮 茯苓 葛根
各一木香 藿香 各五分 甘草 二分 右
煎と錢氏白朮散といふは是あり
○小兒肌熱吐瀉とるりのと治と
大人も亦これと用と氣實と
氣滯と實火と屬とる者ありと
づと
○參苓白朮散 脾胃虚れと飲食
進まず嘔吐瀉利とる治と人參
白朮 茯苓 山藥 白扁豆 各一木
蓮肉 縮砂 薏苡仁 各七分 甘草 五分
右十味煎と○此方脾胃虚弱の人

食進まざる常は瀉すべしと治す又
大病の後これを用て脾胃保養

○傷食付痞満

飲食飽まるとあすれを消しがごとく
腸胃こまらぬに傷られ腹の
吐瀉の諸證は食積あり又胸
腹飽悶と舒すれば痞満あり
脈氣口の脈緊盛あるは傷食とす
食消せざれば浮滑と疾

○平胃散 脾胃化せし飲食進み

或は食滞するもの治と 蒼朮
厚朴 陳皮 各五分 甘草 三分 右四
味姜棗入煎す ○宿食消せざる
ゆへ神麴麦芽を加ふ加味平胃散
といふ世の人平化字に誤られて

常に服する者あり大は非あり

此方ハ宿食脾湿の有餘と平け
除の薬にして胃と平ふと補ふ

といふものあり

○香砂平胃散 宿食消せし飲食

たのづゝ倍とる治とこれ脾胃
乃傷あり香附子 蒼朮 陳皮 各一
枳殼 藿香 各八分 縮砂 七分 木香
甘草 各五分 右八味姜入煎す

○氣實しる人の宿食消せざる

治と此氣破るる劑と胃
虚久病れもの服とる薬に非
葛花解醒湯 大酒飲吐
心煩を乱し胸塞り不食し小
便利せざる治と 葛花 砂仁

白豆蔻 各五分 茯苓 陳皮 猪苓 人参 各二分 牛白朮 神麴 沢瀉 乾生 姜 各二分 青皮 木香 各三分 右十三 味煎之 ○ 此は湿熱と上下より 分り消して酒毒を解と此薬を 特として日酒を過して天年を 損じらるるしやうなり

○ 藿香止氣散 食傷寒熱頭痛吐 瀉腹痛を治す ○ 方は傷寒にあり

○ 六君子湯 脾胃弱く入り食傷を 治すに香附子縮砂藿香を加へ 香砂六君子湯との ○ 本方ハ諸 虚を見へり

○ 泄瀉

風寒暑濕をかく人として泄

瀉せしひ多くな飲食を過し脾 胃を傷りて此病とあり ○ 脈浮し 風を遅し寒を身を傷らるる の脈微湿の緩あり大抵沉細 治し易し洪大あり治しが

○ 胃苓湯 暑湿の中り或は食を傷

らるる泄瀉とる者治す 蒼朮 厚朴 陳皮 猪苓 沢瀉 芍薬 各一 白朮 茯苓 各六分 肉桂 三分 甘草 一分 右十味 姜棗を煎す ○ 水はよく 瀉するに滑石を加へ ○ 脾を燥し 湿を滲すの劑あり氣虚津液乾 くと小便少く又ハ腎氣虚とゆ 者に用ひしす

○ 理中湯 寒瀉の証腹痛泻止と

あく色青く脈沉遅る者治と
人参 白朮 乾姜 各一匁 肉桂 甘州
各五文 陳皮 藿香 茯苓 良姜 各七
烏梅 二分 右十味 桑葉 入煎と

○此方志と脈証よく察して
用ゆべし 湿熱の瀉と與ふと
忽ら危きに多慎じべし

○胃風湯 風冷虚に乘じて腸胃
は客り泄瀉り腸鳴腹いこく湿
毒下すし 黑豆の汁の如く或は

瘀血膿血と下すと治と 人参
白朮 茯苓 當歸 芍薬 川芎
肉桂 各等分 右七味 栗一撮 入煎と

○此方脈弦緩にして浮あるもの
是と主とる腸胃の風証あり食
積實熱のりれあへ用やらず

○参苓白朮散 脾胃虚とるもの
は産後ノ泄瀉ノ治と
補中益氣湯 泄瀉久しとるもの
元氣ありの虚と此方と用ひて

補ふべし ○右の二方共内傷愈へ
○痢病 多かりとる

湿熱食積に因り痢病あり裏
急後重の證とあり赤と血と属
して小腸より來り白と血と属
して大腸より來る古は腸癖と

いひ滞下といひ今此痢病あり
○脈微小に宜し 浮洪に宜し
滑大に吉あり 弦急に凶あり

○行和芍藥湯 赤痢白痢初とるもの

癩^らに^ゆの^裏急^又残^るを^うめて
 火^し腹^痛治^す芍^薬二^分當^飯
 黄^連黄^芩各^一分^大黄^七分^栴榔^子
 木^香肉^桂甘^草各^五分^右九^味煎^す
 下^空心^一服^す〇^一方^に大^黄肉^桂
 去^枳殼^と加^す〇^湿熱^積滯^行と^初
 發^の者^は用^べ〇^然と^多く^用也^〇
 〇^胃の^氣先^虧陽^氣下^陷
 〇^積滯^のと^与る^れん
 〇^調和^飲痢^病久^しく^愈ざる^のと
 治^す芍^薬三^分當^飯二^分川^芎黄^連
 連^黄芩^桃仁^各一^分外^麻五^分右^七
 味^煎〇^湿熱^いま^す除^る者^と
 治^す脾^胃虚^一氣^弱〇^のり
 用^ゆ也^〇立^ところ^に死^す〇^す

〇^參吸^芍藥^湯痢^去と^効く^久く
 愈^す〇^治芍^薬一^分人^參當^飯
 飯^{茯苓}山^藥陳^皮一^分破^仁七^分
 甘^草五^分右^八味^烏梅^燈草^蓮肉^〇
 加^へ共^一十^一味^煎〇^痢久^しく^止
 〇^治る^要方^也〇^氣
 陷^す或^ハ虚^脱〇^者の^ハ適^當也
 〇^別の^治と^す〇
 〇^眞人^養臟^湯痢^病久^しく^愈す^赤
 白^の下^す〇^の巴^に盡^ある^未
 盡^す〇^虚寒^脱肛^のの^〇治^す〇^人參
 白^朮芍^薬肉^桂訶^子罌^粟穀^肉
 豆^蔻各^一分^木香^甘艸^各二^分右^九味
 姜^棗入^煎〇^元氣^虚脱^〇
 自^ら取^る〇^の圍^行也

○か付

みんは重積する者治すは痲積滯の者みんかあは用ひ

○倉廩散 痢病發熱退る風邪熱毒あつ者治すは一家或は二郷皆

時り病疫痢は此方ありは主る人參敗毒散黄連陳倉

米を加ふるは倉廩散といふ方傷寒に見たり○表邪發散する

の劑あり表証あり者み用ひ補中益氣湯 痢久し愈す陽

氣下陷する者治す方内傷あり

○瘧疾 風寒暑湿外犯飲食内傷り此病あり凡瘧邪の宮衛

み舎る正に少陽半表半裡に屬し

○脈瘧の脈は弦なり弦數は熱多く弦遲は寒多し

○瓜味清脾湯 熱多く寒少く口苦く咽乾さ大便結し小便赤く遊り

脈弦數ある者治す青皮厚朴白朮 黄芩 半夏 柴胡 茯苓 草

果 各五分 甘草二分 右姜入煎す○

世は實したる人の熱多きものを用ひ久し用ひは他の病に變

して救ひはたしとあす

○七味清脾湯 食脾を傷るに因て痰飲をため發し寒熱ありは治す厚朴 青皮 半夏 烏梅 良

姜 各二分 草果一分 甘草五分 右姜入煎す 飲食飢飽節あり

一、中、瘧、あり者、治、瘧、の
人、一、縦、の、食、積、停、痰、ありと、し
用、ゆ、べ、し、す。

○人參養胃湯 脾胃虚、弱、人

乃、瘧、を、發、せ、し、治、し、半、夏、厚、朴

陳、皮、各、八、分、藿、香、草、果、茯、苓、人、參

各、五、分、蒼、朮、一、分、烏、梅、甘、州、各、三、分、石、十

味、姜、棗、入、煎、之、外、風、寒、に、感、じ

内、生、冷、に、傷、ら、れ、く、瘧、を、あ、す、と

○補中益氣湯 瘧、久、く、愈、せ、し、標

少、く、元、氣、虚、し、る、者、を、治、し、本、方、に

乾、姜、を、加、へ、人、壯、又、邪、實、し、る

の、に、早、く、補、茶、を、用、ゆ、べ、し、

○壯、實、者、の、瘧、を、截、め、し、七、味、清

脚、湯、に、栝、榔、子、を、加、煎、一、夜、露

して、發、日、の、朝、服、し、べ、し

○諸、氣、付、諸、証

風、寒、暑、湿、の、邪、外、に、侵、し、喜、の、怒

了、悲、驚、の、氣、内、に、争、ひ、て、留、滞

諸、結、の、諸、証、を、あ、り、の、脈、沉、あ、る、と

氣、と、す、瀉、弱、を、治、し、か、く、

分、心、氣、飲、男、女、諸、氣、和、せ、す、爵

結、留、滞、く、病、を、あ、す、と、治、し、木、通

肉、桂、半、夏、茯、苓、各、八、分、桑、白、皮、青、皮

大、腹、皮、陳、皮、紫、蘇、各、三、分、菴、活、一、分

甘、草、三、分、赤、芍、藥、七、分、石、十、味、姜、棗

燈、心、を、入、煎、之、の、氣、を、散、し、爵

宣、る、の、劑、正、氣、虚、し、る、者、に、用、ゆ、べ、し

○正、氣、香、湯 婦、人、諸、氣、病、を、治、す

或の知熱往來 眩暈嘔吐等の

証を治す 烏藥 一五分 香附子 一

陳皮 紫蘇 乾姜 各六分半 右五味

姜を煎じ 眞氣の虚を

人先此方を用いて 導く已

に虚を治すの宜しからず

六鬱湯 氣血食痰湿熱の六鬱

を解し 火を清く 痰を化し 氣を

順に胸膈を開く 陳皮 一五分 梔

蒼朮 川芎 各五分 山梔子 赤茯苓

各七分 香附子 二分 甘草 砂仁 各五分 右

九味姜を煎じ 此鬱病の

深からざるの設有 氣耗血衰

病已に入ると 深の用へず

沉香降氣湯 陰陽壅滞

氣外に降り 胸膈痞塞 心腹

脹痛を治す 香附子 二分半 沉香 一

五分 砂仁 二分 甘艸 五分 右 四味 塩炒

を煎じ 入煎じ 鬱を解し 壅を

開き 氣を下し 滯を散らす 方あり

脾氣傷む 血虚とする者 入用す

故脾湯 鬱結久し 心脾虚

を治す 方あり

○痰飲

脾氣健う 飲食を消

せず 津液を化せず 胃中を滯

りて 湿痰を生じ 或は肺燥を

痰として 或は腎水上に 痰を

と稀く 飲みの稠く 痰を

痰として 沉滑を兼る 痰を

〇 雙湯 凡諸病痰飲の者、
 陳皮一匁 半夏二匁 茯苓一匁 甘草五分
 右四味、姜汁入煎、〇脾胃の湿
 痰、治、〇要方、脾胃虚、肺
 燥、〇の、用、ゆ、〇、〇、
 〇 瓜蒌積實湯 痰、吐、出、
 〇胸痛、〇滿悶、〇喘促、〇証、治、
 〇瓜蒌仁 枳實 桔梗 茯苓 貝母
 陳皮 黃芩 山梔子 各一分 當歸 二分 砂
 仁 木香 各五分 甘草 三分 右十二味、姜
 汁入煎、〇竹瀝、姜汁、加、〇此方
 痰、結、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 〇然、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 〇者、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 〇 咳散

風寒、暑湿、邪、外皮、毛、の間、〇容、
 内、肺、氣、〇傷、〇脾、湿、〇動、〇、
 嗽、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 〇 〇 脉、浮、濡、〇宜、〇沉、伏、〇忌、
 〇 參、蘇、飲 風寒、〇感冒、〇頭、
 發、熱、〇、〇、〇、〇、〇、
 傷、寒、〇見、〇、〇、〇、〇、
 肺、氣、虚、〇者、〇、〇、
 〇 清、肺、湯 痰、盛、〇、
 〇 治、〇 陳、皮 茯、苓 桔、梗 貝、母
 〇 桑、白、皮 黃、芩 各、一分 杏、仁 天、門、冬
 〇 麥、門、冬 山、梔、子 當、歸 各、七分 五、味、子
 〇 煎、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 〇 煎、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 〇 煎、〇、〇、〇、〇、〇、〇、

の用ゆべりす

杏蘇散 上氣痰喘咳嗽 面目

浮腫る者治と 紫蘇七分 杏仁

五味子 大腹皮 烏梅 各五分 紫苑 三分

桑白皮 阿膠 麻黃 陳皮 桔梗 各二分

甘艸 二分 右十二味 姜入煎と 肺

と調燥潤と 此劑之痰多脾濕

屬とりのの用ゆべりす

寶鑑瀉白散 咳嗽 口乾 煩

熱 胸膈利せば 喘促とりのの

治と 桑白皮 二 桔梗 知母 陳皮

地骨皮 各二分 細辛 青皮 黃芩 甘艸

各二分 右九味 姜入煎と 肺

火と瀉とるれ劑之肺寒喘る者

の用ゆべりす

夫饒雜の証の飢るに似て飢と

痛と似て痛する悶鬱して寧か

あり胃中に痰あり火ありと動す

か因て此病とある 脈弦滑と胸

中に留飲ありと 饒雜のれり

か

消食清胃湯 饒雜悶亂 惡心

發熱 頭痛しと治と 陳皮 半夏

茯苓 神麴 川芎 荊芥 山梔子 山

查子 黃連 蒼朮 藿香 香附子 枳

殼 各等分 甘艸 少 右十四味 姜入煎

と 此宿食痰熱因て饒雜と

あつと治と 虚人を用ゆべり

良薬のりと 虚人を用ゆべり

○心痰清火湯 饋雜痰の火乃
動と因の治と 陳皮 半夏
天南星 黃芩 石膏 知母
山施子 蒼朮 白朮 芍藥 各等分
甘艸 少 右十二味 姜 入煎と 痰
火の饋雜胃實と者に用と 或
石膏 知母 一味と去 〇 虚人或ハ
胃寒ののハ用と 〇 痰
二陳湯 火痰と動と饋雜と
或ハ眩暈するの治す
黃連 黃芩 山施子 加用 〇 方
ハ痰飲門より 痰火併せ上り
面赤との治と 老人ハ速くハ
其火と降と 〇 虚人ハ盡く
その痰と去と

○嘔吐 付反胃 吞酸 呃逆
胃中に寒あり 或ハ熱あり 且生
冷寒硬との傷られ 皆此證
との声ありて 物と吐出と 嘔吐
との脈虚細ハ吉 實大ハ惡 食
して後一日 或ハ半日 吐と反
胃との脈浮緩ハ吉 沉瀉ハ惡
胃寒ハ氣逆と上ると呃逆と云
急ハあり 胃に宿食あり 酸味
と滑或ハ沉と遲
順氣和中湯 嘔吐反胃 饋雜吞
酸 噎氣 噎膈 等の証と治す
陳皮 香附子 山施子 各々 白朮 茯苓

苓半复各七分黄連神麴各六分枳實五分縮砂三分甘草二分右十一味
姜入煎竹瀝姜汁入○
宿食痰火のものを治し血液の乾
と脾胃虚のものも治す

○清齒豁痰湯 噎氣吞酸から胃
中に熱あり膈の上は痰あり清
水嘔吐せしと治し陳皮半復
茯苓黃連蒼朮川芎山梔子
縮砂神麴木香香附子山查
子各等分甘草少右十三味姜入
煎○宿食消し湿熱より
痰化しもの劑あり胃寒の者
これと禁す

丁香砂帶湯 胃口冷手足冷て

听逆せしと治し 丁子 柿蒂
良姜 肉桂 半夏 沉香 茴香
藿香 厚朴 縮砂 各等分 甘草少
乳香粉にて後に入る 右十四味姜
入煎○胃中に寒あり者治し
大病の後嘔逆せしもの危し此藥
乃及ぶ所はのれ大に胃を暖め
元氣を補ふ

○諸虚付虚勞

稟賦素より弱く又寒暑の勞
役あるものれに傷れれば色欲
を過して皆しく真氣を賊し諸
虚の証より虚勞の毒の怒り
恐り驚く等れ七傷のうちに五
臟を傷りて虚勞れ証あり○

脈氣虚の細緩して力がなく血虚の大數にして力は虚勞の脈の浮大なるの弦數

○四君子湯 脾胃虚して飲食進

まざるの治と凡者為氣虚者此方と主と 人参 白朮 茯苓 各二分 甘草 五分 右四味とて水煎入煎之 諸虚と補ふの功加減佐使因て如く用ゆべし 然とて大便秘結よく食い或の外邪盛に實熱は屬とる者

○六君子湯 氣虚に痰ある者

脾胃衰へく湿ある者と治す 人参 白朮 茯苓 陳皮 半夏 各等分 甘草 炙 右六味姜と棗と入煎之 脾胃と益胃と補ひ痰と化

湿と去れ妙劑あり痰ある人も亦用ゆ又虚弱外感れ此方代主と加減よく用ゆべし

○四物湯 諸病血虚に屬とるの治す 當歸 熟地黄 各二分 川芎 芍藥 各二分 右四味煎之 凡婦人の調經崩漏産後の諸証或は金瘡血弱と等れ此方と欠へ

と血と補ひ調へ血と生し血分導くの要方あり然とて上下よく血と出と多く元氣大に虚

とる者此方と用ゆべし

○八物湯 氣血ともに虚とる者

八物湯 氣血ともに虚とる者

治と 當歸 川芎 芍藥 人参
 白朮 茯苓 熟地黄 各等分 甘草
 少右八味姜棗入煎也。〇 大病
 の後氣血虚とるりの或ハ素リ
 血氣虚弱ある者ハ
 治と又氣虚に四君子湯用く
 氣周々す血虚ハ四物湯用ひ
 と血盈ぶる者ハ共ニ此方用て

よく治と

〇 十全大補湯 氣血とるに虚して
 寒ハ者下元の氣衰ある者治と
 當歸 川芎 芍藥 人参 黄芪
 白朮 茯苓 甘草 熟地黄 各等分
 肉桂 少右十味姜棗入煎す。〇
 素リ元氣弱く或ハ飲食勞倦

小傷られ或ハ心用ゆるしと
 過して氣血とるに虚し各り
 狀とるがはる諸證ハ内ハ
 真ハ寒にして外ハ假の熱證ハ
 わるる皆此方よく治と
 〇 滋陰降火湯 陰虚して火動と
 發熱咳嗽盜汗口乾く等ハ証
 ヲ治と 當歸 芍藥 各五分 白朮
 麥門冬 各一及生地黄 八分 陳皮 七分
 黄栢 知母 各五分 甘艸 一分 一末
 水ハ煎入煎也。〇 色慾過
 人熱時と定て來り盜汗咳嗽と
 せん先これ用ゆ病ハ脾胃
 傷と受元氣衰あるに用る
 くの

加味逍遙散 肝經血少者 脾胃

虛勞して肝火動るの治す

當歸 芍藥 白朮 柴胡 茯苓 各

甘艸 三分 牡丹皮 山梔子 各六分 右

八味姜入煎之 〇牡丹皮山梔子

の二味去原の逍遙散あり

頰赤く口燥し煩躁熱し盗汗

咳嗽肝脾の血虚も属する者

治す真元虚する者も用べし

〇歸脾湯 心脾虚し耗て諸証あり

と治す 〇方ハ健忘にのり 〇虚

熱挟する 〇牡丹皮山梔子を加ふ加

味飯脾湯といふ

〇獨參湯 陰虚陽暴に絶

眩仆する治す 〇人參五苓散

入半合に煎し服す 或ハ姜五分

加ふ 〇手足冷元陽虚する者あり

附子五分加ふれり 〇參附湯と

いふ 〇真陽虚し腕の血を出と

し 〇太く多る者あり 諸病あり

かの独參湯を用ふ 〇口開

き手撒る時にあつてハ百金の

人參を費すといふ 〇益の

〇諸血症

諸の血症多くハ血熱妄行

此證あり 〇寒のり虚實あり

辨知し 〇吐血胃より出

る咳より出る血と出る唾ハ血

出すと血血とハ肺より来る咯

す血の出る腎に属し小便

血ハ小腸ト膀胱大便血ハ大腸ト
テ来ル○脉諸ノ血證ハ多カ
脉トシテシテノ沉細ニ宜シ浮大

○犀角地黄湯 血熱妄行ノ

ノハ吐血衄血下血ト治ト犀角
牡丹皮各二兩生地黃二兩赤芍
藥二兩玄參黃連黃芩各一兩

右七味煎ト○咯血ノ山梔子麥

門冬黃栢知母當飯ト加ム○唾

血ノ山梔子麥門冬黃栢知母

當飯熟地黄ト加ム

○加減四物湯 吐血ト治ト當飯

生地黃芍藥山梔子貝母知母

牡丹皮黃栢麥門冬陳皮白朮

玄參甘州金華分右十二味煎ト

○咳血ノ茅根黃芩ト加ム○小便

血ノ車前子小蘗ト加ム○右ノ二

方ノ血熱内積脉洪大弦長ト

トカノハ血氣強ク盛ナル者

ハ内傷ノ吐血或ハ虛

火上外ノ者ハ内傷ノ吐血或ハ虛

○積聚

氣ノ五臟ノ内に積ル積ルノ

其ノ發ルト常レ処ノ痛ト

又其處ノ外ヘ移ラテ聚ルハ氣ノ

六府に聚ルト聚ルハ其發ルト

上リ下リト留ル所アリ痛ト

亦常レ處ハ○脉實大ハハ沉

小八宣 かのす

○七氣湯 積聚氣にささるる上
へ外て心腹痛、小腹痛、満る者
と治と 三稜 莪朮 青皮 陳皮
香附子 藿香 桔梗 肉桂 益智
各等分 甘草 右十味 姜 入煎
と 指迷七氣湯 といふと 此方
の積聚と治と 脾胃弱く氣
血衰ゆる者ゆへ用ゆへ 座中
とか君子あると 小人自く
居と ころあたり 教へり 此方の
如く 堅く磨き 結と破るへ
小人のいふと 君子は徳あわ
らざるあり

○加減補中益氣湯 積聚或へ上より
あり 下にあり 或へ左或へ右にありて
痛くは 面黄肌瘦 手足困倦 飲食
と思へり 治と ○補中益氣湯 外
外麻と去 茯苓 半夏 山查子 枳實 厚
朴と加へ 共十二味と多し 棗と入
煎と ○元氣大と虚とりのあり
枳實 厚朴と 用ゆへす

○水腫

腎と水と 脾土と堤と 故と
脾腎虚と 水腫と 全身
通身 面目 手足と 浮て 腫と 水
腫と 腰と 大に 鼓の如く
面目 手足 腫と 脹満と 此の 盪
脹と 此の 脈洪大と 者へす

○分消湯 水腫脹滿と治し或は

脾虚しく腫滿し或は飽悶と治し

蒼朮 白朮 茯苓 陳皮 厚朴

枳實 各一分 香附子 猪苓 沢瀉

大腹皮 各八分 砂仁 七分 木香 三分 右

十二味と云うは燈心と入煎と○此

方と實脾飲とも云○飲食不傷

らるに因り腫れあすや治と氣

血虚弱しく腫滿と云ふ用へ

補中治湿湯 腫脹朝の寛く暮る

急あるは氣血の虚とす此方

これと治と 人参 白朮 各二分

蒼朮 茯苓 陳皮 當歸 麦門冬

木通 各九分 黄芩 六分 厚朴 外麻

各三分 右十一味煎と○氣血の虚

小属と云ふ治す脾肺大に虚し

或は下元虚寒れ者も用へる寸

○黄疽

湿熱脾胃に鬱し蒸く面目手足

通身に黄あるは黄疽といふ

尤も虚實のり一概に治とす

と○脈洪數と實熱と微瀉

と虚弱と云ふ

○清熱除湿湯 湿熱脾に鬱蒸

と五疸と云ふと治とす 山慈竹

黄連 黄芩 茵陳 猪苓 澤瀉

蒼朮 青皮 龍膽 各一分 右九味

煎と○黄疽 五のりありと

と云ふは湿熱小属とる者へと云

此方は、主として脾胃傷り、血虚する者への用ゆべきす。脾胃虚寒しく黄の病に、理中湯を用ひ、諸病の後、黄を發せしむるに、四君子湯、小陳皮黄芩、扁豆を加へ用ゆ、諸の失血して黄沈あすの十全大補湯を用ゆべし。

○疝氣

内湿熱あつて、外の寒氣を受けて、疝氣の病にあす。此證多くと、厥陰經のあり。脈牢急なり。弱急ハ凶。

○

呉茱萸湯 疝氣腹中痛積氣上て逆し、陰囊冷るを治す。呉茱萸五分、川烏頭、細辛各七分、

良姜、當歸、肉桂、乾姜各二分、

右七味煎じ。是寒湿を属する

りのと治し、湿熱氣滯けるもの

用ゆべし。

○

三和散 疝氣脚氣上り、肢節痛く、腹滿大便通せざるを治す。

川芎、羌活、紫蘇、木瓜、大腹皮、

沉香各五分、陳皮、木香、檳榔子、

白朮各四分、甘草二分、右十一味煎

じ。腹筋牽急、大便通せず、氣

の滯るに属するものを治す。津

液乾る血虚する者への用ゆべし。

し。

○

五積散 寒湿の疝氣を治す。又、冬月寒氣に、ゆいて發るもの。

用ゆべし本方に延胡索とる
○方の中寒はあり

○汗證

動搖勞役とくも汗をす時
みく汗の出る自汗と云陰虛
に属と盜汗の寐る中に通身
汗出て覺る後小智云陰虛
に属と○脈大して虚あるは
浮して軟寸口ふる自汗と
尺部にふる盜汗とす

○當収六黄湯 陰虛して盜汗と
る治す 當収 黄芪 冬 黄柏
生地黃 熟地黄 黄芩 黄連 各
七分 右七味煎と ○苦寒は胃
虛に宜し火實に氣強る

○參芪湯 自汗と治と 熟地黄

當収 人參 黄芪 白朮 茯苓
各二分 甘草二分 芍薬 牡蛎 酸棗仁
各二分 陳皮七分 烏梅二分 浮小麦三分
右十三味棗入煎と ○氣血調
理の汗と飲るは方あり自汗盜
汗とありありと治と

○黄芪建中湯 自汗及び盜汗と

治と 黄芪 膠飴 肉桂 各二分 芍薬
三分 甘草一分 右五味棗入煎と
煎と ○陰氣損 陽虚とるの
皆此方を用ひて自汗盜汗と治
○眩暈付健忘正忡
風邪上り攻痰壅りて眩暈と

或ハ氣虛失血或ハ陰虛火動
此証トあり心脾虛ト耗意
思寧カズト健忘ト怔忡
トあり○脈浮ト風ト強ト
滑ト痰ト健忘怔忡の脈ト入

○清暈化痰湯 眩暈ト治ト陳皮
半夏 茯苓 各一匁 枳實 各一匁 黃芩
川芎 各八分 白芷 羌活 各七分 防風
細辛 天南星 各六分 甘艸 三分 右十
二味姜ト入煎ト○強ト實トあり者
風痰ト攻ト眩暈ト治トす
若虚証ハ眩暈ト用ト立ト
ト危ト

○歸脾湯 思慮ト脾ト傷ト

或ハ下血衄血ト虚ト怔忡ト
驚ト健忘ト治ト人参
黃芪 白朮 茯苓 龍眼肉 酸棗仁
各一匁 遠志 一匁 木香 當歸 各五分
甘草 三分 右十味姜棗ト入煎ト
○心脾虚ト治ト實熱痰
結レのハ用ト

○消渴 消渴ト
上消ト邪熱肺ト燥ト多ク水ト
飲食トすト大小便常ト中
消ト胃熱ト脾陰虚ト飲食ト不
多ト小便赤ト下消ト腎虚ト
水乾ト多ク水ト小便ト
ト細ト浮短トあり

○黄連地黄湯 二の消渴を治す

黄連 生地黄 當歸 人參 葛根
茯苓 麥門冬 五味子 天麻 各
等分 甘草 炙 右十味を湯で煮

入煎じ 〇血熱を除き液を生じ
渴を止るに劑あり 下消腎水甚く
虚し 津液上らざる者 少の仲景
の八味丸を用へ 此方れ如きもの

○小便閉大便閉 治す方

小便閉ハ寒熱膀胱を客と氣閉て
通せざる也 大便閉ハ風寒濕氣皆
よく腸胃の間を壅り滯り氣液
よく大便秘結せり 〇二
証より少或ハ諸虚失血のちをく
あり 誤り治す方ハ脈小便

閉ハ浮脈 〇瀉大便閉ハ多ハ
沈伏と

○潤燥湯 大便閉結し通せざる

と治す 桃仁 紅花 外麻 大黃
麻仁 當歸 各五 生地黄 熟地黄
甘草 各五分 右九味煎じ 楨榔子の
粉五分を入く 服す 〇大腸血少く
燥て通せざる者 治す 元氣虚弱

〇八正散 小便通せず少腹痛じ

と治す 〇方ハ淋病にあり 〇濕熱下
注 〇小便通せず 〇勢あつと
卒に通せざる 〇治す 脾胃弱く
腎虚 〇のち用ゆる

○淋病

〇方

脾土傷_レ受_レ飲食_ノ氣_ヲ運_ト
化_ス能_ク肺_ノ金_ヲ助_ル以_テ
水道_ヲ清_ル或_ハ色_欲過_リ及_ハ七情_ノ鬱_結又_ハ濕_熱之_癰滯_ヲ大_ニ堅_ク吉_ニ虚_細以_テ瀉_ス
○五淋散 氣_ヲ破_ス血_ヲ膏_ラ五_淋之_治
赤_芍藥_山梔_子各_五赤_{茯苓}
三_當飯_甘艸_黄芩_各一_半右
六_味燈_心入_煎之_一方_に生_地黄
沢_瀉木_通滑_石車_前子_加矣_ふ
十一_味之_強盛_る之_肺氣_調
ら_ずと_熱淋_とあ_す之_治虚_者
ハ_正散_小便_を通_す閉_を通_す

○遺精付遺溺
夢_み交_合し_て精_ヲ泄_ス夢_遺云_ふ
又_思願_く遂_に心_疲火_動或_ハ色_欲過_り腎_虚之_皆遺_精と_あす_又膀胱_の

○遺精付遺溺
補_中益_氣湯_老人_虚人_及ハ_陽
氣_下陷_して_淋と_あす_之治_す
肺_氣熱_レ受_レて_不足_とる_者ハ_人
五_味子_麦門_冬加_方内_傷あり

○遺精付遺溺
大_黄 藺_麥 菡_萸 滑_石 木_通
山_梔子_車前_子各_等分_甘艸_少右
八_味燈_心入_煎之_熱淋_實証_の
之_治と_通藥_ハ腎_氣之_瀉す_多
く_服す_之況_ニ虚_とる_者ハ_多
補_中益_氣湯_老人_虚人_及ハ_陽
氣_下陷_して_淋と_あす_之治_す
肺_氣熱_レ受_レて_不足_とる_者ハ_人
五_味子_麦門_冬加_方内_傷あり

ろ氣約ありのき覚じ小便と
その是遺溺の脈在右の
尺脈洪數あり遺精の寸脈短
小あり心虚とす

○清心湯 遺精夢遺と治と 黃連
生地黃 當皈 人參 遠志 茯神
酸棗仁 蓮肉 各等 甘艸 右
九味煎と ○心動と火ととく
遺精すと治と腎虚と肺氣
衰へのの此例ありとす

○參芪湯 氣虚と遺溺と治
人參 黃芪 陳皮 茯苓 當皈
熟地黄 白朮 各五分 益智 八分 升麻
肉桂 各五分 甘艸 三分 右十一味 姜
棗と煎と ○遺溺の肺氣の虚あり
屬と此方ありと主治急病元氣

虚脱とる者あり四君子湯と用ひ
茯苓と去黄芪と加ふ此方れとす
よく治とる所ありとす

○頭痛

風寒暑湿と浸され或ハ氣血の虚
驟より氣逆上して頭痛と作
後ハ常に發して頭風とある痛
偏あり偏頭痛と又腦の内盡
く痛と手足冷て筋に力ありの眞
頭痛と云わたり死と業のわよ
者あり寸脈浮滑ハ吉短濇ハ治
難

○半夏白朮天麻湯 痰厥と頭痛
眩暈と治と 半夏 麥芽

陳皮各七分 白朮 神麩各五分 人參
蒼朮 茯苓 天麻 黃芪 澤瀉 各三
分半 乾姜 三分 黃柏 一分半 右十二味
姜入煎之 脾胃素弱 弱して
飲食に傷らん 脾湿痰を生ずる
頭痛 眩暈する者 治すべし
外邪の頭痛及ひ氣虚するもの
ゆへ用ゆるべし

○川芎茶調散 諸風上せめ目昏く
頭痛 鼻塞 声重 治す
薄荷 四錢 荆芥 川芎 各二錢 羌活
白芷 各一錢 細辛 五分 防風 一分 甘草
五分 右八味好葉茶ニ入煎之 或
は右の八味散藥小く煎菜の
薄く用るとは風氣に感ずる

頭痛 治す 又風邪に感ずる
去ど尚上部に留ると只頭痛する
みと亦用ゆべし 氣血虚弱の風氣
ありと此方宜し 取らわす
○加味調中益氣湯 氣血の虚
頭痛 治す 人參 黃芪
蒼朮 川芎 各六錢 當歸 五錢 芍藥
柴胡 陳皮 蔓荊子 各三分 細辛 黃柏
甘艸 各二分 右十二味煎之 氣虚
血弱の者の頭痛 治す 或は補中
益氣湯十全大補湯に之の宜し
↓隨て用ゆべし

○心痛 付腹痛
痰食中に鬱し 七情の結滯に
く心は痛する 又内外の邪氣心

〇 疝一犬痛と手足冷、節に至るもの必ず死と此、真心痛といふ療治の及ぶ取にわづ度痛と寒あり熱あり死血あり湿痰あり食積あり皆、腹の痛、とあり、脈沉弦細動、の痛の証あり、寸口あり、心痛と頭部に、と腹痛、の清熱解毒湯、心痛多くと、氣鬱、熱とて痛む、の、と治と、山梔子、二、半、川芎、枳殼、各一、二、蒼朮、香附子、黃連、各七分、陳皮、乾姜、各五分、甘草、三分、右九味、姜、入煎と、〇 壯ある者、氣鬱、より痛、治す、痰、因と、痛、の、二陳湯に枳實縮砂、加用、ゆ、虚人内傷の、ゆ、ゆ、補中益氣湯、用、の、草豆蔻、加、熱痛、ゆ、

又山梔子、と、

〇 開胃導氣湯、一切の腹痛、と治、とら、の、總司、とら、也、蒼朮、香附子、川芎、白芷、茯苓、滑石、山梔子、神麴、各一、二、陳皮、乾姜、各五分、甘朮、少、右十一味、煎、と、〇 此方、諸の、腹痛、と、總治、とら、れ、藥也、とら、れ、と、諸、藥、雜、と、亂、で、の、可、あ、す、と、專、一、あり、難、寒、は、ら、く、痛、の、五、積、散、熱、の、小、柴、胡、湯、食、積、の、香、砂、平、胃、散、用、ゆ、一、概、と、此、方、と、以、て、總、治、と、す、と、

〇 脇痛、付、腰痛、肩、背、痛、厥、陰、肝、經、の、兩、の、脇、と、行、る、故、と、風

寒痰飲此經ノ客ヲ或ハ肝ノ實
 火或ハ死血あるノ皆ク脇痛ニ
 トノ或ハ腰ハ腎ノ府ニ寒濕風虛
 腎ノ侵スルノ皆腰痛トアス肩
 背ハ手ニ太陽經ノ主トス取アリ
 氣鬱して行ズルニ痛ニ
 脈左右ナリハ弦アリ脇痛ト沉
 弦ト腰ノ痛トナ

〇疎肝湯 左ノ脇ノ下痛ハ肝積也
 或ハ怒テ此証ニシテ或ハ物ヲ擊ツテ
 痛ニ治ス 黃連 吳茱萸ノ煎ニ沈
 酒浸シ焙リニ柴胡 當歸 各五分
 青皮 枳仁 枳殼 各五分 川芎 芍藥
 各七分 紅花 五分 右九味煎ト〇右
 ノ脇痛トスルハ姜黃 桂心 陳皮 片

草ノ加ヘ共ニ十二味煎ニ入煎ス
 肝積瘀血或ハ怒ルニ治ス痛ニ
 實証ノ者ニ用ヘ肝腎ノ虛ニ用
 ズ

〇補陰湯 腎虛ニ腰痛ニ治ス
 當歸 芍藥 生地黃 熟地黄 陳皮
 茴香 牛膝 破胡紙 杜仲 茯苓 各
 五分 人參 五分 黃柏 知母 各七分 甘肅 三
 右十四味煎ニ入煎ス 腎虛常ニ
 腰痛ノノニ治ス 腎元大ニ虚ニハ
 少ハ與ヘズ

〇獨活寄生湯 風濕腎ニ傷リテ腰
 痛ニ治ス 〇方ハ中濕ニ見ヘリ
 通氣防風湯 肩背痛ニ首ノ動
 難ニ治ス 羌活 獨活 各五分

藁本 防風 川芎 甘草 各五分 蔓
荊子 三分 右七味煎之 ○氣鬱一太
陽經行と實証のものに治す 氣血
虚弱内傷のものに補中益氣湯
のものを八物湯に黄芪を加へ用ゆ

○痛風 付痺證

風寒湿の氣に長くと痛と云
痺と云ふは古くは是と痛痺と云ふ
の咬み如くは此彼痛と云ふて又是と
白虎歴節風といふ脈弦と云ふ緊
痛風といふ痺ハ浮瀉ふして緊

○

羌活湯 遍身骨節痛への治と
羌活 蒼朮 黄芩 當歸 茯苓 芍
藥 香附子 半夏 各々半木香 陳
皮 各七分 甘艸 三分 右十一味姜と入煎

と風湿のものと痛と治す 血氣
虚くと痛む者も用ゆは反りて
病と云ふは與ふべし

○

大防風湯 一切の麻痺痿軟風湿
虚と挾とらるる治す 白朮 一々半
熟地黄 防風 當歸 黄芪 芍藥
杜仲 各々川芎 附子 各七分 人參
羌活 牛膝 各五分 甘艸 三分 右十三
味姜棗と入煎 ○虚証の者
と治とらるる宜し 外邪の風痺實証
のものに宜し かつ

○脚氣

脾胃虚弱と云ふ外邪に侵
され湿熱下に注ぎあれて此病と
云ふ脚腫と湿脚氣といふ腫と

乾脚氣といふ古の病なりて厥と云
 後又緩風といふ皆今に脚氣の
 也○脈微滑虚に牢堅實
 羌活道滯湯 脚氣初起たり
 一身悉く痛く手足腫痛大小便
 滯を結すを治し先此方を用ひて
 ころり導く羌活 独活 當飯各
 二兩防己一兩半枳實一兩大黃四分右
 六味煎之○風湿去二便の結滯
 通ころり劑也久病の者及び
 二便順ありのころり用ひて
 ○當飯枯痛湯 湿熱の脚氣手足
 の節骨煩痛痛く肩背重遍身
 痛く脛赤く腫或は瘡を生じ
 治し 羌活 當飯 猪苓 知母

白木 澤瀉 各六分 人参 苦參 升
 麻 葛根 防風 蒼朮 各四分 茵陳
 黃芩 各五分 甘艸 三分 右五味煎
 之○脚氣腫痛く湿熱内壅り
 黄を發せし者治し寒湿の五
 積散を用ひて木瓜栝椰子穿山甲
 加し風湿の脚氣の香蘇散
 木瓜栝椰子加用ひて氣道通
 じ氣滯を解し三和散
 血虚の四物湯を用ひて加減
 ○眼目
 眼の血の養を得て視を
 作らるる血不足は眼病の
 然るも血餘の病は
 かす或は風熱上侵し辛熱食

しるく多く或は色欲過して腎水を耗し勞役してして氣を傷るこれ皆く眼に諸証ありす○

脈洪弦數あるは眼病とす

洗肝散 風熱上り攻暴に赤く腫痛く隠澁涙多しを治す 山梔子

當歸 川芎 薄荷 羌活 防風 大

黃各等分 甘艸 右八味煎す○行

熱し去風毒を除く方又病目を

治し血虚勞倦の者も用ゆ可す

滋腎明目湯 神を勞し腎虚し

く血少く眼痛く物を見し欲せ

と及ひ内障黒華を見らるるを治す

當歸 川芎 芍藥 生地黃 熟地

黃各二分 枳椇 人參 山梔子 白芷

黃連 蔓荊子 菊花 甘艸 各五分

右十三味好葉茶燈心を入煎じ食

後服す○血虚し火熱は屬する

者も治し脾胃の氣虚する者も

かめ用ゆ可す

益氣聰明湯 飲食勞役小因く

脾胃不足し内障耳鳴を治す

黃芪 人參 各五分 外麻 葛根 各二分

芍藥 黃柏 冬分 蔓荊子 一分半 右

七味煎す○眼に昏く物を見

難くは元氣大に虚せしるに用

ゆべし元氣大に虚しる者も補

中益氣湯を用人參黃芪を併せ

久し病て形氣より小虚損する者

及ひ血虚者も十全大補湯

白豆蔻沉香附子加用

○口齒

舌ハ心ノ苗也齒ハ骨ノ餘リ
腎氣ニ入リ主ツル熱ハ心ノ虚ニ因
ク舌齒ノ諸証ノ多ク胃熱ノ多
ク此病ノ多ク又多ク○脈洪
數ノ熱ハ微弱ノ虚ノ寸尺
少ク心腎ノ診

○清胃散

胃熱ハ唇裂或ハ口
中ノ瘡ノ生シ齒痛ノ腫或ハ
膿爛テ痛ノ治ト石膏生地黃
當取黃連 外麻 防風 牡丹皮
荊芥 各等分 右八味煎ト○齒ノ痛
胃熱ノ属スルもの治す火乃有
餘ハ涼膈散ト用ルハ脾胃虚

カアノ用ケル

○玄參外麻湯

舌ノ上ニ瘡ノ生シ
或ハ舌腫テ痛ノ治ト玄參外麻
赤芍藥 桔梗 枳實 黃芩 犀角
各等分 甘艸 少 右八味生薑ト煎
ト○心脾ニ熱壅リテ此証ノ多ク

○定痛散

虫鼠齒痛甚クハ治
當取 生地黃 細辛 乾姜 白芷
連翹 黃連 山椒 苦參 桔梗 烏
梅 各等分 甘艸 少 右十二味煎ト
先口ニ嚙ミ漱シ後ニ嚙下す○
腸胃ノ中ニ濕熱アルク虫齒ノ病
者ト治ト上齦ハ胃經ノ分ト行ル所

下齒ハ太陽經ノ絡脈あり總て牙齒ノ病ヲ療ずるもの上下に分つて治すべし此方れ如く虚弱あり者ハ垂齒ありと用ゆべし

〇清胃保中湯 虚弱あり者齒痛く忍らんば治す補中益氣湯ハ生地黄清連牡丹皮とくまらる方あり〇心脾ノ虚熱によつて舌腫痛發熱口乾と食少とのみハ加味飯脾湯用ゆべし方諸虚あり

〇咽喉のんど

喉ノ氣ノ通ド肺ノ繫る咽ノ物と嚥胃に通と五藏熱とらとら腫塞つて通せず六府寒とら対ハ縮硬して物ノ下らと或ハ虚

火上外ハ或ハ風痰上り壅つて腫痛とら〇脉實滑ハ

微ハ伏とら者ハ治しとら清涼散 一切ノ實火あり咽喉

腫痛とら治す 桔梗ニ及山梔子連翹 黄芩 防風 枳殼 黄連

當皈 生地黄 各一々薄苛五分甘草三分右十一味燈心細茶入煎

と〇咽喉腫痛或ハ閉塞ハ或ハ瘡と生と實熱の者ありハ皆と是

と治すべし虚火あり用ゆべし死と招く

〇牛旁子湯 風熱上り咽喉腫痛或ハ瘡と生と言語の難と治

と牛旁子 玄参 犀角 外麻

黄芩 木通 桔梗 各五分 甘草 五分
右八味煎之 風熱腫毒のものと
治之 〇風痰上り壅りて咽痛の
もの 二陳湯に 桔梗 荆芥 薄荷
加用之 〇虚弱勞倦れりもの 補
中益氣湯に 用ひ 桔梗 玄参 黄栢
加 〇相火亢るり 〇物湯に
用ひ 知母 黄栢 天花粉 杜 梗 甘草
玄参

通関散 喉痺腫痛言語せざる

治之 人参 白朮 茯苓 各一本
防風 荆芥 薄荷 乾姜 各五本
梗 甘草 右九味附子に 加へ
煎之 〇喉痺腫痛に 治之 〇
從治の法に 驟て寒涼の薬に 用る

腫らぬ 〇死に急なる時ハ
腫らぬ 〇突破りて 血と出さば
血ととら 〇妙とら 喉痺ハ 急証也
早く 治とら 〇遲緩ハ 救とら 〇

〇耳病

耳ハ腎の主 〇竅也 多クハ腎虚
に 〇耳病 〇或ハ氣逆上
り 〇或ハ勞傷する者 又ハ 痰濕熱
皆 〇耳病 〇左ノ尺
脈ととら 〇是ハ 候ハ 〇風と 〇洪
と 〇熱と 〇腎虚と 〇瀉脈と 〇見す
〇滋腎通耳湯 腎虚と 〇耳病と
鳴と 〇治と 〇當歸 芍薬 生地黃
川芎 知母 苧栢 黄芩 香附子
柴胡 白芷 各五分 右十味煎之 〇

腎虛火亢るもの治と中氣虛弱の用ゆり

○蔓荊子散 上焦熱し耳内より膿汁し出し及び耳鳴り聞へる治

と蔓荊子 外麻 木通 赤芍薬 麦門冬 生地黄 赤茯苓 桑白皮

前胡 菊花 甘草 等分 午一味 姜し入煎じ

○風熱上にろくろの証とありの治と實証れもの風熱甚しにあり防風通聖散を用ゆ

○氣鬱し逆上るに沉香降氣湯ありの十六味流氣飲

○血虚し火ありの四物湯を用ひ山梔子柴胡し加ふ

○中氣の虚弱あり補中益氣湯

○腎水虚し火動者に六味地黄丸を用ゆ

○痔漏 内辛熱の物多く食し及び色欲し過し憂思の傷られ外風熱湿燥に侵され此病あり肛門の邊に瘡を生じ破きしるし痔と破きて膿血の出る漏す

○脈沉小にして實あり者 舌浮洪し軟弱ありの治

○秦芫羌活湯 痔漏塊し或は垂下り頻し痒し治し 羌活一分

○秦芫 黄芩 防風 各七分 外麻 麻黄

○柴胡 各五分 藁本 三分 細辛 紅花

○甘艸 各一分 右を煎じ服す

○秦芫防風湯 痔漏毎日大便の時痛

○脱肛
○痔漏
○毒解
○老人氣弱
○四君子湯
○内熱
○黄芩
○黄連
○槐花
○四物湯
○黄芩
○黄連
○槐花

○脱肛
○脱肛門
○脱出
○云肺氣虛

○脱肛
○脱肛門
○脱出
○云肺氣虛
○大腸の氣提る力
○久痢の後
○小児の叫號
○脈小にして緩
○是に反するもの

○参芪湯
○芍藥
○白朮
○生地
○黄芩
○茯苓
○各一及
○外麻
○桔梗
○陳皮
○各五分
○甘草
○右十一味
○姜棗
○入煎
○虚寒
○乾姜
○加
○脾肺虚寒
○者
○脱肛
○治
○湿熱
○外邪
○の
○宜
○外陽除濕湯
○大腸
○湿熱
○有
○柴胡
○外麻

防風 猪苓 澤瀉 蒼朮 陳皮
神麴 麦芽 各等分 甘艸 炙甘草 味
煎之 ○大腸に濕熱ありと素
り虚る者あり用ゆべし ○
風邪にうつく脱肛一實証の者
あり敗毒散用ては ○血熱あり
四物湯用ひ黄柏外麻加ふ ○
脾肺弱く元氣虚る者あり補
中益氣湯は訶子樗根加用ゆ
○氣血ともに虚せば八物湯或を
十全大補湯用ゆべし

○癲癩

夫癲癩或は狂の或は静泣笑と
常あり言語と頭ありて尾也
めれ志し大なる願と遂り

心血不足一此証あり癲癩時
々に發て又止あり其發るは或は
驚により或は怒により痰火と動
目眩付き痰癩抽掣ありす
涎沫と吐られ大に驚と感と細く
と神氣守らざりて此証ありす
又幼少に於て大に驚と感と細く
後此病と成りあり ○或大骨ハ
吉沉小緊急ハ凶一
養血清心湯 癲癩心血の不足
喜の笑と常あり治す
人參 白朮 茯苓 遠志 酸棗仁
當歸 川芎 生地黃 石菖蒲 各等
甘艸 炙甘草 味煎之 ○心氣
血と補ふ劑ニ實執並氣盛はて癲

○清心抑膽湯 痢の氣血の虚に属して

痰火を兼る者治を 當飯 芍薬

白朮 茯苓 陳皮 半夏 香附子

枳實 竹茹 菖蒲 黃連 各一錢 川芎

人參 遠志 甘艸 麥門冬 各四分 姜煎

養老一方 丹溪の母年七旬に素

より痰飲多く大便結し小便便少

治し人參 白朮 大牛膝 芍薬 中

陳皮 茯苓 小の春 川芎 加(夏)五

味子 黃芩 麥門冬 加(冬)當歸 生姜

加(二)日に二貼 矢へく小便長く快

し尿の葉を止し

○又八百の老人二便通せざるに益氣

湯の前湯を以て六味丸とすと安

○外科

○癰疽疔諸瘡

離六腑小属と毒外にのりて發

るしく暴也とるれと筋骨と傷ら

ど疽六五臟に属しく毒内に攻て

發るしく緩し毒深くと筋骨と

傷る又云く二寸より五寸まで癰

と五寸より一尺まで疽といふ今通

して癰疽といふ内飲食の積熱

より外風寒湿の氣に傷られ或は水

耗火動し或は氣鬱勞倦にらるる

○癰疽諸の瘡毒の初

發惡寒發熱甚し頭痛傷寒に

沉敷く疽といふ

似し者治し○古の敗毒散人
參去荊芥防風連翹忍冬加
共十三味也○風熱の積毒以
の實証のものに用ゆ○内傷の
者中初發のものに用ゆ

○十六味流氣飲 名とすも諸の
惡瘡癰疽或は乳岩を治し又氣
等と腫物を生じ或は皮肉の間
に核を生じこれに用ひ人参
黃芪 當歸 川芎 芍藥 枳殼子
肉桂 防風 烏朮 白芷 枳殼
厚朴 木香 各一各此藥蒸一各半桔梗
五分甘艸三分右煎じ或は青皮を加
○氣鬱し或は怒りしは氣血凝
滯して腫物を生ずる者も用ひ

服じぐぐの況や氣弱く血虚の者も
○千金内托散 癰疽或は瘡癤の
類のものに口開する者又は已に膿潰
し者皆くこれに治し 人参
黃芪 當歸 各二 川芎 防風 桔梗
厚朴 白芷 肉桂 各一 甘草 五分 右
十三味煎じ或は酒を加し煎じ又
粉薬にして酒中用ひ○人参養
血湯 氣を補ひ地黄當歸川芎芍
薬を補ふこと血を燥し氣を瀉する
の藥の代りなり故に癰疽潰へ
廣りあぐ腐るものも用ひるなり
○托裏散 癰疽氣血虚しく起り
發するものも或は腐を潰す
飲りかき及の肌肉を生ぜしめ

治す 人參 黃芪 各二錢 白朮 陳皮 當歸 熟地黄 芍藥 茯苓 甘草 各一錢 右九味煎之 ○瘰癧氣虛 疔者其始め終つて是に用 下 或ハ陽氣下に陥り元氣虚 する者ハ補中益氣湯用之 ○瘰癧膿大い出て後ハ八物湯十 全大補湯の類用て調理し 虚甚し者又冬比寒する月を 乾姜附子用之

○下疳 付便毒 楊梅瘡

色欲動くと遂に或ハ交合す 潔くすくと玉莖に瘡を生ず 下疳といふ便毒ハ小腹の下腹の 縫の生じ色欲直に遂るとせし

一々陰精中途に留りて便毒とあ る楊梅瘡ハ下疳或ハ便毒の生 生ト又ハ入り感とスルこれ

とあり何れともハ肝腎の湿熱 あり下疳便毒腫痛と小便さうり 前陰痛と痒と等の証と治す

柴胡 澤瀉 車前子 各一錢 木通 生地黃 當歸 各一錢 龍胆 五分 煎す

○前陰の生じり病肝腎の湿熱痰 壅るりの皆くこれと治し虚する 者ハ用るこれハ血虚熱の

のハ四物湯用ひ柴胡山梔子 加ハ虚執食少者ハ加味道 遙散元氣虚するのハ補中 益氣湯或ハ山梔子龍胆加ハ

○搜風解毒湯 楊梅瘡治之或
 輕粉入之其藥服之筋骨
 の痛身節遂に治
 土茯苓七々 薏苡仁 金銀花 防風
 木瓜 木通 白鮮皮 各五分 皂角子
 四分 右八味煎之 氣虛の人は參
 加の楊梅瘡治之要方之或ハ
 下痢の病のし亦ハ用之兼
 と楊梅瘡防之 氣血虚の
 ののの散散

○疥瘡

風熱或ハ湿ハ挾之皮膚の間ニ容
 りて生じ

○外麻和氣飲 疥瘡手足に生じ
 痛く痒く寒熱あつて前後の邊り

湿痒治之 外麻 葛根 白芷
 陳皮 蒼朮 桔梗 各々當節 半夏
 茯苓 乾姜 枳殼 大黃 各九分 芍
 藥七分 甘艸五分 右十四味生薑
 入煎之 疥瘡浮腫前後陰湿痒之
 治之虚人ハ宜一カケズ

○瘰癧

瘰癧て熱生じて火散之或ハ氣
 鬱一痰滯之耳の前後或ハ頤
 の下胸腋のののの結核生
 じ

○五香連翹湯 諸の惡瘡結核の
 治之 大黃 三々 連翹 射干
 外麻 獨活 木通 桑寄生 乳香
 各三分 青皮 木香 甘艸 各 鹿麝香

右十二味煎と惡物大便より
下ろし度とて菜と止む○是氣
と導引血と通じて壅り滞り散
じろの方也氣血實とる者の初發
み用ゆへに膿潰ての後へ与ふ
らに虚とる者も初發といふ共
用ゆへに菜止めす

○十六味流氣飲 氣鬱し或は怒
氣にいらく皮肉の回りに結核と生
じらと治し○方の瘰癧よんはり
益氣養榮湯 鬱証と瘰癧と
生し手足腫肉の色変らば或は日
晡に熱氣に或は潰れ飲らばと
治し 黃芪 人參 白朮 芍薬
當歸 芍薬 生地 黃陳皮 貝母

香附子 各々 柴胡 桔梗 地骨皮 各
五分 甘艸 三分 右十四味煎と
鬱結して瘰癧と生じらと治す氣
血大に虚とる十全大補湯に香附子
貝母遠志とて用ゆ

○損傷付破傷風 金瘡
物に撲し或は高きより墮と皮破
しに内損とる者も皆損傷と云
血出さるより瘰癧とある也破
傷風は金瘡の口或は腫物の口より
風邪と引込て寒熱發り或は口噤
め身直と或は反張と金瘡の刀で
切破らると云○脈損傷内は瘀血
あつて腹脹るとの脈堅強はは
小弱は凶し金瘡血出るごとく

脈虚細あるハ吉急數大あるハ凶
道滯湯 打撲きく内ハ瘀血の

以テ痛ハ腫マシメテ治ス

熟地黄 赤芍藥 各二匁 黄芩 枳椇

子 牡丹皮 各一匁半 當飯尾 一匁 桃仁

八分 紅花 三分 右八味煎シ酒ニ蒸

シテ大黃一匁加ヘテ効アリ

瘀血ノ攻下ノ方ニ實人ニ用ヅ

虚証ハハ八物湯益氣湯ノ類ニ用

ハク瘀血ノ去ノ薬ニ加フ

○ 羌活防風湯 破傷風邪氣表ハ

ルニ治ス ○ 羌活 防風 當飯尾 芍薬

川芎 藁本 各一匁 地榆 細辛 各五分

甘艸 三分 右九味煎シ

○ 白朮湯 破傷風汗大ニ出テ止ス

筋挛手足搐搦ニ治ス 芍薬 四匁

白朮 葛根 各二匁 針麻 黄芩 各一匁

甘艸 五分 右六味煎シ

○ 大芎黄湯 破傷風裏ハハニ治ス

川芎 一匁 黄芩 大黃 羌活 各一匁半

右四味煎シ大便下ルニ度ニシテ

薬ニ止ビ ○ 右ノ三方ハ破傷風ニ治ス

皆實証ノ者ニ用ヅ ○ 氣血虚弱

あるハハ八物湯十全大補湯ノ類ハ

用ク風邪ノ去ノ薬ニ加フ

○ 加味四物湯 金瘡血ノ出トシ多ク

ニ治ス ○ 方ハ四物湯ハ人參 黄芪

加ヘ共ニ六味煎シ ○ 金瘡ニ治ス

ハ脾胃ノ氣ニ扶ヒ氣血ニ補ヒ血熱

ニ清シテ下四君子湯 補中益氣湯

八物湯十全大補湯の類の証は随
つて是れ用ゆ又血出ると大はして
元氣虚脱とるゆに獨參湯と用下

○婦人科

○經脈付經閉

婦人の十四の月水時を以て下る
これ女の陰は月月の盈虧有る如
月經調らざれば後諸病とある慎
治とす一〇脈左の尺脈微瀯或ハ浮
滑はとく旬かゝるハ月水調らざる
或ハ通せざるあり

○四物湯 經水れ調らざる治とる

ゆに此方と主と加減とく用ゆ〇方
ハ諸虚とあり〇加減の法〇經水

來らざるハ腹痛ハ血實ハ氣

滯ハ桃仁紅花香附子黃連延胡

索牡丹皮莪朮青皮〇經水來

りて後小痛とるハ四君子湯と合

るて乾姜〇加〇經水との時分

過てと來らば痛とる者ハ血虚

寒の也桃仁紅花香附子肉桂莪

朮木通藕朮甘草〇經水來

るハ黄芩白朮〇經水

溢りしとるハ莪朮紅花〇痰

血と行とるハ桃仁紅花肉桂延胡

索香附子青皮の類〇痰とるハ

半夏陳皮天南星〇經水閉て通

せざるハ桃仁紅花〇加小痛とるハ

莪朮肉桂五灵脂〇加〇右四物湯

と主と証小隨と加減と用ゆ体瘦

弱

弱

弱

弱

弱

弱

弱

弱

弱

弱

火多く血分傷ゆへに氣虚せし者
は手少陰の經水先して來る血
熱之脾經の血燥ゆへに加味逍遙
散脾經の爵火を因てありて脾湯
用少勞使火動ゆへに補中益氣湯の經
水時に後て來る血虚脾經の血虚
ゆへに八珍養榮湯肝經の血少を
ゆへに六味地黄丸氣虚血弱をゆへに
物湯を用ひて經閉脾胃虚血を生
じゆへに能くゆへに六君子湯を加へ
當飯に加入脾胃の爵火を飯脾湯
肝脾の虚熱にゆへに加味逍遙散血
弱く氣虚に瘦衰へ夜に至り熱の
る者ゆへに八物湯を用ひて虚甚く或
ハ寒月ゆへに乾姜附子湯

○崩漏

内血氣弱く外風冷に侵されし
血大小下りて止む後ゆへに血氣虚
脱の証とあり○脈小虚はと滑か
るゆへに大緊實數ありゆへに

○加味四物湯 崩漏初ゆへに先此方
を用ひて○方ハ四物湯ハ荊芥防
風升麻に加入共ハ七味煎と○血止
ゆへに蒲黄白朮に加入○此方氣の
實ゆへに者の初發を用ひて多服と
ゆへに況や氣虚とて血を攝じゆへに
能くゆへに者にありて

○膠芥湯 崩漏止と小腹痛むと治
阿膠 川芎 甘草 各一各當飯 艾葉
各三各 熟地黄 芍薬 各四各 右七味

煎じ血氣を勞傷して血止る者
治す崩漏發熱のみの八物湯
用の熱甚しく乾姜を加ふ氣
虚しく血を攝め止る能はるのみ
補中益氣湯血を出入る大はて
陽氣暴に絶へ已ふ死せんとすのみ
獨參湯六服して用ゆへ

○帶下

湿熱凝滯を帶脈に過く淋瀝下
故に帶下と云白は氣に屬し赤
は血に屬す

○外麻滲湿湯 經水調うに帶下

赤白の共 當飯 川芎
芍藥 生地黃 白朮 茯苓 蒼朮
陳皮 香附 砂仁 半夏 各一各

乾姜七分 知母 外麻
各五分 甘草 三分 右十七味 桑葉入
煎じ血虚見熱を兼る者治
と帶下久敷愈じく虚も宜る
者のみ用るべきあり

○五積散 赤白帶下寒湿に屬する

りの治す香附子 吳茱萸 茴香
加減十全大補湯 久敷帶下病
瘦衰へく力あり身痛を食少を目瞤
の煩を熱し小便澀を治す方

○骨皮鹿角膠を加へ共十二味煎じ

氣虚湿痰下に注ぐ者のみ補中益
氣湯用の蒼朮半復茯苓黃柏を加

○産前付臨産

男れ精これに女血の精と
攝るに懐胎する精女血勝て
氣子宮の左に受るの男子と成
血男の精は勝て氣子宮は右に
受るの女子とある○脈心脈の動
甚しく脈はこれと按て絶てると
妊娠の左の脈沉實と男は右の
脈浮大と女とす

○驗胎散 血塊り胎疑はる
此時の身を用ゆ 川芎一味粉は
とて一々艾葉の煎じ汁めて用ゆれ
ハ腹の内火一チ 胎の動るこ
しハ懐胎は非也 實人驗
川芎の目地あるは胎の動る

虚入りの胎動ありは胎の動る
一 半盞ごかり用ゆ 腹中大ふ
痛と妊婦の高かれば懐胎は非と
○紫蘇和氣飲 産前の諸病に宜し
加減よく用へ 紫蘇 川芎 陳皮
芍薬 大腹皮 香附子 當歸 各等分
甘草 少右八味生姜 入煎じ○氣
虚少の人參を加ふ○加減の法○胎氣
和すの胸に心腹張痛少く木香
を加ふ○嘔吐止むる悪阻ありは
半復砂仁藿香神麩丁子を加ふ胎
氣調むる常は小産とるに兼て
此薬を服すへ 地黄 阿膠 黄芩 砂
仁 桑寄生 白木糖米を加用○事は
因く胎動よく安かり下血よく

胎腫しすりに地黄人參白朮茯苓
 冬黃芩阿膠破仁仁加の咳嗽
 痰吐少葉白皮杏仁貝母加の
 泄瀉瀉白朮茯苓加の瘧疾
 枳櫛子草菓青皮良姜半復茯苓
 葛根加の氣の付付るやうやうに
 つつ痛し胎痛痛の阿膠延胡
 索黃芩加の妊て七八ヶ月の前後
 而目浮腫腫の地黄茯苓沢瀉白
 木黃芩山梔子麥門冬厚朴加の
 口噤噤て人事事省省言語錯り
 乱る乱の生地黃半復茯苓麥門冬
 遠志石菖蒲竹葉葉の胸痛痛の
 延胡索乳香加の腰痛痛の忍忍へら

○小便澀り澀通通でで小便小便通車
 前子滑石加の六便閉結結の
 生地黃黃連加の懷妊妊の
 後氣安の寸覚覚或の腹少痛
 或の腰痛痛の或の飲食食味味の
 く或の胎動動の下血血の五月
 六月の内内常常此菜菜服服てて熾也
 地黃黃芩破仁人參阿膠白朮
 加用用のの川芎香附子子去
 人參白朮加の達生散散の懷妊
 八月九月の後後此藥藥服服てて難産
 驚驚の恐恐るるの胎上り上て下ら
 ぶゆゆの達生散散加用用の右諸諸の
 加減減の法法く虚實實の弁弁証証の隨隨て

用ゆへ虚甚る者各補劑と
主として加減して胎を養ふ經氣
虚實調つる時胎是つたぬ不安
く甚るる時下血しく墮る也
よく慎むべし

○催生飲 已小産は臨ぐ産せざるに
用ゆ催生の藥あり 當飯 川芎
大腹皮 枳殼 白芷 各五分 右五味
煎し温服して腰痛く甚しく胎
下へ陥り漿水破れ出る待く催
生の菜を服して驟く努力回産門
乾る氣力竭く難産小瓜熟
して蒂脱るのよし采人苗を握の
誠めあり慎まざるべし

○芍歸湯 産は臨ぐ牛膝を加用ゆ
喉の危く急あつて治す 當飯
川芎 三々半 右二味濃煎し酒と牛
分入温めて用ゆ 催生は此方隠
當ありその血盛るる時八産湯
酒と交されど驗あり必し酒と入
○胞衣下すゆめは牛膝を加用ゆ

○産後

産後へ氣血ありは虚し或惡露
盡し或は瘀血行じく産後の諸証
よあり○脈産後あり沉小滑あり
吉しす實大弦急あり
○芍歸調榮湯 新産子は用て血
を調へ氣を補ふは諸証自ら
除く方へ芍歸湯は入參紅花を
加へ共々四味煎して氣血を補ひ瘀

○行きの劑あり新産ふかき

これ用ゆべ

芎歸調血飲 産後ノ諸病ノ治

宜ノ加減 用ゆ當飯

川芎 芍薬 酒炒 熟地黄 香附子

白朮 茯苓 陳皮 各等分 甘艸 右

九味姜棗 煎じ 新産のへ某

服す 臨く 童便一盞好酒半盞

加へ用ゆ 瘀血ノ行 熱

退く 妙方あり 加減の法 産

後目昏 心憤 語らぬ 荊芥

加へ口苦く咽乾 麦門冬 加へ

氣腦のへ木香烏某 加へ大熱退

くこふら炒過 乾姜 加へ

生陽收ら 黄芩 人参

○咳嗽のへ五味子杏仁

の腸痛のへ青皮肉桂 加へ痰

の半復貝母 加へ嘔吐止 破に

半夏 加へ地黄 去へ自汗盜汗

黄芩酸棗仁 加へ泄瀉止

黄芩乾姜 加へ地黄 去へ瘀血行

らへ心腹痛のへ肉桂五灵脂蒲黄

延胡索牡丹皮 加へ地黄白朮

去へ血 去へ過多 頭暈め

目暗く口噤じ 荆芥 人参 乾姜

加へ胸の間張悶ゆるのへ破に枳

實山查子厚朴 加へ惡露行

のへ益母草牡丹皮 加へ血大

下 止む 蒲黄 黒 程

は炒て本方れ煎湯めて調へ服す

一〇物の驚る怔忡（心驚く）の遠志
 麥門冬（心驚く）酸棗仁（心驚く）加小産（小産）の心
 腹痛の延胡索（心驚く）牡丹皮（心驚く）桃仁（心驚く）紅花
 青皮（心驚く）澤蘭（心驚く）加白木（心驚く）茯苓（心驚く）去産
 後の大小氣血（心驚く）補本（心驚く）雜証
 末とのして是を治す此方此加
 減の法の如く虚實を察し明
 らめて誤り治さず虚甚る者
 者別の方未じ下〇産後虚
 補ふ人参（心驚く）白朮（心驚く）黄芪（心驚く）陳皮（心驚く）當
 歸（心驚く）尾川（心驚く）甘艸（心驚く）用熱氣輕
 加〇産後發熱暈厥（心驚く）の時乾姜（心驚く）附
 子（心驚く）補中益氣湯（心驚く）用ひられし驗
 〇八物湯（心驚く）用ひられし驗

〇寒月（心驚く）の乾姜（心驚く）附子（心驚く）加
 して發熱暈厥（心驚く）する候も此法（心驚く）依
 る治す〇産後（心驚く）或は小産（心驚く）血大
 出氣血虚脱（心驚く）一危く急ある候大
 服の独參湯（心驚く）用へ〇産後（心驚く）何の
 病あつても某（心驚く）服と養生と
 四君子湯（心驚く）陳皮（心驚く）藿香（心驚く）縮砂（心驚く）黄芪（心驚く）
 加用〇産後（心驚く）氣血（心驚く）入虚（心驚く）その
 上忌の内身（心驚く）慎し誠（心驚く）守ら
 せと發熱汗出（心驚く）手足痛（心驚く）り
 〇病とある候も蓐勞（心驚く）云十全
 大補湯（心驚く）用ひ加減とす
 〇小兒科
 小兒（心驚く）病（心驚く）治とく古人（心驚く）皆難
 一〇誠（心驚く）証（心驚く）問（心驚く）の二法（心驚く）〇改（心驚く）

といふ定まりありて浮沉極く変
 じは面部の外候虎口の説とあ
 關へし此等に依るれば其証と
 極ろく成るなり

○面部形色之圖



左の腮ハ肝ハ屬と色青と順と白
 逆と赤ハ肝經の風熱と主と
 青黒ハ驚風腹痛と主と淡赤ハ
 潮熱痰嗽と主と右の腮ハ肺ハ屬

と色白と順と赤と逆と
 赤と其と咳喘急と主と
 その色頰傳りハ小便赤く並り
 或ハ通せりハ額ハ心ハ屬
 と色赤と順と黒と逆と
 青黒ハ驚風腹痛痰喘と主
 どり少ハ黄あつハ盗汗驚悸骨
 熱と主と鼻ハ脾ハ屬
 と色黄あつと順と青と逆と
 赤ハ脾經の虛熱と主と深黄
 あつハ小便通せり或ハ鼻燥ハ血
 出るハ腎ハ屬と色
 黒と順と黄あつと逆と赤
 腎ハ膀胱ハ熱あつハ小便
 通せり

小兒二歳より内ハ虎口三関の紋
理ヲ見ク病ヲ知ベシ

虎口
三関
之圖



男ハ左女ハ右ノ手ヲ取人指ノ本の
ノ節ノ風関トシ中ノ節ノ氣関トシ
第三ノ節ノ命関トシ此ノ紋風関
みられハ病ありク冷陽ノ氣関ハ
ありハ病重ク冷命関ハありハ
病已ニ深く治レバ此ノ紋ノ色
紫ハ熱トシ赤ハ傷寒トシ青ハ
驚レ主ル○白ハ疳ノ病○黒ハ
惡氣に中ラレトシ○黄ハ脾
ノ困レ瘦ラレ也○淡赤ハ寒熱

表のわりの○深紅ハ傷寒熱疾ノ主
○紋乱ラ時ハ病久シ○細のろとハ
腹痛多く啼乳食消ゼレハ麩ク
直ニ指甲に入リ驚風ト主ル惡証
あり黒ク墨の如クあるハ諸病トシ
治レバ必ズ死ス○右虎口三関
ノ義或ハ是トシ或ハ非トシあるハ
ト其説久ククモ小兒ノ治トシ
ノの捨テテ所あり男女にノノトク
左右のろラありトシトシト亦左
右トシト參驗レバ左ハ心肝ハ
應レ右ハ肺脾ハ應レト
○小兒ノ脈法
小兒三歳より後ハ醫者ノ大ゆハ
ハのりト用ク兒ノ寸関尺ト按候

ふあり脈の數呼吸の間は六七至
と常脈とのこりより數多きと
熱し是より數少きと寒し
○浮數ある風熱とれ。虚濡驚
風。緊弦は腹痛。弦急は氣和せり
牢實大便結と。沉細は冷。緩小
沉細ある宿食消せりとす。沉
遲は虚と。沉實は積と。單細
は疝勞あり。右寸関尺の脈法三歳
よりうらとす。と浮沉遲數を辨
寒熱虚實を察す。十二三歳は
以後大人と法を同じうす
○甘連湯 産出して其任用ゆ
黄連一兩甘草六分右二味縮み包み
熱湯に振出して用。○

と其後軟ある縮又ハ綿を搦み卷
と兒の口中にあり思ふ汁穢する
毒を拭ひ去る此薬を用ゆ。或ハ
水雁しる辰砂一分蜜少
入く煉用ゆ但し火はあつと勿
辰砂火をいれハ人殺とこれ心
定め驚を鎮め毒を去の良法あり
○加味五香湯 小兒胎毒に頭
或ハ遍身に名あり癩瘡を生とす
治と 沉香 木香 乳香 丁子
藿香 外麻 葛根 連莖 各一
木通 大黃 各五分 右十味煎と
○方に黄連青皮甘草を加熱湯
あて振出し常に小兒に用く胎
毒を下し癩瘡を遁ると云。此方

小兒

百一

小兒は多く用へる薬に非と胎毒
内は深く瘡腫外に多きに用へ
それと久く服せざる今押並
と小兒はこれ用ゆその誤り來
るこの久しき証は歎くべし

○急驚風

古小陽痲と云へ今此急驚風あり
心膽は素より積熱あり陽氣盛
あり又外風寒に感ずる時ハ陽閉
て發せし故は神志なく驚亂
とく此証はあす○急驚ハ脈浮
數洪緊あり

○加味敗毒散

急驚風初て起り發
熱し手足搐搦し一服一反張る治
と○方ハ人參敗毒散ハ金匱白濁

白附子地骨皮天麻加六に十五味
生姜入煎と○風熱甚しく形氣

○鎮驚散

急驚風搐搦痰嗽喘熱
者治と 天南星 防風 蟬脫

薄荷各等分甘艸少右五味姜入

煎と急驚風喘嗽風痰のり治

とる要方あり○右の二方はくハ實

証の者といふも驚鎮とくハ則ち

薬止へし過し用ゆぐず況や虚

とる者ハ初發といふと用ゆと薬

あのくさるや○血虚肝火ハ四物

湯用ひ釣藤鈎加ハ驚鎮る

薬多く服し脾胃虚寒するハ

六君子湯用ひ丁香木香加ハ或

補中益氣湯と用て調理すべし

○慢驚風

古小陰痼と称するは今此慢驚風
これ也生付弱く心膽の氣盛あり
どして邪氣是より客つて慢驚の
証とあり或は脾胃虚し吐瀉す
るの後又は急驚風久しく愈じく
虚とるの比白く慢驚とある急驚
は多くは實熱とる治し易し慢驚は
皆虚熱とる治し難し○慢驚の
脈は沉遲散緩あり
醒脾散 小兒吐瀉し止む慢驚風
とあり脾胃を黙々として食せざる
と治し人参 白朮 茯苓 木香
全蝎 白附子 天麻 丁香 各等分

甘草 右九味姜棗と入煎す○脾と
補の驚と治し食し進るの方あり

虚寒甚るとは宜しかり

○補脾益真湯 小兒生付弱く外

實して内虚し乳と吐し糞の色青

くもて慢驚風とあり目を見つめ手足

播擲と治し 木香 當版 人参 黄

芪 丁子 柯子 陳皮 厚朴 肉豆蔻

草 藜 茯苓 白朮 肉桂 半夏 附子

各七分 全蝎 甘艸 各三分 右十七味と

入煎す○脾と益乳食し消

虚寒と温め補ふの劑あり元氣大

虚とる者には用し○脾胃虚し肌

熱し口乾し吐瀉し慢驚とるは

とすは七味白朮散と用て胃の氣

和せし吐浮とるもの或は吐利止ぐ後
煩多渴すは七味白朮散を用ひ木
香去黄芪白扁豆を加へ煩多熱と
る其甚くは再び竹葉を加へ吐瀉
久し止む慢驚とあり黙々として
語と常に睡り晴り顯り手足遍身
冷は附子理中湯を用ゆべし吐瀉
らく乳食とるは虚冷するは四君
子湯に附子木香陳皮を加へ用ゆ小
児の諸病に剛劑を用く後小慢驚
ある者六君子湯を用ひ附子を加へ
○疝疾 疝 疝
甘く肥膩つる物多く食し脾
不停り虫を生し変ると疝とある五
疝のけら有て五臟は傷るといふと

其初脾よりすといふは五疝の脾
虚して後四臟は傳へく五疝とある
脾胃虚とる時へ五藏の氣と攝ると
能くばる疝と治とる要法は脈
小兒の脈は單に細あると疝勞とい
○消疝飲 疝の病身熱し面黄と
腹大ふあり青筋いて瘦弱りると
治と 人参 白朮 茯苓 各二錢 陳
皮 黃連 各五分 甘草 三分 右十味煎と
脾補の食を消し虫を治とる方
あり秘發の者を用ゆべし病久し
虚甚しはの年よりす
○生熟地黄湯 疝に眼閉て開くと
目のうらに朦朧ありと治と 生地黄

熟地黄 各三錢 川芎 當歸 赤茯苓
地骨皮 天麻 半夏 枳殼 杏仁

黃連 各二錢 甘草 七分半 右十二味
黑豆十粒 入煎之 疰熱よ

實一病久かばさゆの治と
脾胃虛ととの或ハ肝腎不足ク

者多用ゆの小兒の疰疾矢
人の勞証と同一元氣大ニ虚

る時ふの早く是治と虚
極り証変とるに至くハ名醫と

と治一湯とやと誤り療
將來百年此命と折くハあり

治とるハ脾補ふ先と
兼く積消し虫と治と四君

子湯六君子湯六味丸補中益氣湯の
類と擇ひ用ひ或ハ積と磨し虫と

乃藥と加ハ或ハ參朮肥兒丸と兼用と
○瘵疾かゝる こんと治と

乳食調らざれば内ハ積滯り邪氣
相搏と此証とあす兩の脇と塊あり

瘵疾とハ漸く飲食減脾胃虚
く救ひ難とにゆる病深かゝる時

よあり是と治とハ脈沉細あり
瘵疾とす

消瘵湯 小兒の瘵疾發熱口乾
小便赤と治と 人參 白朮 半夏

茯苓 柴胡 黃芩 猪苓 沢瀉 三稜
莪朮 胡黃連 麥門冬 山查子 各等分

甘草 右十四味 姜棗と入煎と腹
中に瘵塊ありと熱し小便赤と

者之治と病久しく脾胃虚とるもの
あん用とあるれ。瘵疾久しく愈と
或ハ塊ノ伐氣と損とる者ハ六君
子湯補中益氣湯の類ハ宜し。隨
ハ是ノ用ノ正氣ノ養ハ時ハ塊リ
自ガ除ク或ハ參朮肥兒を兼用
その瘵ノミカド

○痘瘡

小兒胎内ノ時五臟ノ血穢とる
物ノ食ハ其毒子ハ命門ノ伏一隱
生シ出ク後時ノ熱ヲ遇或ハ
乳食ハ傷ラシ或ハ驚恐ノ由
命門ノ伏一ノ町ノ毒氣外ニ
發スルトアサ是ノ痘瘡トシ
脈起脹シテハ浮大トシ數ノ吉

之ノ沉細トシテ遲トシテ收
靨トシ後ハ脈和緩あるト吉トシ洪
數あるト宜クナシ

○痘瘡の日數

- 發熱三日
 - 見點三日
 - 起脹三日
 - 貫膿三日
 - 收靨三日
- 此れ日數ノ常ニ
病ノ正ニシテあり病輕ニシテハ
早ク重ク者ハ遲クシテ此日數
ノ拘ルベクナシ

○外麻葛根湯

痘瘡頭痛發熱痘
疹ノ出シ傷寒に似ト疑ハ
時ニこれノ用カ方ハ傷寒ノ
山查一牛房子ノ如クハ冬ノ寒
ノ月ハ紫蘇ノ如クハ痘瘡少

よくと出るものを用ゆべし

○参茸飲 風寒に感熱甚しく

頭痛咳嗽するは是を用ひ表和

痘出易し方ハ傷寒よりあり

惺々散 發熱の初疑り此時生

付虚弱ある者ハ是を用ひ

○方ハ四君子湯に桔梗細辛瓜蒌根

ト加へ共ニ七味ト薄荷ト入煎じ

○十神解毒湯 身大熱痘未

出揃り咽渴水欲小便赤く

澁る者ト治じ 當歸尾 生地黃

紅花 牡丹皮 赤芍藥 大腹皮

桔梗 木通 連翹 川芎 各等分 右

十味燈心ト入煎じ 實証熱盛多

のを用ゆべし

○透肌散 氣弱く痘出盡る

ト治じ 紫草 木通 半芍藥

人參 蟬脫 升麻 甘艸 各五分 右七

味煎じ 執邪ト大小便より利じ

乃方熱多者大便利る者ト用じ

○神功散 痘已不出毒氣甚しく

遍身赤く血に界目れりからく

或ハ吐血一衄血ト或ハ吐瀉ト

治じ 黃芩 人參 芍藥 生地黃

紫草 紅花 牛蒡子 各等分 前胡

甘草 各半分 右九味煎じ 痘毒を

熱盛る者ト用べし

○保元湯 痘起脹るト治じ 黃芪

人參 甘草 右三味姜ト入

煎じ 頭額起脹せりハ川芎ト

加〇面起脹せしんハ外麻ハツク。

胸のオの起脹せしんハ桔梗ハ加。

〇腰膝起脹せしんハ半膝ハ加。

ハ手起脹せしんハ桂枝ハ加。

内外固キ毒解シ虚証ハ治。

乃要方あり。虚實ハ弁シ明ス。

虚証ハ差シんハ前リ後ニ。

至ル方ハ此方ハ加減シ。

〇内托散 氣血虚損ハ或ハ風邪積

毒ハ觸レ痘ハ陷リ凹ク出シ或ハ出テ

身ハ快カ治シ。

人參 當敗 各ニ川芎 防風 桔梗

厚朴 白芷 甘艸 各ニ木香 肉桂

各ニ分。右十一味煎シ。是風邪積

毒ハハハ陷リ貫膿ス者ハ黄芪

六々甘艸ハ右二味煎シ服シ。

淡白ハ貫膿ス者ハ十全大補湯ハ宜シ。

〇起死回生散 痘七八日ハ忽チ

變シて黒クなり腹の内ハ収リ入遍

身ハ痒破リ死セんハ治シ。

當敗 川芎 芍藥 生地 黄 外麻

紅花 各等分 右六味煎シ或ハ酒ハ

半分交シ煎シ。吉ハ血ハ活シ。

熱ハ清シ三母ハ拔シ方ハあり。若寒ハ

因キ色黒クなり肉桂一味粉ハ。

湯ハ用シ。氣虚ハ痘ハの

色ハ灰白クありハ四君子湯ハ。

黄芪 當敗 肉桂 各ニ。

回天汁 露飲 熱毒解ハ或ハ毒ハ洗

反^そに發熱^{はつねつ}蒸^む々とする^{とす}と治^ちせ 百沸^{ひやくはつ}
湯^ゆ二^に匙^し用の白砂糖^{はくさとう}半^{はん}盞^{さん}入^いり立^た
くこれ^{これ}腹^{はら}を^をれ^れど^ど熱^{ねつ}良^{よし}と^と痘^{とう}靨^{えつ}也^{なり}

○痘^{とう}濕^{しつ}り潤^{うる}ひ有^ありて^て飲^のみ^みる^る内^{うち}虚^{きょ}也^{なり}

傷^や元^{げん}湯^{とう}用^{もち}ひ白^{はく}木^{ぼく}茯苓^{ふくろう}加^{くわ}ふ

消毒^{しょうどく}飲^{いん} 痘^{とう}収^{しゆう}後^{のち}餘^{あま}毒^{どく}此^{こゝ}諸^{しよ}證^{てい}と

治^ちせ 牛^{ぎゅう}子^し四^し荆^{けい}芥^{けい} 甘^{かん}艸^{そう}各^{かく}一^{いつ}本^{ぼん}

防^{ぼう}風^{ふう} 五^ご分^{ぶん}右^{みぎ}四^し味^み煎^{せん}と^と熱^{ねつ}毒^{どく}瘡^{そう}毒^{どく}

治^ちせ^せに^に黄^{わう}芩^{しん}犀^し角^{かく}加^{くわ}へ^へ用^{もち}ゆ^ゆ

証^{てい}誠^{まこと}多^{おほ}し^し四^し君^{くん}子^し湯^{とう}四^し物^{ぶつ}湯^{とう}補^ほ中^{ちゆう}

益^{えき}氣^き湯^{とう}十^{じゅう}全^{ぜん}太^{たい}補^ほ湯^{とう}の類^{るい}ひ^ひ証^{てい}と

と^とめ^め加^{くわ}減^{げん}して^{して}これ^{これ}と^と治^ちせ^せと^と或^{ある}は^は表^{ひょう}

裏^{うら}共^{ども}に^に虚^{きょ}と^とあり^{あり}或^{ある}は^は表^{ひょう}裏^{うら}共^{ども}に^に寒^{かん}

ぢ^ぢる^るあり^{あり}又^{また}裏^{うら}寒^{かん}牙^がと^と咬^かひ^ひ証^{てい}あり

陳^{ちん}氏^しが^が木^{もく}香^{かう}散^{さん}十^{じゅう}二^に味^み異^い功^{こう}散^{さん}附^ふ子^し理^り

中^{ちゆう}湯^{とう}の類^{るい}ひ^ひ証^{てい}と^と隨^{ずい}く^く用^{もち}ゆ^ゆ

○麻^ま疹^{しん}と^とい^いふ

六^{ろく}府^ふ腸^{ちやう}胃^いの熱^{ねつ}毒^{どく}肺^{はい}と^と熱^{ねつ}外^{がい}風^{ふう}寒^{かん}の

感^{かん}と^と或^{ある}は^は乳^{にゅう}食^{じき}調^{てう}あ^あら^らる^る因^{いん}に^に

熱^{ねつ}外^{がい}に^に發^{はつ}して^{して}麻^ま疹^{しん}と^とある^{ある}表^{ひょう}の^の瘡^{そう}瘡^{そう}

と^と似^にたり^{たり}とい^いふ^ふと^と裏^{うら}の^の各^{かく}別^{べつ}の^の物^{もの}と

是^{こゝ}と^と治^ちせ^せると^とい^いふ^ふと^と出^いで^でと^と以^{もつ}て^ては^は

と^とい^いふ^ふと^と生^{せい}死^し多^{おほ}く^くの^の出^いで^での^の前^{まへ}あり

餘^{あま}毒^{どく}又^{また}解^げし^し易^いし^し

外^{がい}麻^ま葛^{かく}根^{こん}湯^{とう} 發^{はつ}熱^{ねつ}初^{しつ}め^めて^て起^{おこ}る^る者^{もの}

と^と治^ちせ^せと^と志^しと^と紫^し蘇^そ葱^{そう}白^{はく}加^{くわ}へ^へ肌^いを

解^げし^しと^とい^いふ^ふと^と痘^{とう}瘡^{そう}の^の初^{しつ}熱^{ねつ}と^と治^ちせ^せると^と方^{ほう}

と^と参^{さん}考^{こう}へ^へこれ^{これ}と^と用^{もち}ゆ^ゆと^と共^{ども}に^に大^{だい}小^{せう}

異あるはかゝる方ハ傷寒にあり

○消毒飲 麻疹已に出見れば一日小

るく又没び者ハ風寒ハ解りて麻

毒内攻あり急ふ此方を用ゆ

或ハ麻疹退これ後風寒に感

ふれば亦これ方宜。方ハ痘瘡あり

○犀角解毒湯 麻疹已に出く大小

便より血を出し或ハ吐血衄血

二便閉澀り麻疹多く出赤痛

熱渴とる治す 犀角 牡丹皮 赤

芍藥 黃連 黃芩 黃柏 山梔子 銓

生地黄 五分 右八味煎す。麻疹盛ふ

とて實熱ありのに用へ 虚とる者

或ハ血大出る後ハ用ゆ

○血熱にのみ諸血を出とる者ハ四

物湯を用ひ犀角を加ふ脾胃弱者

小地黄去べ。麻疹前より後まで

潮熱退らざる者ハ血虚血熱ハ四

物湯に地黄去紅花黃芩加用

○十仙湯 疹後の餘毒を治す

葛根 玄參 黃連 黃芩 山梔子

陳皮 茯苓 枳殼 生地黄 各等分 右

十味姜入煎す。熱毒のまご去む

壅り盛る者に用ゆ。微よくと虚

は且らハ與ふべし。麻疹治す

にハ參白朮の類と巨てハ初熱ハ

まご去む毒氣尚ふる者ハ用ゆ

くはこれ教之然るに真別根

と添へ人の眼目と拘泥せむ此詞

と頼りのハ氣血虚弱ととと毒

小児

消熱除の劑と過して死を催促

とる方葉氏が筆頭はては又その

を利し又實とる者に於ては其の月

ひて其のこのいふ豈此一病のふ

限るに實と實とるも虚と虚と

むる聖人の誠する所群賢の詳を

る所之仁心の者あんと是と忍ん

や此証と治する者古人補注の意

求てこれと治して葉氏が叙術と慕

ひてあまは法ととる八誠と大疏の基

○九散の藥付難と

六味丸又地黄八とも云腎虚と

病とるいふ此皆用へ水と壯

火と制とるの葉之熟地黄八十目

山茱萸山藥各四十目茯苓沢瀉

牡丹皮各二十目右極細末して煉

蜜めて丸と白湯めて用ひ又塩ゆ

或ハ酒を酌ゆるもは痰のりの

あハ姜湯にて用ひ

○八味丸又八味地黄丸とりの腎の火火

共ハ虚しる者に用ひ又命門の火

衰へて脾胃虚寒する者と治と。先

○

六味丸れ如又丸とるあり

木香檳榔丸一切ハ熱積胸膈快

かハ腸胃伸じ氣耐積塊ある者

と合し黒牽牛子二十目大黄三十目

木香檳榔子黄連陳皮各十目

枳殼莪朮黄栢青皮各十目右十一

味水にて丸し姜湯めて用ひ

當飯十五多し加ふの實証の人氣
尊大便結一腹脹積塊の者
一用の虛弱ふへり

〇紫金錠 又解毒丹と云一切の

毒傷食腹痛霍乱吐瀉心の
痛喉痺虫齒痰氣小兒の急驚風
その外諸証と治せりこと尽く述べ

一奇妙の方あり 山茨姑二十目

五倍子三十目 續隨子十五大戟十五

麝香三目 右五味細末一正月の餅

或ハ五月の粽を用ひ相じ丸と此

藥と調合せりハ五月五日七月七日

九月九日此日身と清め去りたを調

合せりあり 婦人僧尼鶏犬と近

づくがす

〇參朮肥兒丸 疳消一食化一

癖と治一熱と去肝と抑一脾と補

一食と進め虫と治一肌膚と潤一

元氣と養ふ 人参 黃連 山查子

神麴 麦芽 各三々半 白朮 茯苓

甘艸 各三々 胡黃連 五々 史君子 四々

廬會 二々半 右十一味極細末とて糊

とて丸と九數の丸の大小と見て加

減とす

〇養胃丸 酒積氣鬱腹の痛宿食

重積と食と治と 木香 煨榔子

肉桂 附片 白朮 茯苓 香附子

荊芥 三稜 厚朴 各一々 甘草 一々

右十一味糊とて丸と〇虫積瘰と治

と虚人ハ〇酢散とす

返魂丹 家方秘傳 心疝 腹痛小

児の五疳五噎五膈癩癩入症之治也

嗜睡とく食ふひせ 痛い

その気付に妙あり 熊膽

附皮 黄連 雄黄 麝香 木香

鶴虱 雷丸 莪朮 三稜 各二分

大黃 酒 胡黄連 生黑牽子 半生

各五分 丁子 乳香 枳殼 黄芩

青皮 各三分 赤小豆 三七粒 生

赤小豆 甘艸 三全 右細末と 麩乃粉

蕎麦の粉等分 合せ 丸せ 心破衣

豊心丹 家傳名方 又沈鹿丹と名

く 芍薬 人参 縮砂 木香

丁子 藿香 沉香 白檀 煨榔子

草撥 各五分 桔梗 川芎 各五分

麝香 七分 五厘 樟腦 龍腦 各三分 五厘

甘艸 一分 三年上茶 十五又 右細末

三年にあるかき餅 糊あて丸

丹と衣す

錦袋子 本方秘傳 爵金 什麻

各十兩 白扁豆 山慈根 赤白

二十目 牛黄 射香 各六兩 安息香

木香 草撥 縮砂 白檀 乳香

没藥 丁子 雄黄 辰砂 甘艸 各

右のら米の粉糊に丸せ 餅のう

の集法とく紫金錠ふあ

一切の氣付腫物に貼く 功能悉

安神散 一切血の道に氣付あり 老

人虚人産後れ氣付にり

茯苓 茯神 黄芪 远志 各一人参
桔梗 各五分 山茱 木香 辰砂 各三分
甘柳 一分 右十味 細末 白湯 以之
用之 神安 氣正 精神 固

○香薷散 暑熱霍亂吐瀉腹痛
治之 香薷 十斤 白扁豆 五斤 厚朴
陳皮 茯苓 各三斤 黃連 二斤 甘柳 五分
右七味 細末 白湯 以之 用之 水

○延命散 虫積腹積 食傷霍
亂胸膈 不食 此藥 諸病
小兒 言傳 用之 來方 久
然 實証 入之 性虫 積
之 椰 菜 味 之 苦 以 之

○和中散 頭痛 腹の痛 泄瀉 嘔吐
世間 定齊 云 此藥 あり
右二十三味 細末 以之 用之
楛榔子 阿仙菜 各二斤 胡黃連 七分

○蘇合香圓 諸人 急疾 痰涎 壅
盛 者 治之 沉香 安息香
白朮 香附子 陳皮 各十斤
縮砂 藜蘆 茴香 各五斤
右粉 以之 用之

○九散

麝香 柯子 木香 草撥 蕪合油
 白朮 白檀 薰陸 丁子 龍腦 各
 十各辰砂 犀角 各五各右十四味安
 香蕪合油の外十二味極細末
 安息香 好酒 煮て ころり ころり
 合油 入り 煉合せて 又蜜 入り
 十二味 粉末 入丸 あり
 卒中風 或は 小児の 急驚風 痰壅り
 者 治と 諸の 急証の 氣付ふ
 用 多服 久く 用へ ず
 延齡丹 一漢老翁之秘方
 第一痰 氣の 弱き には 氣力
 と 強し 氣と ぬる 痰 咳 咽
 の 血の 氣付は
 右肺氣の方 常に 用ひ ず

肉桂 縮砂 丁子 沉香 辰砂
 各十各 白檀 草撥 各五各 木香
 桔梗 乳香 訶子 各七各 甘草
 麝香 三各 龍腦 二各四分 右十四味
 煉蜜 煮て これと 調 洗す 人の 十二味
 細末 龍腦 麝香 の ちり ちり
 乳鉢 煉蜜 入り 入り 麝香
 入粒 の ちり ちり 麝香
 又 龍腦 と 別 ちり ちり 後 龍腦 味
 と 合 せ 蜜 火
 入り 合 せ 又 葉 の 白 粉 春
 合 せ 練 終り 塗 物 入 封 置
 丁子 圓 此 藥 の 玉 には 暖 冷 痛
 酒 と 過 して 後

ひけふは其胸のつゝ積りつゝ痰
用少 丁子 莪朮 陳皮 乾姜 各
二 青皮 二 沉香 砂仁 各 一 甘州
黍 右八味細末とて蜜とて練る

○家傳明目膏 一切の眼病と治る

よ愈むと云ふと云ふ奇妙乃黙業也
炉岩石 海螵蛸 硼砂 各 一 辰砂
龍腦 二 右五味極細末とて煉
蜜とて練る

○洗眼散 諸の眼病と治と洗葉也

當歸 黃連 各 一 赤芍藥 防風 各
五分 杏仁 三分 右五味剉と縮と
包と熱湯とてと振出とて洗ふ
萬病無憂膏 打損切疵一切の名

りぬ腫毒瘡疔瘡癰腫瘰癧の類
と治と毒浅とりのへい散と毒
深とりのへ早く膿又已と膿潰

愈と其効乃奇妙とて盡く述

川烏頭 草烏頭 大黃 各 一
當歸 赤芍藥 白芷 連翹 白欬

白芨 木鱉子 烏菜肉桂 各 八 分
槐枝 桃枝 柳枝 桑枝 桑枝 各

四 分 苦參 皂角 各 五 分 右十九味剉
胡麻の油二竹と用と右の葉と油

入浸と一宿とて炭火とて煎じ
葉乃焦色とありとて炭火とて煎じ

縮めて油と濾渣と去ると油と又
火をかいて煎と水雁とて丹白

三十々少づへく槐樹柳の根と
 用く續陸くと手と住み今小攪せ
 と煉つじつ也油一滴と水にへく見
 も六珠とありてかゝる時火より
 ねりて乳香没薬各四々と粉みで
 火より下して油れ中へ入く攪せ
 と收貯火毒と退けて用ゆ
 ○五木湯 中風入痺れ或ハ半身遂
 づるに 椿枝 槐樹枝 榆枝
 柳枝 栗枝 各等分 右煎し浴せり
 ○十仙湯 中風半身遂り身痺れ
 疝氣脚氣腫脹痛しと治す
 桃仁七々 白芷 藁朮 稀莖 各五々
 丁子 甘松 白檀 各四々 菖蒲根
 石菖根 桑白皮 各三々 右洗湯は用

○日用食性 能毒

○狗脊 平小して毒の腫背痛に
 強り筋急り緩り寒湿入痺に
 利と久く食しれハ氣と壅と腹
 脹目暗 髪落る ○牛房寒く
 毒の腫毒と消し齒の痛やめ
 風毒及び足緩り弱さには生あて
 食しれハ人々吐らひる ○大根
 温りの毒は氣と下し食と消し痰と
 化し酒毒と解と多く食しれハ氣
 と動る生薑 ○大根の毒とけり
 ○蕪菁 湿く毒は氣と益中
 と通し食と消し嗽と腫と去
 熱毒と解と ○胡蘿蔔 温りの毒か

食性

氣益中補の食進の胸の向
及の腸胃の氣行五臟安す
○辛平に小毒の熱去湯
止の腸胃緩じ血の滞通
多く食とれ氣滞脾困
め化し○零餘子温あり毒
虚損補の腰脚強腎
益飢○竹筍微寒毒
胸利氣下熱痰
消多食とれ冷血及氣
發○款冬温あり毒咳止
喘息定熱去痰消心肺
潤五藏益○藜荷温小毒
あり諸虫毒消○花毒解
瘧疾多食とれ神明薄

菜力損○土筆温あり毒
風寒散○地膚寒
毒泄瀉○惡瘡の毒解
氣和じ小便通○苜蓿平
あり毒○血保精養
熱去石菜毒解○黃疸及
女の帶下崩漏○赤苜蓿人
害食○葎菜
毒胸開氣下湯
腸胃の熱去酒毒解多食
脚弱腰痛○婦人の鉄漿天
子及齒凍直○此米食
忽らに死○此齒染他物
食の後○此菜食
ふる故

食性
百

誤つて同食じやうぞ。雞腸草平
めく毒の腫毒消遣溺治
し常に食ふく人益あり。竟冷
あり毒の熱去虫毒消大
小便通痢病ふじ。馬齒莧
寒に毒の血散腫消
大便通毒消淋病女乃
帶下には多く食へ人害あり
○萵苣冷之微毒の胸用筋
骨堅く五臓通虫殺小
便通多く食へ目昏くす
○蒲公英平に毒の水腫治
疝氣には女の乳癰治す
○藜平あり小毒あり虫殺瘡
腫ふじ補益の功多食じやう

○五加葉温あり毒あり皮膚の
風湿去胸腹の痛疝氣には
枸杞温あり毒の風去熱消
眼病治麩類の毒解と
○葱温あり毒の風寒湿去
中温の毒解と大ふ人益有
虚氣上り及び汗出るりの多く
食じやう。苡苡微寒毒あり
病治じやうの功火多く食すれ
し諸病発と。烏芋微寒毒あり
胃用食下熱去渴
止多く食へ腹脹痛の蓮根平
ふる毒の熱去血去食消
ト渴止酒毒解と。生姜温
毒の風寒除と咳止治

養生
百廿一

痰去胃用毒消

天木蓼 温みく毒消風去積

消と女の虚勞は山葵温

消と毒の寒去内温め食

消と痰去心腹の痛

山椒 温めり毒めり風寒去中

温め腫消し湿去多く食を

氣損目病胡椒大温

氣下中温め痰去食消

消と多く食へ肺損目昏

葱 温め多く毒消大小腸の

邪氣除中利虫殺と多

食へ胃傷り心痛芥子温

毒消氣下し痰消肺通

多く食と多く胡椒温めで

毒のり亦氣治虫殺と多

食と多くす罌粟子平めり毒消

風去熱除と痰消燥潤

胡椒 平に多く毒消中補氣

消と筋骨強く耳目明

渴止膚潤と大豆温と毒消

氣下し内寛腫消大便

通と多く食へ氣壅と痰生

黑豆 平に多く毒消中調氣

通と水と利熱と多り食消

諸毒消と小豆 平に多く毒消

熱と去渴止小便通と酒毒消

解と多く食へ膚燥く多り

豇豆 平めり毒消中理め氣消

渴止胃健は精生

○綠豆 寒にして毒は氣を去り
 食消し熱を去毒を解く。豌豆
 平の毒あり寒熱を治し小便次
 通し渴をやめ腫を消し多く食の
 氣病を生じ。蠶豆 平の毒あり
 胃を快し藏府を和じ。刀豆 平小
 毒の中を温め氣を下し腸胃
 を通じ。茄子 寒の毒あり熱
 を去腸を寛く血を散し痛を止め
 勞氣をばし多食へ氣を動し人
 を損じ。越瓜 寒にして毒は熱
 を去渴をやめ小便を通し酒毒を解
 じ多く食をさす。胡瓜 寒也
 小毒あり熱を去渴をやめ小便次
 通し諸病を害あり小便を多用す

へん。冬瓜 微寒毒を去り小便
 を通し腫を治し熱を去渴を止多
 く食へ人々を疲し。冬瓜 寒也
 小毒あり熱を去渴を止小便を
 通し多く食へ。黃疸を病眼病を
 發じ。西瓜 寒にして毒は熱を去
 渴を止中を寛く氣を下し小便次
 通し酒毒を解く。干瓢 平あり
 毒あり熱を去渴をやめ惡瘡を治し
 水道を通し心腑を潤す。松茸 平
 あり。小豆 小便濁り或は頻りに
 〇麦藁 松茸と同じ。磨り置 寒
 かり毒あり氣を理め痰を化し腸
 胃をばし多く食へ氣を動し病を
 發じ。蘿蔔 平にして小毒あり

中ノ温の積ノ消ノ痛ノやめ更ノ治
○椎茸 温ふるく毒あり氣と塞
毒ノ生ノ多ク食ふクノ裏の黒
毒ありノ木耳 平也小毒あり氣
益志ノ強と多く食ふ
冬瓜ノ汁中ノ木耳の毒ノ消す
石茸 平に多く毒あり精ノ益目伏
明らるる多食へ大小便と洗
○昆布 寒あり毒あり積ノ破り水
通ノ惡瘡ノ治と多く食へ人ノ疲
○海帶 寒也毒あり風ノ去水ノ下多
食ふ
遺精ノ治一女の帯下には
温あり毒あり中ノ温の食ノ消ノ胃
ノ氣ノ強
○紫菜 寒に多く毒

あノ熱ノ去咽ノ利ノ氣ノ滞り代
去ノ苦菜 寒あり毒あり氣ノ結
塊ノ消ノ痰ノ去多ク食へ脾ノ破
○水松 寒に多く毒あり木腫ノ治
漢毒ノ去ノ海藻 寒あり毒あり
結核積聚ノ消と多く食ふ
○柑子 寒に多く毒あり腸胃ノ熱
ノ去渴ノ止小便ノ通
毒ありノ肺ノ潤ノ渴ノやめ胃ノ用
胸ノ利と多く食へ痰ノ生
寒に多く毒あり腸胃ノ惡氣
食ノ消ノ酒毒ノ解
○金柑 温あり
毒あり氣ノ下ノ膈ノ快
酒毒ノ解
○石榴 温あり
ノ消ノやめ虫ノ去痢病腹痛

多食へ肺へ傷り齒へ損と。梨
 寒の毒を熱く去濁くため痰を消
 咳を治し大小便を通し瘡毒
 酒毒を解し。林檎温めく毒を
 氣を下し痰を消し渴を止む多く
 食へ氣を塞ぎ瘡を生じ。柿平
 味の毒を血を止氣を健は熱を
 去濁を止痰を消し咳を治し心肺
 潤を多く食へ中を冷し。栗温
 多く毒を腸胃を厚し腎氣を
 補ひ腰脚筋骨を強し。梅平之
 毒を渴を止む多く食へ齒へ損し
 筋を傷る。桃熱め多く微毒あり
 肺へ病あり者には多く食すとす
 ○杏熱あり小毒あり心へ病あり

めには多く食すとす。の栗熱
 多く毒を脾に病あり者には生
 多く食すとす。の蒸くハ脾氣沈
 養の津液を生じ。枇杷平之毒を
 氣を下し胸を利し熱を去濁を止む
 多く食へ痰を生じ脾を傷。葡萄
 平之毒を筋骨を養ひ濕痺を
 治し氣をほかり力強く小便を通し
 ○楊梅温めく毒を渴を止腸胃を
 通し痰を去食を消し。椎平之
 多く毒を痔を治し虫を去食を消
 筋骨を助ひ目を明く。の華蘇
 平之毒を精を益目を明く。の骨
 節を強し腰脊の痛を肝腎を
 補ふ。葛粉平之く毒を熱を去

渴^カのめ胃^イの閉^ヒと食^シと下^ゲ酒^シ毒^{ドク}と
解^{トク}○小麦^{コヒキ}微寒^{ヒヤシ}毒^{ドク}は熱^ネ除^{トク}と
渴^カ止^ト小便^{シヤウベン}通^{トウ}と心^{シン}病^{ビョウ}の者^{モノ}ふ
は○大麦^{オホヒキ}微寒^{ヒヤシ}毒^{ドク}は氣^キ益^{トク}中^{チュウ}と
調^{テウ}食^{シキ}消^{シヨウ}渴^カの氣^キ下^ゲ積^{シキ}と
消^{シヨウ}○蕎麥^{ソウバク}寒^{ヒヤシ}に多く毒^{ドク}は風^{フウ}熱^ネ
去^キ積^{シキ}滯^シ化^カ氣^キ下^ゲ腹^{フク}胃^イ實^{ジツ}
○稷^{シキ}寒^{ヒヤシ}也毒^{ドク}は氣^キ益^{トク}熱^ネ除^{トク}脾^ヒ
胃^イ養^{ヤウ}多^タ食^シ冷^{レイ}病^{ビョウ}發^{ハツ}粟^{ソウ}
微寒^{ヒヤシ}毒^{ドク}は腎^{シン}養^{ヤウ}の虛^{キョ}補^ボ渴^カ
や熱^ネ去^キ小便^{シヤウベン}通^{トウ}と多^タ食^シと
氣^キ滯^シ生^シと○餅^{ヒョウ}溫^{オン}めて
毒^{ドク}は中^{チュウ}溫^{オン}の氣^キ益^{トク}大便^{オホベン}堅^{ケン}小
便^{シヤウベン}縮^{シュク}自^ジ汗^{アツ}收^{オウ}小兒^{コノチ}病^{ビョウ}人^{ニン}共^{トモ}
下^ゲ忌^イ下^ゲ○豆腐^{トウフ}寒^{ヒヤシ}小毒^{コドク}有^{アル}

中^{チュウ}寬^{カン}脾胃^イ和^ワ大腸^{オホチョウ}の氣^キ
下^ゲ多^タ食^シと下^ゲ大根^{オホネ}豆^{マメ}
腐^ク毒^{ドク}解^{トク}○向^{キョウ}弱^{ジュク}寒^{ヒヤシ}と
毒^{ドク}のり渴^カと下^ゲ血^{ケツ}治^チ腫^{シュウ}毒^{ドク}
消^{シヨウ}多^タ食^シと人^{ニン}益^{トク}力^{リキ}
○麩^フ冷^{レイ}の毒^{ドク}熱^ネ除^{トク}中^{チュウ}
寬^{カン}氣^キ力^{リキ}と味噌^{ミソ}冷^{レイ}の
毒^{ドク}脾胃^イ和^ワ諸^{シヨ}毒^{ドク}け腸^{チョウ}
胃^イ潤^{ジュン}大小便^{オホシヤウベン}利^リと五臟^{ゴゾウ}血氣^{ケツキ}
と調^{テウ}養^{ヤウ}の醬油^{シヤウユ}冷^{レイ}毒^{ドク}と
除^{トク}大便^{オホベン}通^{トウ}一切^{イツセツ}の毒^{ドク}と
多^タ食^シへ痰^{タン}生^シ氣^キ動^{ドウ}と酢^ソ
瀝^{シキ}水^{スイ}氣^キ散^{サン}邪^{ジャ}毒^{ドク}
殺^{コロス}魚肉^{イサニク}及^キ菜^{サイ}草^{ソウ}毒^{ドク}のり
酒^{シウ}大熱^{オホネツ}と毒^{ドク}のり風寒^{フウカン}濕^{シツ}と去^キ

○食性

百廿七

邪毒除く氣を行らば毒の腸
 胃厚く皮膚潤く飲過多
 かんば諸病生じ毒失の調温
 毒の腫消し小便通積破
 痔治し虚勞は鱸平にき
 小毒の腸胃和し筋骨養水
 氣と治と多く食へ病生じの鯉
 平毒か胃用五臓通し人
 肥し健くは鱸平に毒か氣力
 増脚強く脚氣と治と鯉魚温
 毒の毒か胃の氣調脾助け食と
 進め五藏利と鱸平して小毒有
 風去水腫治し小便通と多く
 食とばく人益か鯉温小毒
 あり胸清く脾胃調ふ多食へ
 血と動るの鵒魚平に毒か
 小便濁り或は洪つ痛小は多食
 虚補の氣力益多く食へ氣と
 動るの鯨平はく小毒の氣沈
 下陰補ふ頭風おは多食とば
 らば魚師性味形色の知と魚
 乃大あつ魚師とい小毒あり人
 殺と鯉温はく毒か胃暖の
 中と和と多食へ風熱と動る
 生じの鮭平毒か氣力と虚
 勞と補へ人肥し健おの鮫温
 とく毒か胃温の中と和と多食
 へ瘡と發と鯉性味能毒の
 知す小兒病人のあれと鯉

の食性

百廿七

温はく毒の胃の暖の痢を治す
 多食の風熱を動し瘡疥を生ず
 鯨温の毒の中を温め氣を益す食
 すとす寸鯨平はく毒の中を補
 ひ氣を益す多食の瘡を生し脾湿を
 動し接魚温の毒を積り治す虫
 を殺し氣力を益肌を潤し鯨平を
 多く毒の中を實し胃を健ます
 狂を治し痔を愈し鯨残魚平は
 多く毒の中を實し胃を健ます
 鯨平の毒はこれ食への疫病を辟
 多く食すとす鯨平はく毒を
 五藏を通し多食の風熱を助け瘡
 と生ず銀魚平はく毒の胃を補ひ
 脾を健し水を利用し肺を潤し鯨
 魚平はく毒の中を和し氣を益
 鯨平也毒の氣を下し渴を止水腫
 を治し小便を通し多食への内熱を
 生ず鯨温はく毒の胃を補ひ
 食を進め痔を愈し痢病を治す
 鯨温の毒の胃を温め冷瀉を
 治す鯨鯨平はく毒の中を益
 め多く食すとす寸海鰻平は
 毒の惡瘡を治し痔を已し多食
 すとす寸補養の功は江鰻平は
 多く毒の虚羸を補ひ勞熱を去
 り殺し血を益し鯨温の毒の
 補養の功多し諸病を害あらず
 鯨魚平はく毒の中を温め氣

○養性

百廿六

益渴^益の酒^酒を解^解と烏賊^{烏賊}
平也毒^{平也毒}の氣^氣益志^{益志}は強^強く經^經
水^水通^通と多食^{多食}の風氣^{風氣}と動^動の章^章
魚寒^{魚寒}は毒^毒の血^血を養^養ひ氣^氣と
益^益此^此の消化^{消化}かじ多く食^食とべ
う^うの海蛇^{海蛇}温^温毒^毒の女^女れ勞損^{勞損}積^積
血^血帶^帶下^下治^治小兒^{小兒}の風痰^{風痰}丹毒^{丹毒}に
は^は海參^{海參}平^平にして毒^毒の元氣^{元氣}補^補
肺^肺腑^腑潤^潤三焦^{三焦}の熱^熱去^去海
蝦^蝦平^平毒^毒の虫^虫を殺^殺諸瘡^{諸瘡}小^小じ
○鰕^鰕温^温小毒^{小毒}あり風痰^{風痰}去^去
積^積消^消陽道^{陽道}壯^壯は乳汁^{乳汁}通^通
ど^ど石決明^{石決明}平^平也毒^毒の目^目の病^病状^状
治^治精^精益風熱^{益風熱}去^去勞虛^{勞虛}補^補
淋病^{淋病}治^治魁蛤^{魁蛤}平^平に毒^毒

胃^胃強^強く食^食進^進め渴^渴止^止五
臟^臟潤^潤痢病^{痢病}治^治腰脊^{腰脊}冷^冷或^或
痿痺^{痿痺}五臟^{五臟}潤^潤痢病^{痢病}治^治
渴^渴の五臟^{五臟}潤^潤痢病^{痢病}治^治
○牡蛎^{牡蛎}温^温毒^毒の中^中補^補の虛^虛
損^損治^治渴^渴の酒毒^{酒毒}解^解す○
文蛤^{文蛤}平^平毒^毒の渴^渴止^止小便^{小便}通^通
痔^痔已^已血^血の氣^氣行^行痰^痰
消^消と女^女崩漏^{崩漏}は^は蜆^蜆冷^冷みで
毒^毒の熱^熱去^去胃^胃開^開渴^渴の小
便^便通^通濕熱^{濕熱}脚氣^{脚氣}治^治酒毒^{酒毒}
解^解○馬刀^{馬刀}寒^寒毒^毒の熱^熱除^除
渴^渴の目^目明^明は酒毒^{酒毒}解^解と女
乃^乃勞損^{勞損}下血^{下血}は^は海螵^{海螵}治^治脾
毒^毒の毒^毒散^散瘰癧^{瘰癧}治^治脾

○食性

五卅九

胃弱と毒の多し多くは... 平あり毒あり... 多く食ふ... 目乃痛... 大寒毒... 多く痛... 六腹中冷痛... あり熱... 口喝... 氣と益智... 痺痛... 氣と益不足... 補ふ鶴... 虚と補... 毒と筋骨... と治と多食... あり毒... 和... 中と補... 虚損... 人益... 班鳩... 目と明... せび... ひ氣... 児の疳... あ... ありて毒... 腹...

胃弱と毒の多し多くは...

平あり毒あり... 多く食ふ...

目乃痛... 大寒毒...

多く痛... 六腹中冷痛...

あり熱... 口喝...

氣と益智... 痺痛...

氣と益不足... 補ふ鶴...

虚と補... 毒と筋骨...

と治と多食... あり毒...

和... 中と補...

虚損... 人益...

班鳩... 目と明...

せび... ひ氣...

児の疳... あ...

ありて毒... 腹...

腹... 腹...

腹... 腹...

腹... 腹...

腹... 腹...

毒の氣は陽の氣は腰麻の暖
 め小便の縮め精は虚の女
 崩漏帯下は多食の氣の動
 ○雞溫の毒の中は泥の虚の補
 邪の道は去○雞卵平の毒は熱
 除の陰を補の風を去痺を治腎
 温の肺を潤し痲病は○他は
 毒の氣を益中を補の渴を治
 解血を流し大腸を通脾を健
 ○犬温の毒は五藏を安虚勞
 補の腰膝を温め精髓を益腎を補
 ひ腸胃を厚し○鹿温は毒の
 氣力を益虚を補の血脉を調五藏を
 強し○牛温は毒の氣を益中を安
 脾胃を養ひ腰脚を補の渴を止唾涎を止

鐵灸の要論

○然鐵の手法

鐵を行ふ時先我心ざりて正して
 病人の心とかけ念を鐵に移し外
 見るに多く人と言語せば慎み行ふ
 べ腹は鐵を刺し死の病人の左の
 脇を指り先左の脚をさし右の膝を
 立く鐵を口から左の手は病人
 の腹を窺ひて針せん○先左の
 先左の大指の角を五六呼程の
 同その穴を按て中指大指を合
 と穴の上を置右の肘を際よの鐵
 と取て穴をあけ左の中指を鐵に
 推へ食指大指を上く針を以て軽く
 然し病人の氣を隨て左右の食

指入指さしこむ さしこむ 下したと急いそ急いそ

ひわりの急いそ下したと急いそ急いそ

さりの鐵てつ留とどり元氣げんき弱じやく者もの有あり

五六呼ごろ鐵てつ出いし針はりのめめろ

ハ先ま少すく針はり出いし右みぎの手て持もつ

あ依よて引ひ離はなし左ひだりの中なか指ゆびめ針はり入いる

跡あとと引ひりし是こゝと穴あなの商あやを

○鐵法てつぽうの補瀉ほりやく

手法しゆぽうの補瀉ほりやくあり虚實きよじつの補瀉ほりやくあり

手法しゆぽうの補瀉ほりやくと云ハ先針まはり世よに口くちに含くはむ

針はりと温あたため右みぎの肘ひじ向むかふ出いし手てさ

内うちへ屈まめ大指おほゆびの先さきと前まへの方かた向むかひ

病人びやうじんの出いる氣き隨したがひ針はりと納いれ食くわ指ゆびと

添そて大指おほゆびめ和なる攪かり刺さし針はりと

入いると二三ふた分ぶ留とどめと五六呼ごろ急いそ急いそ

隨したがひ病びやう小こ隨したがひて攪かり下したと退たい退たいけ

動うごかしめ氣きと全ぜんいあめて手てと振ふひ

針はりととれ徐ゆる々と病人びやうじん吸ひ氣きに隨したがひ

ひて針はりと出いし針はりのめと按摩あんまりて

孔あなと閉しるこれ手法しゆぽうの補瀉ほりやくと云瀉やく針はり

温あたため其その終はりら右みぎの肘ひじとさ

て我われ前まへ引ひけ付つて手てされと向むかひの大おほ

指ゆびとされ向むかひ病人びやうじんの吸ひ氣きに隨したがひ

針はりと内大指うちおほゆびと漆食指しやくじきゆびと攪かり刺さし

針はりと入いると二三ふた分ぶ留とどめと五六呼ごろ急いそ急いそ

經きやうと迎むかひ病びやうに迎むかひて攪かり下したと急いそ急いそ

つ左ひだりの手てに針はりの口くちを開ひらき病人びやうじんの

呼よ氣きに隨したがひ針はりと出いし針はりのめと孔あなと

閉しる也なりこれ手法しゆぽうの補瀉ほりやくと云婦人ふじんの

急いそ急いそ男子なんしの補瀉ほりやくと云瀉やく針はり

急いそ急いそ男子なんしの補瀉ほりやくと云瀉やく針はり

婦人ノ血ノ不足ニ至ル者ハ虚實
ノ神得シハ方々補ハ有餘ノ法ニ經
氣に迎ヘ針ヲ實ニ拔レテ迎
云々又經氣に隨ヒ針ヲ虚
と濟スル者ニ隨ヒ補ハルル神
瀉迎隨ノ知ルル鍼法ヲ論ズル足
レ慎ミ詳ク其ノ法ニ述ビ六經ハ
足レ三陽ノ經ハ頭ニ起リ足ニ至ル
此經ヲ刺スルハ針師ノ指ヲ以テ經脈
摩リ上テ針ヲ刺スル經ヲモテ經氣
盛ルセシメ針芒ヲ上ヘ向ク經脈ノ進
ム逆ク針ヲ刺ス其實ニ拔左ノ手ニ
針ヲ孔ニ用シ疾ク針ヲ出シ徐ニ是
按迎テ奪ヒ義也云々○隨ヒ六經ハ
足ノ三陽ノ經アルハ針師ノ指ヲ以テ

その經ヲ摩リ下テ針ヲ刺スル
至リ針芒ヲ下ヘ向ク經脈ノ後ヲ隨ヒ
針ヲ以テ其虛ニ濟ス左ノ手ニ針
ノ穴ニ閉ク徐ニ針ヲ出シ疾ク是
と按レテ隨テ濟ス義ニ補ハルル虚
一瀉キ氣弱ク痺ニ癢ルものアルハ
補法ヲ用ヒ肥實ニ堅ク硬ク痛シ
りのアルハ瀉法ヲ用ユ

○大推ニ定ル法

大推ニ定ルハ先項ノ鬚際ニ推
奪ハ項骨ニ推トシ大推ナリ上
小推ニツケリ或ハニツ或ハ一ツ又
之のハニ推ニ去ク四推目ニ大推ニ
と三推め骨ノ大成ノ者ニ推ニ去
ク又或ハ骨ノ大成ノ者ニ推ニ去

大推と云ふは頭を振動して動く
骨と大推と云ふは云り共々考へて定む

○分寸と定む法

分寸と定むるに同指寸同身寸と云ふ二つ有
○同指寸と云ふは男は左女は右の手を用
ひ中指と三指を折屈して大指を折へ
中指の上の折目れと三指の折目の
間に取これと寸と云ふは其
此寸法は人の肥瘦ふらぐ遠ひあり
用へず 同身寸と云ふは頭の穴を頭
の寸と用ひ腹の穴を腹の寸と用ひ
堅まの堅の寸と用ひ横の寸と用
ゆ此寸法の正し用ゆべーの頭の堅の
寸に八長さの稗心を用ひて両の眉の正
中より巔を経て大推までの長さ

取その稗心と八指を折て其寸と云ふ
寸と云ふは頭面の横の寸の内角より外
角までを寸と取て寸と寸と云ふは面
部の穴と末の穴の堅横共おはす寸と用ひ
○手れすは曲池より肩髃まで寸と
と云ふはそれ寸に折その寸と寸と
一肩より肘までの寸に用ひ又肘の
内裏の横文より腕の横文までの
寸と取寸に折く其寸と寸と寸と
より寸と寸に用ひ胸腹の堅の寸
は鉄盆より鳩尾まで九寸と用ひ
胸の堅の寸と云ふは又鳩尾より臍まで八
寸と云ふは腹の堅の寸と云ふは胸腹の横の
寸に八両の乳頭の寸と寸と寸と寸と
腹の横の寸と用ひ○脇の寸と用ひ

一尺二寸これと脇の寸用
 の肋骨の終り腋と腰との間の
 横の紋を六寸これと弱腰の寸用
 の背の寸は大椎より下長強の終り
 二十一節長二尺これと背の寸用
 の横の寸は両乳の間八寸して是と
 用や股脛の寸法は腰と股との関節
 の横紋より膝脛の外角折目の横の紋
 まで一尺九寸これと外股の寸用や又
 陰毛の生際に横の大骨あり横骨と云
 それより膝脛の内角の丸骨の上廉
 まで一尺八寸これと陰股の寸用や又
 膝脛の外角の折目の横文より外踝の
 下廉まで一尺六寸これと膝より踝ま
 での外側の寸用や又膝脛の内がど

○五臟六腑内系之圖



九之膏の下廉より内踝の下廉まで一尺三寸是より膝より踝まで一尺四寸は寸に用ゆの足の掌大指の末より跟れ角まで一尺二寸横れ廣四寸是より足の末の寸は一尺二寸

○五藏六府之圖



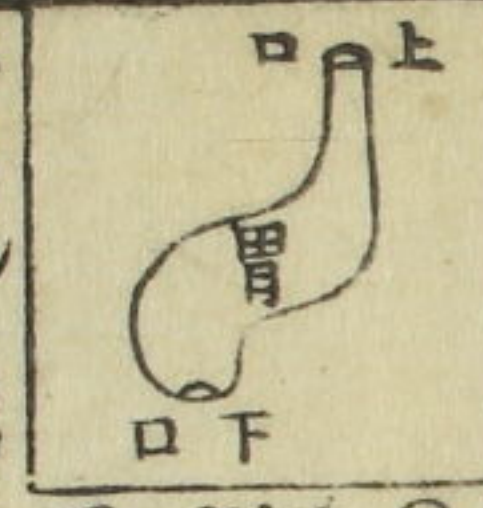
肺管 肺の脊第三の椎に附其形六葉兩耳共八葉四方垂て中に二十四の空あり相傳の官はく治節と出諸藏の氣とめぐす



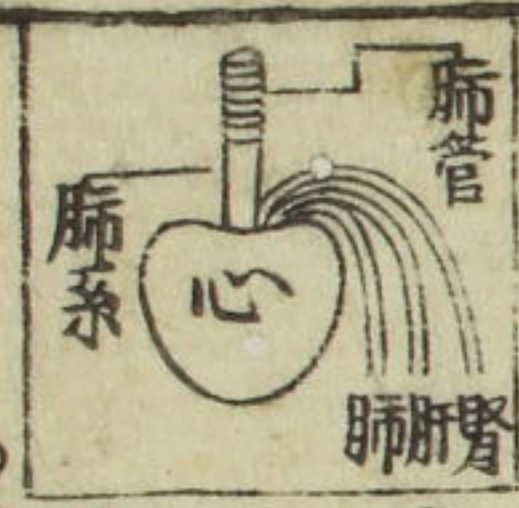
大腸 大腸の臍に當り左に廻り十六曲傳道の官はて變化するく主り廣腸直腸と經り肛門より大便と出と



脾 脾は胃と膜と向りて胃の上の左に附る形刀鎌の如く十二の推れ下に當り倉廩乃官ありて五味と出り水穀と消く四藏と養ふ



胃 胃の上口は贛門といふ上腕に當り下口は幽門といふ下腕に當り中の中腕に當り倉廩の官はく五味と出り水穀氣血乃海とす



心 心の肺管の下膈膜の上ありて脊の第五の椎に附其形尖圓はく蓮蓬の如くその中に竅の多し同くは四ツありて系ありて通る君主の官ありて

神明

神明の出入り

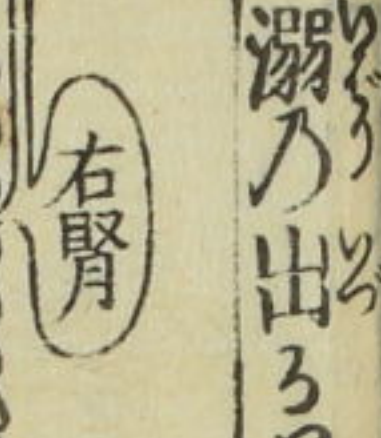


小腸の上下の脈は二三寸あり則ち胃の下口あり小腸の下口は則ち大腸の上

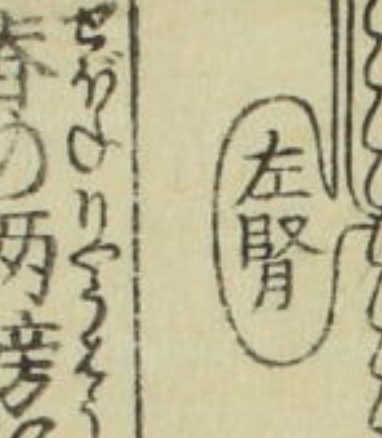
口ありこれに闌門と云後背の附前へ臍の上に附左を廻り疊積して十六曲受盛乃官はく化物を出し大小便は此から出せしむるなり



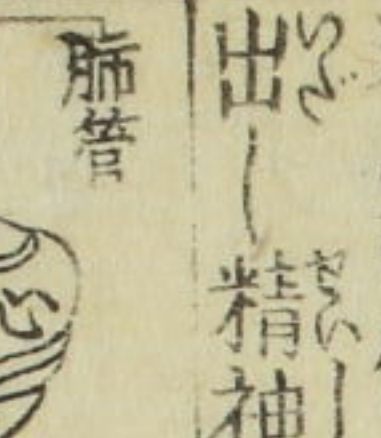
膀胱は十九乃推ふ當り腎の下大腸の前は下口あり上口のあり小腸の下口は則ち膀胱の上際あり州都れ官は津液を藏じ小腸より別ち出せしむる水液膀胱の上際より滲入し小便となり出せしむる下口は前陰ありありて溺乃出るといふなり



右腎は兩枚ありて一四の推乃下兩方あり其形如豆の如くはく相並み曲つて



左腎は兩枚ありて一四の推乃下兩方あり其形如豆の如くはく相並み曲つて



心包絡の心と包乃膜あり心下横の膜は上豎の膜の下ありその形細く筋膜有と糸のじし心肺と相連る位相火はその所檀中に當る臣使の官はく言樂

上焦	中焦	下焦
胃	脾	腎
胆	胃	腎
肝	脾	腎
肺	脾	腎
心	脾	腎
小腸	脾	腎
大腸	脾	腎
膀胱	脾	腎
三焦	脾	腎
五藏	脾	腎
六府	脾	腎
宮	脾	腎
衛	脾	腎
經	脾	腎
絡	脾	腎
脈	脾	腎
氣	脾	腎
血	脾	腎
津	脾	腎
液	脾	腎
汗	脾	腎
淚	脾	腎
涕	脾	腎
唾	脾	腎
便	脾	腎
溺	脾	腎
汗	脾	腎
淚	脾	腎
涕	脾	腎
唾	脾	腎
便	脾	腎
溺	脾	腎

三焦は人の三元の氣を總て五藏六府宮衛經絡内外上下の氣を主する決瀆

入官

水道の出るところあり



○膽ハ肝の短葉に附る
中正の官にして物入るる

決断

肝



○肝ハ胸の下に有上脊の
九の推ひ下に附左三葉右
四葉九て七葉その系上肺

絡小將軍の官にして謀慮を出し藏

夫五味ハ口に入胃を納るは是

とら消し脾胃を渡せば則ち是

藏六府を散る也五藏は其の味

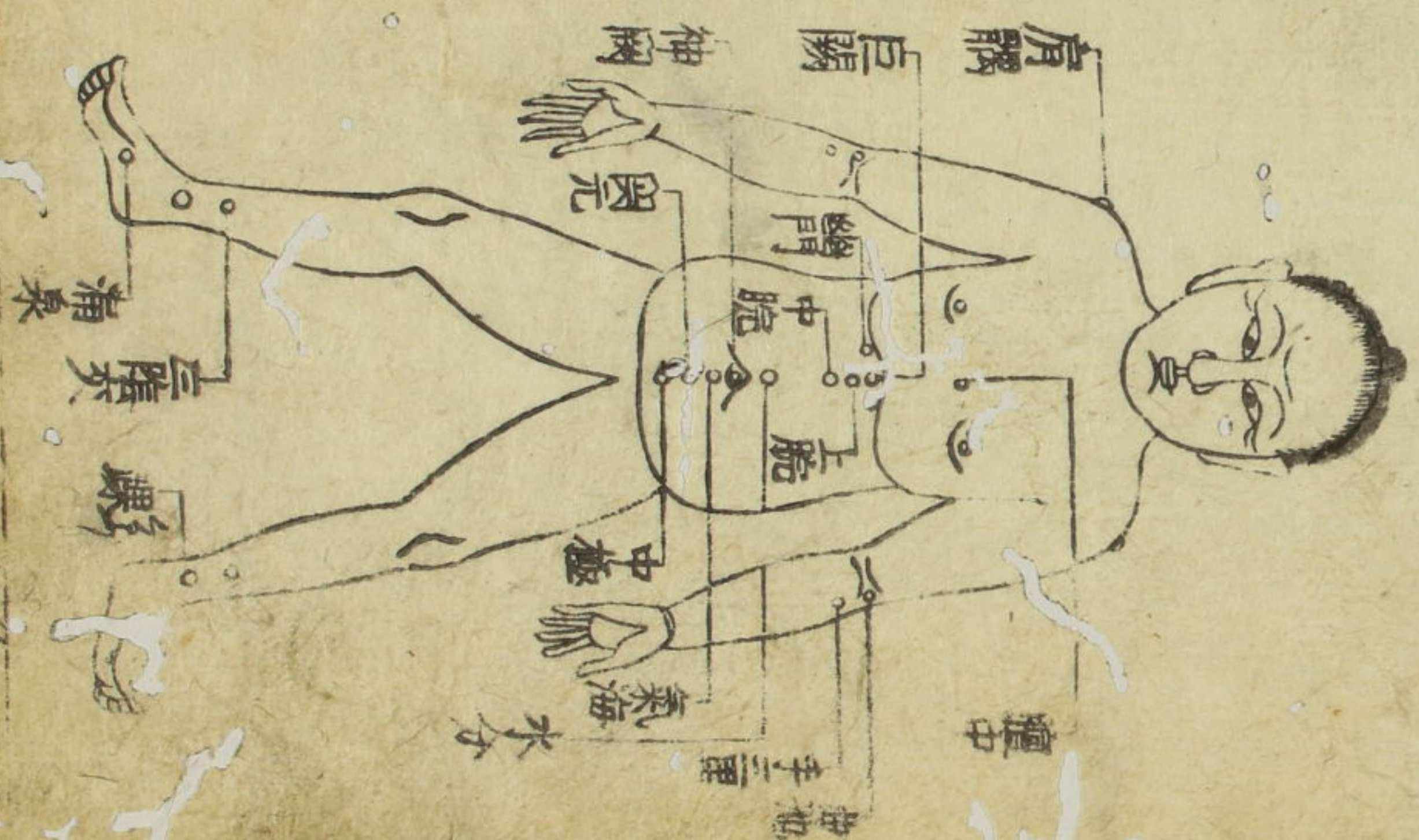
は酸を好む肝は酸を好む心は苦

を好む脾は甘を好む肺は辛を好む

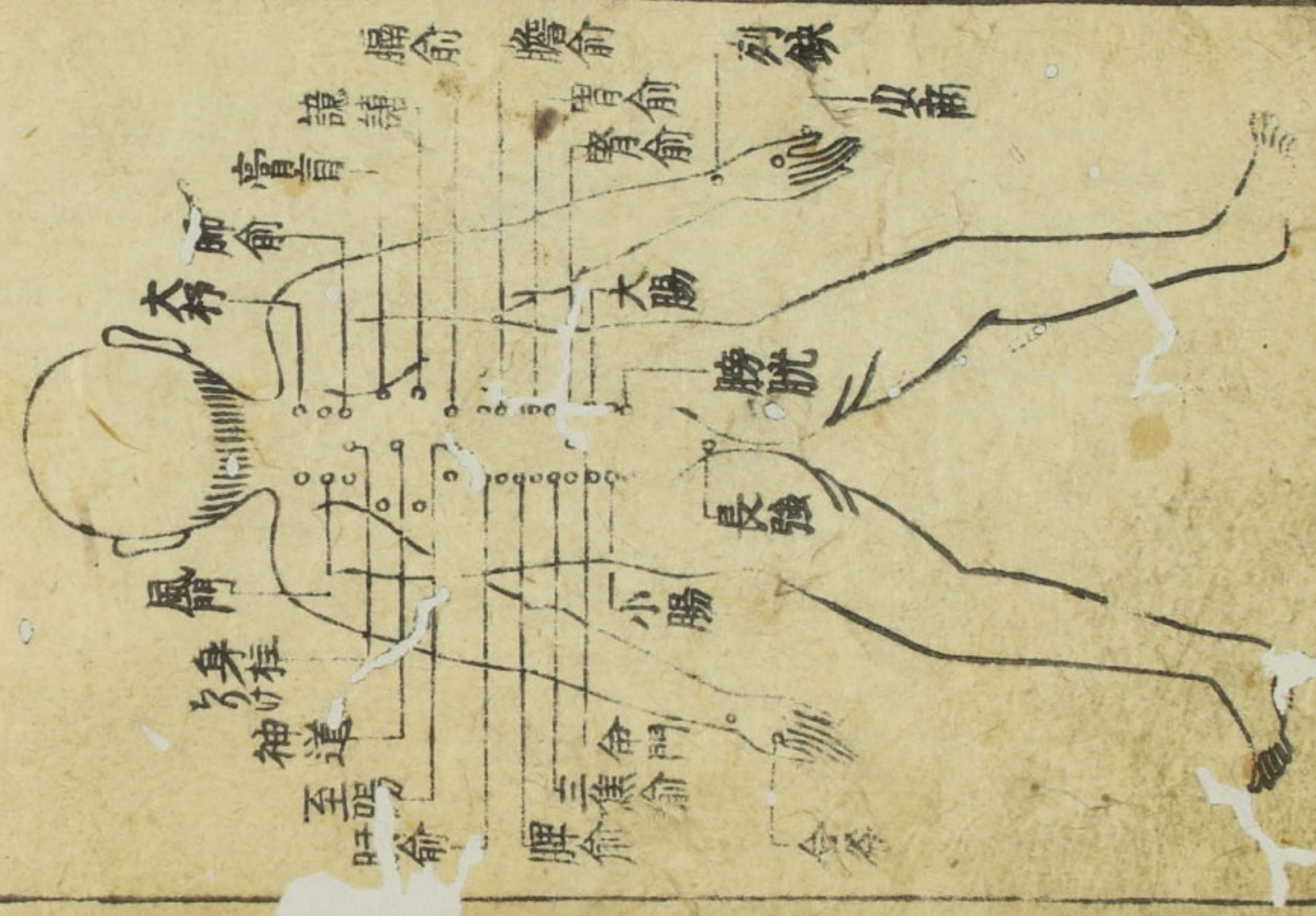
腎は鹹を好む此の病者の嫌ひ

好む味を因て五藏の病の發處を知べ

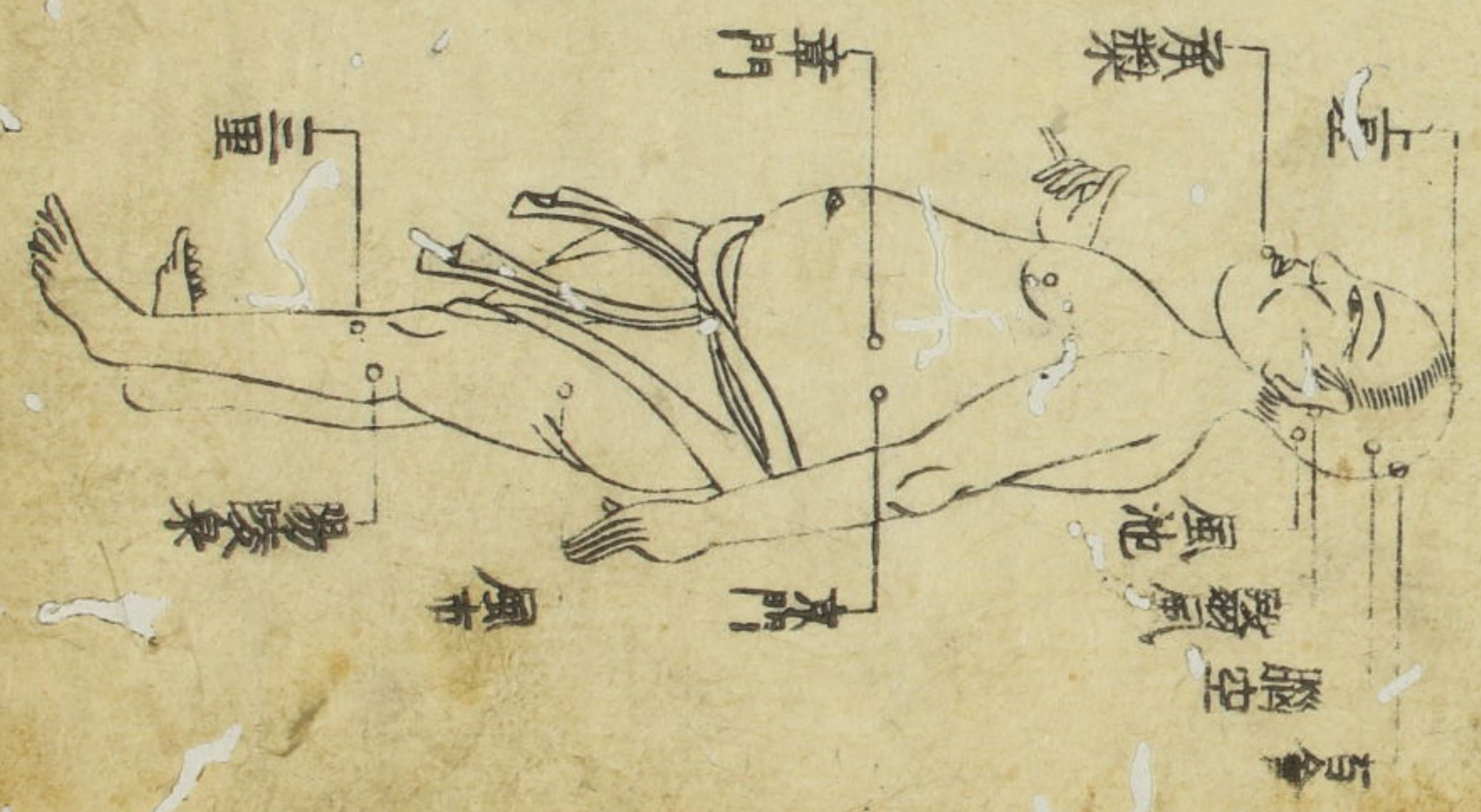
○仰人之圖



伏人之圖



側人之圖



○鍼灸の要穴

○頭面の部

百會一穴 鼻筋の通り前の髮際より五寸巔の正中也。中風口噤半身遂或頭痛眩暈治と頓死の者灸かゝる。どこれ灸と。腕肛ふ妙。鍼入る三分灸五壯。○上星一穴 鼻筋の通り前の髮際より一寸上の頭痛或は頭腫鼻骨の痛治と。鍼入る三分灸五壯。○腦空二穴 烏睛の通り前の髮際より五寸半上あり項強り頭痛耳鳴鼻衄目眩心悸治と。針五分灸三壯。○翳風一穴 耳の尖の後の下角に陷る中にある耳痛と鳴るひの聞へど中風口喎と頬腫痛治と。針入る七分灸七壯。○

風池二穴 耳の下面の通り腦空に穴の後陷る中にある。腦痛項強り面腫目昏眩目痛頭痛鼻血治と。針七分灸七壯。○承漿一穴 下唇の赤肉の少下れ正中とら也。中風口眼喎面腫口齒の瘡治と。治す虫歯に也。針三分灸七壯。り七七壯は

○胸腹の部

檀中一穴 兩乳の間正中に通り陷る中ふりの。肺癰咳嗽上氣不食胸中氣塞治と。針入禁穴。灸七壯。○巨闕一穴 鳩尾の下一寸あり。上氣噎逆一切の心痛痰飲腹滿痛治と。在証沈主と也。刺六分灸七壯。り七七壯。○幽門二穴 巨闕の兩傍各五分あり

吐逆泄瀉痢病膿血下腹脹氣
 逆食下らるる治と針五分
 灸五壯○上腕二穴關乃下一寸のり
 心中煩を熱腹脹食と能
 霍乱吐利喉中鳴泄瀉嘔吐心悸
 積聚の治刺八分灸二七壯
 百のり○中腕一穴上腕の下一寸臍の
 四寸上あり飲食化せ腹脹痛
 吐逆泄瀉痢病心痛霍乱瘧疾疝氣
 積の治針八分灸二七壯より百壯
 小至る○水分臍の上一寸のり
 水腫淋病腹痛小腹鳴痛脹治
 と針五分灸七壯より百壯あり
 ○神関一穴臍乃正中の中風卒に倒
 して甦らるる或臍の廻り大ふり

水腫脹滿腸鳴治小兒驚癇疝
 脫肛治と針禁穴灸七壯より
 百壯小あり○氣海一穴臍乃下一寸五
 分にあり藏氣虚一箇は腹脹痛
 疝氣積聚婦人の崩漏帶下一切元氣
 乃虛脱治と針五分灸百壯○関元
 一穴臍の下三寸に有小腹痛と小便
 通せ淋病或小便白濁り或ハ
 小便頻く泄瀉痢病久く愈す腹
 乃痛積塊リ疝氣及婦人の帶下
 月經通せと治と針八分灸百
 壯より三百壯あり○中極一穴臍の
 下四寸にあり淋病小便赤痛
 臍の下積塊り腹脹小便通す婦
 人の帶下月經通せ或ハ産後胎衣

下らざる或ハ惡露止らんと治す。針八分
灸百壯。○天樞二穴。臍の正中より去り左
右各二寸ののり。泄瀉痢病嘔吐霍亂
瘧疾氣積聚肢痛肢脹食化せず婦
人の崩漏帶下血塊を治す。針五分
灸百壯。○章門二穴。臍の上二寸八分兩
旁へ去り各八寸五分肋骨の末にあり
下足と伸上足と屈これより
腸鳴食化せず。脇肢痛。腰脊痛と
嘔吐喘息水腫泄瀉積聚疝氣を治す
針六分灸百壯。○京門二穴。俗ハ後章門
と云。章門の後季脇の本陷の中にある
腰脊痛と肢脹腸鳴小肢痛と小便澀
肩脊痛を治す。針三分灸三壯

○背腰の部

○身柱二穴。俗ハこれ散氣と云。三の椎
の下四の椎の上のあり。癲狂胸熱
口喝喘息頭痛嘔吐物出と并に小兒
の驚癇を治す。針五分灸七壯。り百
壯。○神道二穴。五の椎の上のあり。
頭痛目昏。腰脊痛。強り寒熱往
來熱喘瘧驚風を治す。針八禁穴或ハ五
分灸七壯。り七々壯。○至陽二穴。七
の椎の下八の椎の上のあり。熱病瘧疾
出と腰脊痛。中寒と食せざるを治
す。針五分灸三壯。○命門二穴。十四の椎
の下十五の椎の上のあり。頭痛破く如く
身熱。のり。火の如く腰股痛。骨蒸
勞熱小兒の驚癇を治す。針三分。灸三
壯。○長強二穴。尾の推端大便道

上陷る内けり。腰脊強り痛く下
 血泄瀉痔漏脱肛治之。針三分灸三
 十壯。ろ二百壯おぢ。○大杼二穴の推
 り下脊の正中より左右去各二寸
 陷る中けり。頭痛と頂強り脊痛と
 目眩喉痺脇滿咳嗽傷寒汗出治之
 治之。針三分。灸祭穴急証お五壯。○
 風門二穴の推り下左右各二寸けり有
 ・頭痛頂強り鼻塞り目昏血咳嗽
 喘息嘔逆胸背痛及び表弱くして
 風受やす。治之。針五分灸五壯。○
 三七壯おぢ。○肺俞二穴三の推り下
 左右各二寸けり俗にこれ狭膏盲
 といふ胸滿痛と脊僂り脊強り嘔
 吐不食瘦黃疸咳嗽喘息骨蒸勞
 瘵治之。針三分。灸百壯。○膈俞二穴

七の推り下左右各二寸けり。心痛と
 不食吐逆痰飲脇肩痛治之。針三
 灸三壯。○肝俞二穴九の推り下左右各二
 寸けり。脇痛と支逆不食眼病吐血
 肩腰痛と黃疸目眩疝氣筋攣り怒
 やす。治之。針三分。灸七壯。○膽俞二
 十の推り下各二寸けり。頭痛目黄と
 心脹咽痛痰飲吐逆食下り治之。食
 化せと勞熱治之。針五分。灸七壯。○
 脾俞二穴十一の推り下左右各二寸けり有
 ・黃疸水腫吐瀉と瘧痢病積聚腹痛
 多く食下れととろと瘦或は食化せ
 る或は不食と治之。針三分。灸三壯
 ○胃俞二穴十二の推り下左右各二寸有

腸滿脊痛肢脹嘔吐不食霍亂吐瀉筋攣るを治す。針三分灸五壯

○三焦の俞二穴十三の推入下左右各三寸あり。腰脊痛強り肢脹痛吐瀉食化せし積聚痢病腸鳴を治す。

針五分灸五壯○腎俞二穴十四の推入下左右各二寸あり。腎虛淋病小便濁り耳聾目昏腰膝急痛手足冷泄痢遺精小肢痛骨蒸勞熱を治す。

針三分灸百壯○大腸の俞二穴十六の推入下左右各二寸あり。肢脹痛腸鳴二便通せし或泄痢不食腰痛脊強るを治す。針三分灸三壯○小腸

の俞二穴十八の推入下左右各二寸あり。小便澀り赤く大便通せし或泄痢膿血痔漏疝氣腰痛脊強り婦人の帶下を治す。針三分灸三壯○膀胱

の俞二穴十九の推入下左右各二寸あり。淋病遺精泄瀉痢病或大便通せし腰痛婦人の前陰痒を治す。針三分灸七壯○膏肓二穴

推入下脊正中より左右各三寸五分あり。即五の推入近く四の推入遠くより谷廣膏肓といふ

兩の臂尾を合して一とす。五勞七傷虚損勞瘵遺精夢遺咳逆痰火癩狂健忘男女一切の病を治す。灸百

より二百壯灸後足三里に灸火實を引下す。○臆瘧

三里に灸火實を引下す。○臆瘧二穴六の推入下左右各三寸五分あり

目眩鼻血肩背痛、急肢張脇痛、
瘰癧、針六分、灸二十七壯、り百壯
みん

○手れ部

肩髃二穴、肩の端の肩骨と臑骨との
つひの臂を伸く上りて、陥じこころ
あり、中風半身遂る、肩臂の筋骨
痠痛、て拳らざる、治と、針一分
灸三壯、り七壯、り、○曲池二穴、肘を
屈て、折め横紋の頭と曲る骨との
間あり、大指の通り、み當る、中風半
身遂る、肘瘦痛て、拳らざる、筋緩り
と伸屈する、臑肩痛、或は身は小
瘡あり、治と、針七分、灸七壯、○手三
里二穴、曲池の下、三寸、れ、按、肉起る

肘あり、手先を下り、霍乱、中風半
身遂る、口噤、手臂痠痛、拘
挛伸と、齒痛、頰頰腫、瘰癧、治と
針三分、灸三壯、○合谷二穴、手れ大指と
食指との岐骨の間、陷あり、中、按、臂
みこころあり、頭痛、面腫、目痛、
鼻血、耳鳴、舌裂、齒痛、喉痺、小兒の
驚風、婦人の經閉、治と、針三分、灸
三壯、○列缺二穴、腕の上的側、大指と
食指との岐、兩れ手、入、交、く、食指の
頭の當る處あり、則ち、取骨の解めあり
中風半身遂る、口眼歪、口噤、め、或は
肘痛、頂強り、喉痺、咳嗽、小兒の驚風、
治と、針二分、灸三壯、○少商二穴、大指
の内の側、髮の生際、角、去、と、一分

ふかりのり小指の方より大指の方
方より内より胸中の氣滿咳嗽喘息肩
背の痛癢を治し喉痺の此穴より血
出せぬ效あり針一分灸八禁穴

○足の部

風市二穴身を正直みし立く両手より外
腿へ垂し中指の頭を當る処兩筋の間
脂ある中けり腰脚痠痛足脛直し
痺通脚氣中風半身のろを治せ
針五分灸二十壯より百壯ある○陽
陵泉二穴膝を屈く外側膝胸の折目の
頭より假ふ墨を付しそ足を伸しそと
の墨より下一寸にあり膝強り或は伸
く屈らず痺と痛し脚氣中風半身
遂ごと一切の筋の病を治し針六分

灸七壯より七壯あるのり三里二穴
臑骨の外側膝蓋の下三寸臑骨の筋
との間隙より中けり俗に三里と云
頭重目眩脇症腹脹水腫便血上氣
咳嗽泄瀉痢病霍亂積聚癱心腰痛
小便通せしと食を進め食と消し胃の
氣虚弱五勞七傷を治し上灸一
寸下灸二寸のり三里灸七壯後
ハ此灸を欠くらず針五分灸七壯より
百壯或は二百壯あるのり二陰二穴内
踝の上三寸胛骨のの内側を骨筋
との間隙の中けり俗に下三里と云
膝の内角痛し小便利せし身重く足
痿肢脇の泄瀉食化せず疝氣陰
莖の婦人の崩漏帶下を治し針

三分灸三壯、り二壯、ふのり、湯
泉、充足、の掌、比、裏、足、と、仰、指、捲、
屈、ひ、と、足、の、心、に、自、か、し、陥、ひ、こ、り、有、
これ、と、充、ん、ん、腰、痛、と、大、便、結、心、痛、
と、目、眩、喉、痺、と、治、せ、何、三、分、灸、三、壯、
右、針、灸、行、ふ、と、風、に、お、ろ、ろ、と、す、
窓、際、と、い、ふ、こ、ろ、に、

○加減の例

諸病と治るるに、寒熱虚實を
察して各主方と擇用ゆべ、或
ハ雜証と兼るものハ本方と某品と
考へ兼証と治るる力少るとき時ハ其
証に隨つてこれと加へ其力と添へ
その証に於て或る薬味わくは是
と去へ然るをとも根りハ加減す

古人法と云ふるの意と失ハ或ハ君臣

佐使の義奇偶の數と乱らさずと

●頭痛ハ川芎白芷と加ふ

兩の鬢痛ハ柴胡黃芩川芎

額ハ正中痛ハ外麻葛根石膏白芷

頭項ハ邊痛ハ川芎羌活葛根

頭頂痛ハ藁本細辛と加ふ

眉の稜骨痛ハ羌活白芷黃芩

左一方痛ハ柴胡生地黃川芎

右一方痛ハ黃芪葛根白芷と加ふ

血風ノ頭痛ハ當歸川芎

氣虛ノ頭痛ハ人參黃芪天麻

氣鬱ノ頭痛ハ川芎白芷香附子

風痰ノ頭痛ハ荆芥天南星

痰厥ノ頭痛ハ半夏藁本生姜

風熱の頭痛の荆芥薄荷の如く

湿熱の頭痛の蒼朮黄芩の如く

頭風の細辛薄荷薤白蒼朮防風の如く

●熱の柴胡黄芩の如く

實熱の黄芩黄連大黃の如く

虚熱の人参黄芪生甘草白朮

肌肉の熱の外麻黄夏麻黄の如く

血熱の生地黄牡丹皮芍薬

心火と去の黄連生地黄の如く

肺火と去の黄芩桑白皮

脾火と去の芍薬黄連の如く

肝火と瀉の柴胡山梔子龍膽

腎火の知母黄柏地黄の如く

火爵の外麻葛根羌活芍薬

●熱の附子山梔子の如く

●熱汗の石膏地黄知母

●熱汗の石膏牡丹皮地骨皮

●骨蒸の知母牡丹皮地黄の如く

●咽渴の因の葛根天花粉麦門

●津液乾の咽渴の人参烏梅

●心煩の渴の茯苓烏梅天花粉

●酒熱の渴の葛根黄連烏梅

●惡寒の風寒表の麻黄防風

●湿の因の惡寒の麻黄

●熱の因の柴胡の寒の肉桂

●寒の因の懷ふの桂枝の如く

●咳嗽の風寒の麻黄杏仁

●風熱の杏仁桑白皮の如く

●肺熱の黄芩桑白皮の如く

●肺寒の五味子乾姜の如く

久敗止り五味子烏梅加ふ

痰少くハ湿痰ハ半夏ハ燥痰ハ

瓜蒌貝母ハ風痰ハ天南星ハ痰滯

方ハ枳殼ハ肺虛ハ人参ハ黃芪

肺氣ハ收ハ五味子ハ烏梅ハ柯子

咽痛ハ桔梗ハ甘草ハ肺熱ハ黃芩

風熱ハ桔梗ハ荆芥ハ薄荷ハ加ふ

風痰ハ羌活ハ桔梗ハ天南星ハ加ふ

風熱腫毒ハ牛旁子ハ黃芩ハ桔梗ハ甘草

相火ハ上ハ玄參ハ黃柏ハ加ふ

胸痞塞ハ實ハ枳實ハ厚朴

虛ハ芍藥ハ連皮ハ濕熱ハ黃連ハ沢瀉

痰ハ前胡ハ痰熱ハ半夏ハ復黃連

痰氣ハ枳殼ハ棗椰子ハ加ふ

氣滯ハ青木香ハ香附子ハ枳殼

食ハ蒼朮ハ神麩ハ山查子ハ枳實

嘔吐ハ寒ハ丁香ハ半夏ハ加ふ

熱ハ黃連ハ葛根ハ痰ハ半夏ハ復生薑

胃寒ハ丁香ハ陳皮ハ藿香ハ加ふ

胃虛ハ人参ハ白朮ハ縮砂ハ烏梅

飲食消ハ縮砂ハ青皮ハ加ふ

肉食ハ山查子ハ草果ハ魚類ハ椒檜

穀食ハ神麩ハ麥芽ハ麵類ハ本ハ

瓜菓ハ類ハ青皮ハ乾姜ハ肉桂

酒毒ハ黃連ハ葛根ハ烏梅ハ枳實

水漿ハ類ハ米麩ハ下

腰痛ハ腎虛ハ破胡ハ紙ハ杜仲ハ牛膝

冷ハ肉桂ハ龜甲ハ濕熱ハ知母ハ茯苓

氣滯ハ乳香ハ青木香ハ加ふ

血滞りには延胡索桂心桃仁

●腹痛の熱はく痛(黄芩芍薬)

寒の良姜肉桂吳茱萸を加ふ

食積の神麴山豆麥芽を加ふ

痰の杜仲杜松紅花を加ふ

氣痛の香附子木香を加ふ

血痛の當歸川芎延胡索

虫痛の莪朮青皮蕪夷仁枳榔子

●泄瀉。湿熱の蒼朮黃連を加ふ

湿の茯苓蒼朮沢瀉猪苓

食の蒼朮神麴縮砂山查子

水れ如く瀉の滑石を加ふ

脾胃の虚の白朮山藥茯苓人參

腎瀉の吳茱萸五味子を加ふ

久く瀉元氣脱る少の柯子肉豆蔻

烏梅益智蓮肉。寒の乾姜

●胸痛。寒の因く痛の乾姜肉桂

枳山梔子共連。痰の枳殼半夏

氣滞の烏藥木香香附子枳殼

冷氣の茴香姜黃を加ふ

血氣の乳香沒藥を加ふ

瘀血の桃仁莪朮延胡索を加ふ

虫の五靈脂枳榔子苦楝根使君子

●脚痛の風湿の枳榔子木瓜

湿熱の木通防己蒼朮黃柏

寒湿の吳茱萸生薑蒼朮肉桂

腎虚の牛膝加ふ

●小便溢るの滞り通一穴の利

の瞿麥車前子木通滑石

下焦の湿熱の知母黃柏茯苓沢瀉

氣の下陷に外麻柴胡を加ふ
轉脬より附子沢泻或は沉香木香

●大便結 實熱のハ大黃牽牛子
血虛のハ燥のハ麻仁桃仁

氣の導 沢瀉煑榔子
虚のハ黄芪陳皮人參枳殼を加ふ

●眩暈のハ風虚のハ天麻白朮
風痰のハ天南星半夏 血虚のハ

當歸川芎 氣虚のハ人參黄芪
●痰飲 湿痰のハ半夏陳皮茯苓

風痰のハ天南星白附子
燥痰のハ貝母阿膠瓜蒌仁

痰壅のハ枳殼厚朴桔梗
氣痰のハ煑榔子枳殼陳皮

●喘急 風寒表のハ麻黄杏仁

痰のハ半夏紫蘇子
肺氣の泻のハ白皮枳實

虚のハ人參阿膠五味子
●健忘 痰熱のハ茯神黃連牛黄

心氣の補のハ遠志當歸石菖蒲
●物に驚くハ心と鎮のハ黄連辰砂

心氣の虚のハ遠志酸棗仁茯神
怔忡のハ心血の虚のハ當歸生地黃

心氣の補のハ遠志茯神
汗証のハ氣虚のハ桂枝芍藥黄芪

血虚のハ當歸生地黃 虚勞のハ牡蠣黄芪
盗汗のハ氣虚のハ牡蠣酸棗仁

●小便頻るのハ虚熱のハ黄柏茯苓
虚寒のハ益智蓮肉五味子

腎虛之破胡紙茴香山藥加

小便赤之黃柏知母之

濕之猪苓沢海茯苓虚之麥門冬

筋之木瓜薏苡仁

脇痛之肝火之山梔子柴胡加

肝之積之青皮柴胡龍膽之

血積之當歸大黃之氣之木香

積塊之實之三稜莪朮枳榔子

虚之者之枳殼陳皮當歸尾

左之有之血之塊之牡丹皮延胡索

右之食積神麩麥并枳殼山查子

正中有之痰氣之枳實半夏

塊之脇之青皮枳榔子

腹脹之脾胃之白木陳皮

食滯之枳實山查子蒼朮厚朴

氣之行之香附子枳榔子

身冷之少乾姜肉桂當歸加

手足冷上之附子于姜肉桂

上氣之香附子陳皮山梔子

身痛之羌活蒼朮防風加

風邪之此藥羌活防風

寒邪之于姜肉桂甚之附子

暑氣之香薷白扁豆厚朴

湿之身重羌活蒼朮防已用木通用

脾胃之湿之半夏茯苓蒼朮

不食之木香白木藿香縮砂

足乏力之牛膝杜仲防已加

足冷之沉香肉桂加

●諸葉（葉）下へ行ふ（葉）黄栢木（葉）通防（葉）
 加ふ（葉）頭額（葉）や（葉）の（葉）川（葉）其（葉）面（葉）や（葉）の（葉）
 防風（葉）胸（葉）の間（葉）行（葉）み（葉）枯梗（葉）腰膝（葉）の（葉）
 分（葉）行（葉）へ（葉）牛膝（葉）兩（葉）の手（葉）行（葉）み（葉）桂枝（葉）
 加ふ（葉）藥（葉）と（葉）瘡腫物（葉）乃（葉）所（葉）行（葉）み（葉）
 皂角刺（葉）加ふ（葉）石加味（葉）の（葉）大概（葉）記（葉）
 どの（葉）宜（葉）く（葉）氣血（葉）の（葉）虚實（葉）風寒（葉）濕熱（葉）
 之（葉）ら（葉）明（葉）ら（葉）め（葉）く（葉）これ（葉）用（葉）也（葉）又（葉）前（葉）ふ（葉）
 出（葉）と（葉）所（葉）の（葉）葉性（葉）と（葉）覺（葉）へ（葉）請（葉）む（葉）る（葉）を（葉）
 何（葉）乃（葉）証（葉）と（葉）治（葉）と（葉）ら（葉）め（葉）と（葉）通（葉）ず（葉）ら（葉）と（葉）云（葉）と（葉）
 此加減（葉）の（葉）例元（葉）小兒門（葉）の（葉）次（葉）記（葉）と（葉）之（葉）共（葉）
 煎劑調合（葉）の（葉）難尋（葉）に（葉）て（葉）今（葉）卷尾（葉）
 小著（葉）と（葉）換用（葉）と（葉）便と（葉）醫道重寶記終（葉）

延享四年卯年十一月吉日

京寺町松原上丁

菊屋 七郎兵衛

江戸通本町三丁目

西村 源 六

大坂心齋橋順慶町

柏原屋清右衛門

刊行

